

---

和歌山県

# 防災教育指導の手引き

---

平成 25 年 3 月  
和歌山県教育委員会

## はじめに

平成23年3月11日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生しました。また、同年9月に台風12号による紀伊半島大水害が発生し、和歌山県では6名の子どもたちの尊い命が失われました。誠に痛恨の極みであります。そして、自然の猛威に対していかに人間は無力かということを知り知らされました。しかし、自然に対して無力な私たちではありますが、命を守るための知恵があります。自然災害についての歴史や今回の大災害を経験した人たちから多くのことを学び、いつ発生するか分からない災害から命を守る知恵をしっかりと身につける必要があります。

岩手県釜石市では、群馬大学大学院片田敏孝教授の指導を受け、市内全小中学校で以前から高台へ逃げる避難訓練を、想定を変えながら何度も実施していました。また、まち探検・マップづくり等を通して普段からどこに避難すればよいのか、体で覚える学習をしていたのです。

今回の地震が発生したとき、津波の危険が迫っていると判断し、中学生が高台へ向かって率先避難を始めました。そして、校舎上階に避難していた小学生もその姿を見て高台へ避難し始めたのです。自分の命は自分で守る「自助」の行動力が身につけていたからこそできたと言えるでしょう。

南海トラフ地震が起きれば、津波の被害が想定される和歌山県においても、こうした取組に学び、実践していかなければなりません。それには、災害に備え、子どもたちが主体的に動くとする知識・判断力・行動力を身につけるための学習・訓練を行うことが大切です。そのため、まず先生方自身が真剣に防災と向き合い、子どもたちと共に考え行動する姿勢を示すことが求められます。そして、避難3原則「想定にとらわれるな」「状況下において最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を浸透させ、子どもたちに自らが命を守る主体者としての自覚を持たせなければなりません。

このようなことから、片田敏孝教授の協力のもと、平成23年12月に地震・津波からの避難行動に結びつく内容に重点を置いて「津波防災教育指導の手引き」を作成しました。また、平成24年度は「わかやま学校防災力アップ事業」の中で、地方毎に研究グループを立ち上げ、手引きを活用しながら地域性を考慮した防災学習を実践してきました。さらに、群馬大学片田研究室の支援を受けながら新宮市では、活用しやすい教材の開発にも努めてきました。これらの実践を踏まえつつ、今後地震・津波の防災学習だけでなく、様々な災害から命を守るための防災教育を展開・充実させるために、この度名称を「防災教育指導の手引き」と改め、改訂版を作成しました。

和歌山県の子どもたちの命を守るため、全ての先生方がこの指導の手引きを活用し、熱意と指導力を持って防災教育に取り組まれることを切に願います。

平成25年3月

和歌山県教育委員会

教育長 西 下 博 通

# 目 次

1 本手引きの取扱について .....	1
2 学年別・教育目的別防災教育カリキュラム .....	2
小学校1・2年生 .....	3
小学校3・4年生 .....	15
小学校5・6年生 .....	20
小学校タウンウォッチング・防災マップづくり .....	30
中学校 .....	34
各地方指導事例及び参考指導事例 .....	47
3 広川町立広小学校の実践 .....	76
4 資料一覧 .....	88
5 防災関連ホームページ一覧 .....	94

## ヒーロー オブ ジャパン ～ハマグチ～

「いなむらの火」の物語は、多くの国々でも紹介されています。

イギリスのメードストーンにある小学校では、世界の偉人を学習し、その中で濱口梧陵が「ヒーロー オブ ジャパン」として詳しく紹介されており、小学生が熱心にその偉業を勉強していたそうです。

またアメリカ・シアトルのビーコンヒルにある第13消防署では、日本と同じように小学生が社会見学をし、署内の見学が終わると、署の前の庭園に移動します。そこには、多くの石でできた芸術作品があり、その石の一つ一つに「いなむらの火」の物語が彫られています。子どもたちはそれを読み、津波防災の意識を高めています。



防災教育に「いなむらの火」を取り上げるときの参考としてください。

防災教育に「いなむらの火」を取り上げるときの参考としてください。

JUST AS THEY REACHED THE TOP, THE  
WAVE BROKE UPON THE SHORE.

# 1 本手引きの取扱について

## ●「自分の命は自分で守る」主体性を育むための「姿勢の防災教育」

本手引きは、地震や津波から自らの命を守るための知識・判断力・行動力を身につけさせることに視点をあて作成しています。これらの学習を通して、子どもたちの「自分の命は自分で守る」という姿勢を育むことが防災教育の目的です。

## ●求められる教職員の熱意と指導力

子どもたちの「自分の命は自分で守る」という姿勢を育むためには、教職員の防災教育に対する熱意と指導力が不可欠です。担当学年だけでなく、全学年の学習内容を見通しながら、共通理解をした上で指導してください。

## ●23・24年度用の指導の手引きを改訂

平成24年度は、新宮市をモデル地域として、平成23年度と24年度用の指導の手引きをもとに、実践的取組を行いました。本手引きは、その実践事例を踏まえた改訂版です。なお、本手引きは、完成版ではありません。今後も県内各地で継続的に防災教育を実践していき、その結果を反映させた改訂を行っていく予定です。

## ●掲載資料は、すべて資料DVDに収録

掲載している資料（ワークシート、写真、グラフ等）は、各校に配布している資料DVDに収録しています。拡大印刷やスライド、パワーポイント等で活用してください。資料DVDは、学校教育に使用する目的においてのみ、複製を認めておりますので、ご注意ください。

動画については、平成20年3月に県内全小中学校に配布した和歌山県津波防災教育教材DVD「TSUNAMI 津波来襲～その時キミは…～」に収録されている映像を活用ください。また、同解説書には指導の参考になる説明や資料が掲載されていますので確認願います。

そのほかに気象庁制作DVD「津波からにげる」、NHK和歌山放送局制作DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」、内閣府作成DVD「自分の命は自分で守る-津波災害の備え-」（小学校のみ）等も活用ください。

## ●ここで掲載されているのは「指導事例」、授業実践の際には創意工夫を

本手引きに掲載されているのは、あくまで「指導事例」であって、このとおりに授業を行う必要はありません。掲載しているワークシートや資料についても、これを必ず使用しなければならないわけではありませんので、目標に鑑みて、各自で授業内容を創意工夫してください。

特に津波襲来時の様子については、東日本大震災時における映像がインターネット等で比較的容易に検索することができますので、適時使用してください。

## ●地域性を考慮して

すべての子どもたちが津波防災について学ぶ必要がありますが、本手引きは、津波の影響の程度等、地域性を考慮した取扱が必要な部分もあります。各学校で状況に合わせた工夫を行い、指導してください。

特に沿岸部市町においては、学習した内容と連携した津波避難訓練など、地震発生後の津波を意識した行動に結びつく実習を組み込んでください。

## ●教育活動のさまざまな場面で防災教育を

防災教育を充実させるためには、学校の教育活動の様々な場面で取り組む必要があります。教科指導や道徳の時間等においても、関連した内容を取り上げるとともに、災害文化の伝承や減災運動に取り組んでください。

## ●「津波てんでんこ」について

「津波てんでんこ」の本質をどのように子どもたちに伝えたらよいかの結論に達しなかったため、参考指導事例として掲載しています。また、「尾鷲市津波防災教育のための手引き（案）」の該当部分を授業参考例として資料DVDに掲載しています。今後、「津波てんでんこ」の本質をどのように教えていくかを検討し、本手引きに追記する予定です。

## 2 学年別・教育目的別防災教育カリキュラム

学年別・教育目的一覧表							
( ) 内の数字は手引きの番号 ※は教科書やほかの副読本で対応							
教育項目	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生
I 地震・津波等自然災害を知る	A 地震・津波のおき方を知る					※【理科】 大地のつくりと変化	※【理科】 地震のメカニズム
	B 津波の特徴を知る		(1-2) 【学活1時間】 津波の高さ				
	C 避難の必要性を知る	(1-1) 【学活1時間】 高台への避難					
	D 津波の様々な特徴を理解する	(1-3) 【学活1時間】 津波の威力			(3-2) 【理科2時間】 津波の特徴		
	E 地震のゆれの特徴を理解する						※【理科】 地震の揺れと伝わり方
	F 土砂災害の特徴を知る			(2-2) 【学活1時間】 土砂災害の特徴			
II 対処行動を知る	A 地震から身を守る方法を知る	(1-4)または(1-4②) 【学活1時間】 状況別の行動			※【総合3時間】 耐震補強 家具固定		
	B 津波からの避難方法を知る		(2-1) 【学活2時間】 避難方法と避難場所		(3-1)または(3-1②) 【学活2時間】 津波からの避難		(5-1) 【学活1時間】 避難3原則 (5-1②) 【学活1時間】 津波てんでんこ
	C 学校や自宅周辺の避難場所を知る			(4-1) 【総合2時間】 タウンウォッチング(まち探検)			
	D 様々な避難方法を考える			(4-2) 【総合2時間】 防災マップづくり			(5-4) 【総合2時間】 災害頭上訓練
	E 避難できない人間の心理を知る						(5-2)または(5-2②) 【学活1時間】 率先避難
III 先人の経験に学ぶ	A 語り継ぐ責任				※【国語】 百年後のふるさとを守る		(5-3)または(5-3②) 【学活1時間】 防災意識の持続

※ (4-1)、(4-2) は小学3年～小学6年の間で、必ず取り扱ってください。

# 小学校 1・2年生 (1-1)

I 地震・津波を知る C 避難の必要性を知る 【学級活動 1時間】

## 1 目標

- ・津波とはどのようなものかを知り、すぐに高いところへ避難しなければならないことを理解する。

## 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 津波について学習することを知る。</b></p> <p>◇津波とは、どのようなものかを知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家も車も流してしまうほどの大きな波</li> <li>・東日本大震災で起きた波</li> <li>・地震が起きた時に来る波</li> </ul> <p>◇これから、「いなむらの火」を読みます。</p>  <p>【参考資料】「紙芝居 いなむらの火」</p> <p>◇村の人たちは、どこへ逃げて助かったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いなむらの火をめがけて登っていった。</li> <li>・高いところへ登っていった。</li> </ul> <p>◇津波から命を守るために、どうしたらよいかを考えましょう。</p>	<p>○地震が起こった時に、津波が来る場合があることを知らせる。</p> <p>○「いなむら」とは、どのようなものかについて知らせておく。</p> <p>○津波の前には、必ずしも海の水が引くとは限らないことを知らせる。</p> <p>●紙芝居の代わりに、「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』(1:00)」を上映してもよい。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>学習課題『つなみから、いのちをまもろう。』</b> </div>	
展開	<p><b>2 津波から命を守るための避難行動について考える。</b></p> <p>◇これから、インドネシアで起こった地震による津波の映像を見ます。津波の様子と、そこにいた人々の様子についてよく見てください。</p>	 <p>【動画】チャプターB 津波映像の衝撃 ～スマトラ地震から学ぶ(4:00)</p> <p>○DVD チャプターB の途中(2分33秒)までを上映する。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p>◇津波や人々の様子はどうでしたか。気づいたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家や車が流れていた。                      ・ どんどん水が入ってきた。</li> </ul> <p>&lt;溺れそうになっている人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急に波がきたので、逃げる間がなかった人がいた。</li> <li>・バイクごと流されていた人がいた。</li> <li>・つかまっていたけれど、流された人がいた。</li> </ul> <p>&lt;うまく逃げている人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根の上に乗っている人は助かった。</li> <li>・このビデオをとっている人は、高いところにいた。</li> </ul> <p>◇海の近くにいる時に、もし、地震が起これたら、みなさんはどうしますか。ペア（グループ）で話し合しましょう。</p> <p>◇話し合ったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が起きたらすぐに逃げる。                      ・高いビルに逃げる。</li> <li>・海から離れた高いところに逃げる。                      ・高い山に逃げる。</li> <li>・放送をよく聞いて早く逃げる。</li> </ul>	<p>○津波の威力に対して、人々がどのような様子であったかについて、発表させる。</p> <p>○溺れそうになっている人とうまく逃げている人がいることを気付かせる。</p> <p>○浅くても津波の水の流れが強く、流されてしまうことをおさえる。</p> <p>●より具体的にイメージを持たせるため、「【動画】特別映像 津波防災最前線 津波力実践 (1:00)」を上映してもよい。</p> <p>○助かった人はどこに逃げていたのかを考えさせる。</p> <p>○紙芝居（絵本）では、主人公が、すばやく判断し、村人を高いところに迅速に避難させたことを思い起こさせる。</p> <p>○少しでも早く、高いところへ、避難することが大切であることをおさえる。</p>
ま と め	<p><b>3 津波の学習をして、わかったことを確認する。</b></p> <p>◇ワークシートに、学習して気付いたことやわかったこと、地震がおこったらどうすればよいかを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【ワークシート-11】を配付</p> </div> <p>◇まとめたことを発表しましょう。</p>	<p>●1年生の早い時期に実施する場合には、ワークシートへの記入でなく、感想の発表だけでよい。</p> <p>☆津波から命を守るためには、すぐに高いところへ避難しなければならないことを理解することができたか。</p>

### 3 備考

- ・1年生での学習を推奨（2年生で学習してもよい）。
- ・参考資料として挙げている紙芝居は、各学校にあるものを活用する。
- ・時間の確保が可能であれば、より理解を深めるため複数回に分けて学習に取り組んでもよい。  
例：「導入」、「展開」、「まとめ」でそれぞれ1時間ずつ、計3時間での学習

### 4 その他資料（出典）

- ・参考資料「紙芝居 いなむらの火」（出版：童心社 脚本：川崎大治 絵：降矢洋子）  
※参考資料となっている紙芝居は、防災用として作成されたものである。濱口梧陵をモデルにしているが、堤防を築いたところまでは語っていないものを取り扱っている。なお、この紙芝居以外にも、次のような絵本が出版されている。  
「津波！命を救った稲むらの火」（出版：汐文社 原作：小泉八雲 文・絵：高村忠範）  
「津波からみんなをすくえ！ーほんとうにあった「稲むらの火」ー」（監修：特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構  
企画・制作：和歌山県教育委員会 作：クニ・トシロウ 絵：ケイ・タロウ）
- ・関連映像「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』」（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）

# つなみからいのちをまもろう

\_\_\_\_\_ねん \_\_\_\_\_くみ なまえ(\_\_\_\_\_)

## 1 きづいたことや、わかったこと

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 2 もし、じしんがおこったら

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

# 小学校 2年生 (1-2)

I 地震・津波を知る B 津波の特徴を知る 【学級活動 1時間】

## 1 目標

- ・津波の高さについて知り、どこに避難すればよいかを考える。

## 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 津波の高さについて学習することを知らせる。</b></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">鵜住居小学校の被害写真を提示</p> <p>◇これは、東日本大震災の津波で被害を受けた学校の写真です。気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車が3階に引っかかっている。</li> <li>・運動場にゴミがたくさん流れてきている。</li> </ul> <p>◇いったい何mの高さの津波が来たのでしょうか。津波の高さを調べましょう。そして、津波が来たときには、どこに避難すればよいかを考えましょう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習課題『つなみのたかさをしらべ、ひなばしよをかながえよう。』</p>	 <p>【資料-121】釜石市立鵜住居小学校の被災写真</p> <p>○3階の窓まで津波が来て、車が流されてきたことを気付かせる。</p> <p>●時間の確保が可能であれば、導入として「被災地の6年生の体験日記（書籍名不明）」を取り入れてもよい。</p> <p>○算数の単元「長さをはかろう」の学習における発展的な内容として、津波の高さについて考えさせる。</p>
展開	<p><b>2 津波の高さを調べる。</b></p> <p>◇これは、1m ざし5つ分にあたる5mのテープものさしです。入口のドアの高さはおよそ何m何cmか、各班で測ってみましょう。</p> <p>◇今から150年ほど前に起こった安政南海地震では、和歌山県の串本町で高さ15mの津波が来たそうです。5mのテープものさしを使って、この時の津波の高さがどれくらいであったかを調べたいと思います。どうすればよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>5m+5m+5m=15m</math> になるから、5mのテープものさしを3本つなぎ合わせる。</li> <li>・<math>5m \times 3=15m</math> になるから、5mのテープものさしを3本つなぎ合わせる。</li> </ul>	<p>○10cmごとにめもりをつけた5mのテープものさしを用意する。(児童に作成させたものを活用することも考えられる。)</p> <p>●「〇〇市では高さ〇メートルの津波が～」と各市町に来た津波の具体的な高さを例に挙げて学習してもよい。</p> <p>○式を使って説明させる。</p>

	<b>学習活動と内容</b> <b>主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など</b>	<b>指導上の留意点</b> <b>支援（○）、評価（☆）、参考（●）など</b>
	<p>◇5m のテープものさしを 3 本つなげましょう。</p> <p>◇校舎の高さは、○階までで約○m です。15m の津波の高さと校舎の高さを比べてみましょう。</p> <p>例) 3 階建ての場合  ・15m－12m＝3m 津波のほうがまだ 3m 高い。</p> <p><b>3 津波が来たときの避難場所について考える。</b></p> <p>◇津波から命を守るためには、どこに避難すればよいでしょう。学校より高いところは、どこにあるでしょう。グループ（地区ごとなど）で話し合しましょう。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>高いところの写真を掲示</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-122】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-123】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-124】</p> </div> </div> <p>◇校区には、避難場所となっている高台やビルがあります。家へ帰ったら、自分の家の近くの避難場所などがどこにあるかについて、家の人と一緒に確かめましょう。</p>	<p>○廊下や運動場などの広い場所に出て、15m の長さがどれくらいかを調べさせる。</p> <p>○校舎を外から眺め、15m の高さがどれくらいかを想像させる。</p> <p>○指導者は、校舎の高さを予め調べておく。（3 階までなら約 12m）</p> <p>○学校が避難場所という場合もあるので、実態に応じた展開をする。</p> <p>○指導者は、【津波ハザードマップ】などで校区の避難場所を確認しておく。</p> <p>○高さがイメージできる写真等を提示する。</p> <p>○【資料-122】～【資料-124】は参考資料のため、可能な場合は、各校区における避難場所・高台等の写真・画像を提示する。</p> <p>●津波の影響がない地域では、学校以外の高い建物で高さを実感させる。</p> <p>○避難場所の確認については、生活科における「まちたんけん」とかかわらせながら学習を進めていくことが大切である。</p> <p>●避難場所を示す標識を提示し、そこに避難するように指導してもよい。</p> <p>●津波の影響がない地域では、他の災害からの避難場所を確認させる。</p>
<b>まとめ</b>	<p><b>4 津波の高さについての学習をしてわかったことを確認する。</b></p> <p>◇ワークシートに、学習して気付いたことやわかったこと、地震が起これたらどうするかを書きましょう。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>【ワークシート-12】を配付</b> </div> <p>◇まとめたことを発表しましょう。</p>	<p>☆津波から命を守るために、どこに避難すればよいかについて適切な場所を考えることができたか。</p>

### 3 備考

### 4 その他資料（出典）

- ・副教材例「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）（必要に応じて使用して学習してもよい）

# つなみからいのちをまもろう

\_\_\_\_\_ ねん \_\_\_\_\_ ぐみ なまえ(\_\_\_\_\_)

## 1 きづいたことや、わかったこと

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 2 もし、じしんがおこったら

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

# 小学校 1・2年生 (1-3)

## I 地震・津波を知る D 津波の様々な特徴を理解する 【学級活動 1時間】

### 1 目標

- ・津波の流れの強さについて知り、津波についての知識を深める。
- ・津波から命を守るために、できるだけ早く高いところへ避難することが必要であることを理解する。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 津波の威力について学習することを学ぶ。</b></p> <p>◇津波は、海水浴でみられる波とは、どのように違うのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すごく大きな波</li> <li>・ 津波は、家も流してしまう。</li> <li>・ 地震があった時に起こる波</li> <li>・ 人の住んでいるところまで上がってくる波</li> </ul>	<p>○本時の学習に際し、事前に体育学習の中で流水（渦巻き）体験を実施しておくことよい。</p> <p>●復習として、津波について知っていることの確認を取り入れてもよい。</p>
<p><b>学習課題『つなみのながれのつよさについてしり、ひなんのしかたをかんがえよう。』</b></p>		
展開	<p><b>2 津波の特徴を知る。</b></p> <p>◇これから、津波の力がどれくらい強いのかについて実験を行った映像を見ます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>【動画】DVD 特別映像を上映</b></p> </div> <p>◇気づいたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浅い波でも人が流されそうになっていた。</li> <li>・ 男の人が必死にロープにつかまっていた。</li> <li>・ 歩けそうな深さなのに、水に流されてころんでしまう。</li> <li>・ 家の壁が簡単にこわれてしまう。</li> <li>・ 2m の波は、大きなかたまりのまま流れてきた。</li> </ul> <p>◇みなさんもプールの時間に渦巻きをつくって水の流れを楽しんだことがありますね。水の流れの中でみなさんはどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 止まろうとしたけど、流されてしまった。</li> <li>・ 反対方向に歩く時、すごく足が重かった。</li> <li>・ 反対方向に歩こうとしたら、押し戻された。</li> <li>・ 津波が来たら流されてしまうと思った。</li> </ul>	<div style="text-align: center;">  </div> <p><b>【動画】特別映像 津波防災最前線 津波力実験 (1:00)</b></p> <p>○60cmの浅い津波でも、人が簡単に流されてしまうほど津波の流れは強いことをおさえる。 &lt;津波による人体流下実験&gt;</p> <p>○2mの波は、木造の壁を簡単に壊してしまうほどの威力をもっていることをおさえる。 &lt;木造壁破壊実験&gt;</p> <p>○疑似体験から、津波の流れの強さについて考えさせる。</p>

	<b>学習活動と内容</b> 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	<b>指導上の留意点</b> 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p><b>3 津波への対応を考える。</b></p> <p>◇60cm の津波が家の前まで来ています。みなさんは、その時どうしますか。ペア（グループ）で話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流されたら危ないので、気をつける。</li> <li>・津波に近寄らないようにする。</li> <li>・一人では外に出ない。</li> <li>・別の道から逃げる。</li> <li>・二階へ逃げる。</li> </ul> <p>◇では実際の津波の映像を見ましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>【動画】DVD チャプター-B を上映</b></p> </div> <p>◇津波から命を守るためには、どのように避難すればよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が来る前に早く逃げる。</li> <li>・できるだけ高いところに逃げる。</li> <li>・自分から進んで逃げる。</li> </ul>	<p>○60cm の高さを示す。</p> <p>○津波力実験の映像を思い起こさせる。</p> <p>○津波が近くまで迫ってからでは、逃げるのが困難になることを気付かせる。</p> <p>●ペアではなく、全体で考えさせてもよい。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p><b>【動画】チャプターB 津波映像の衝撃 ～スマトラ地震から学ぶ（4:00）</b></p> <p>●必ずしも使用しなくてもよい。</p> <p>○津波が来る前に早く高いところに避難する必要があることを気付かせる。</p> <p>●必要に応じて、副教材を使用して学習してもよい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め</p>	<p><b>4 学習してわかったことを確認する。</b></p> <p>◇ワークシートに、学習して気付いたことやわかったこと、地震が起こったらどうするかを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>【ワークシート-13】を配付</b></p> </div> <p>◇まとめたことを発表しましょう。</p>	<p>○【ワークシート-13】に記入させる。</p> <p>☆津波の流れの強さを知ることができたか。</p> <p>☆津波から命を守るためには、すぐに高いところへ避難しなければならないことを理解することができたか。</p>

### 3 備考

### 4 その他資料（出典）

- ・副教材例「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）

## つなみからいのちをまもろう

\_\_\_\_\_ねん \_\_\_\_\_くみ なまえ(\_\_\_\_\_)

### 1 つなみについて、きづいたことやわかったこと

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

### 2 もし、じしんがおこったら

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

# 小学校 1・2年生 (1-4)

## II 対処行動を知る A 地震から身を守る方法を知る 【学級活動 1時間】

### 1 目標

- ・地震のゆれにより、身の回りがどのように変化するのかを知る。
- ・地震のとき、自分の身の回りに起こる危険を知り、地震から身を守るための正しい行動を知る。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 大きな地震の災害について学習することを学ぶ。</b></p> <p>◇わたしたちのまちで大きな地震が起こったときについて考えてみましょう。</p> <p>◇大きな地震が発生すると学校や家、まちはどうなるでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>写真を提示</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物が落ちてくる。</li> <li>・ガラスが割れる。</li> <li>・家が壊れる。</li> <li>・崖崩れが起きる。</li> <li>・道路に段差や地割れができる。</li> <li>・火事が起こる。</li> <li>・本棚やタンスなどが倒れる。</li> <li>・ピアノが動く。</li> <li>・塀が倒れる。</li> <li>・せまい道は塞がれる。</li> <li>・電気やガス、水道が止まる。</li> <li>・津波が来る。</li> </ul>	<p>○今まで、どんなところでどんなときに地震を経験したかを発表させる。</p> <p>○大地震が発生すると、どのような被害が発生するのか想像させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料141】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料142】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料143】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料144】</p> </div> </div>
<b>学習課題『じしんからみをまもるほうほうをかんがえよう。』</b>		
展開	<p><b>2 いろいろな場面を想定し、地震発生時の危険から身を守る方法を考える。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>【ワークシート-14】を配布</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>【資料145】教室の絵を拡大したものを提示</b> </div> <p>◇絵を見て、教室にいるときに大きな地震が起きたらどんなところが危険か考えてみましょう。危険だと思うところに○を付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電灯（蛍光灯）が落ちてくる。</li> <li>・窓ガラスが割れる。</li> <li>・額の絵が落ちる。</li> <li>・教卓が倒れる。</li> <li>・花瓶が落ちる。</li> <li>・時計が落ちる。</li> <li>・本が落ちる。</li> </ul> <p>◇けがをしないためには、どうすればよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわてて行動しない。</li> <li>・危険なものから離れる。</li> <li>・防災頭巾などで頭を守る。</li> <li>・机の下に潜る。</li> </ul>	<div style="text-align: center;">  <p>【資料145】教室の絵</p> </div> <p>○【ワークシート-14】1.教室の絵で危険だと思うところに○を記入させる。</p> <p>○○を付けたところとその理由を発表させる。</p> <p>○避難の仕方、身の守り方について確認する。</p> <p>○知識の習得だけでなく、避難の約束「おかしも」を守り、実際に行動ができるようになることが大切であることを確認する。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇)、予想される子どもの反応(・)など	指導上の留意点 支援(○)、評価(☆)、参考(●)など
	<p>◇では、実際に訓練をやってみます。グラグラ揺れてきました。地震です。物が落ちそうです。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-146】 家の中の絵を拡大したものを提示</b></p> <p>◇家の中にいるときに地震が起きたらどんなところが危ないと思いますか。危ないと思うところに○を付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食器棚が倒れる。</li> <li>・食器棚のガラスや食器が飛び散る。</li> <li>・絵(額)や電灯が落ちる。</li> <li>・ポットが倒れて、やけどをする。</li> <li>・テレビが倒れる。ピアノが動いたり倒れたりする。</li> </ul> <p>◇けがをしないために、どうすればよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわてて行動しない。</li> <li>・危険なものから離れる。</li> <li>・テーブルや机の下に潜る。</li> <li>・倒れてきそうな家具から離れる。</li> <li>・座布団やクッションなど身の回りのもので頭を守る。</li> </ul>	<p>○臨場感を出すために、【資料-147】訓練用緊急地震速報を活用するのもよい。「机の下にもぐりなさい。」と指示で動くのではなく、状況で判断し行動するようにさせる。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料-146】 家の中</b></p> <p>○【ワークシート-14】2.家の中の絵で危ないと思うところに○を記入させる。</p> <p>○○を付けたところとその理由を発表させる。</p> <p>○絵をヒントに、どんな身の守り方があるか意見を引き出すようにする。</p> <p>○状況や場所を具体的に示して想像させる。</p> <p>☆ワークシートへの記入を通して、地震による身の回りの変化を理解できたか。</p>
ま と め	<p><b>3 地震による災害から身を守るために大切なことを確認する。</b></p> <p>◇地震が起こったときに身を守るためにはどうしますか。</p> <p>◇地震の被害を防ぐためには、普段からどんなことができるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・家具の固定</li> <li>・家族で話し合う</li> </ul>	<p>○まず自分の命を守る行動が大切であることを理解させる。</p> <p>○地震のときの避難の約束「おかしも」を確認する。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>

### 3 備考

- ・2年生での学習を推奨
- ・避難訓練時の講話に取り入れるなど、繰り返し確認を行ってもよい。
- ・まどめの展開例(1)：【資料-147】訓練用緊急地震速報を流し、安全に行動できるように指導する。
- ・まどめの展開例(2)：その場で机の下にもぐり込むなど実際に行動させる。

### 4 その他資料(出典)

- ・【資料-141】：文部科学省「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」
- ・【資料-142】：総務省消防庁「チャレンジ!防災48」
- ・【資料-143】【資料-144】：「釜石市津波防災教育のための手引き」
- ・【資料-145】【資料-146】：文部科学省防災教育教材「災害から命を守るために」

ねん くらみ なまえ( )

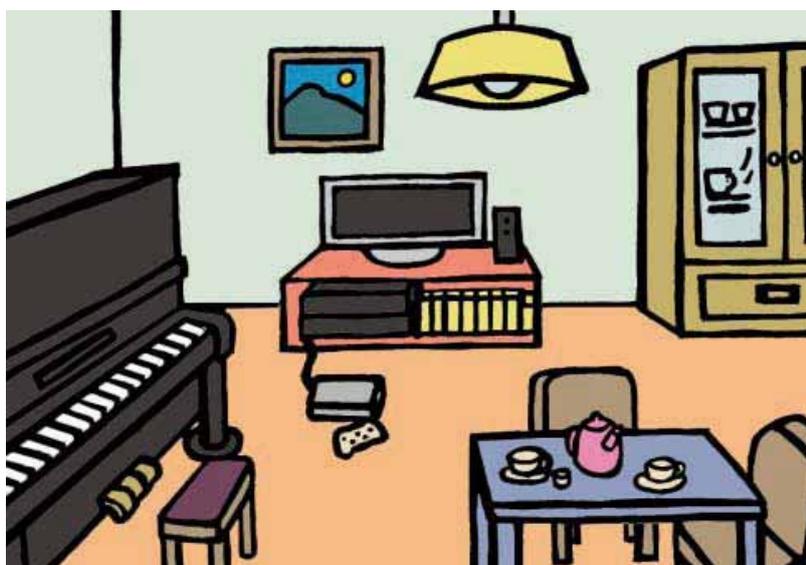
1 教室きょうしつにいるとき地震じが起こおったら、どこが**あぶない**でしょうか。

この絵えの中なかで、あぶないと思おもうところに○をつけてみましょう。



2 家いにいるとき地震じが起こおったら、どこが**あぶない**でしょうか。

この絵えの中なかで、あぶないと思おもうところに○をつけてみましょう。



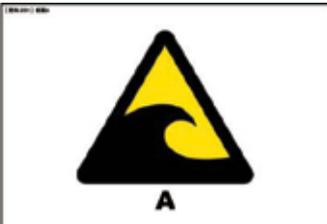
# 小学校 3・4年生 (2-1)

## II 対処行動を知る B 津波からの避難方法を知る 【学級活動 2時間】

### 1 目標

- ・地震の後の津波の恐ろしさを知り、津波から命を守るための方法を知る。
- 1 時間目：津波関連標識の意味を理解する。
- 2 時間目：高台へ避難する必要性を理解する。

### 2 展開 (1 時間目)

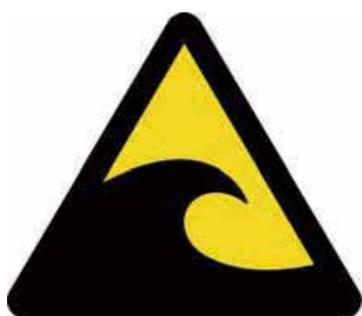
	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 津波について学習することを学ぶ。</b></p> <p>◇わたしたちのまちでは（海の近くにいるときに）地震が発生したあと、気をつけることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波</li> <li>・火災</li> <li>・余震</li> </ul> <p>◇地震の後に発生する津波から命を守るための行動について学習します。</p>	<p>○どれも考慮しておかなければならないことを確認する。</p> <p>●沿岸部でない学校については、海沿いにいる時を想定して、学習を進める。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>学習課題『つなみからみを守る方法をかんがえよう。』</b> </div>	
展開	<p><b>2 津波や津波避難場所の標識の意図を考える。</b></p> <p style="text-align: center;">【資料211】標識 A を提示</p> <p>◇この標識を見たことがありますか。何を伝えようとしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が来る地域です。</li> <li>・津波に注意しましょう。</li> <li>・津波の危険があるときは逃げましょう。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【資料212】標識 B・C を提示</p> <p>◇まだあります。BやCについてはどうでしょう。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>【資料211】標識 A</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料212】標識 B・C</p> </div> <p>○標識は、A：津波注意、B：津波避難場所、C：津波避難ビルを表している。</p> <p>○ここでは標識の名称を覚えるというのではなく、標識の意図を考えさせる。</p> <p>○標識特有の色や形が示す意味をヒントに考えさせるのもよい。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p style="text-align: center;"><b>【ワークシート-21】を配布</b></p> <p>◇それぞれの標識が何を伝えようとしているのかを書いてみましょう。</p> <p>&lt;Bについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の時は高いところへ避難しましょう。</li> <li>・津波の時はこの方向に逃げましょう。</li> <li>・その方向に避難場所があります。</li> <li>・津波の時の避難場所</li> </ul> <p>&lt;Cについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに津波避難場所があります。</li> <li>・津波避難ビル</li> <li>・津波が来てもだいじょうぶな建物</li> </ul> <p>◇これらの標識が、どこにあるか知っている人はいませんか。</p>	<p>○【ワークシート-21】を配付して、記入させる。 Aについても、この時点で記入させる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">※これらの標識は全国で統一的に用いられているものである。</p> <p>☆津波関連標識の意味を理解できたか。</p> <p>○校区が津波注意区域であることを確認する。 ●身近な風景の中に存在する標識・看板等を提示してもよい。</p>
ま と め	<p><b>3 学習してわかったことを確認する。</b></p> <p>◇今日の授業を受けて、気付いたことやわかったことについて書きましょう。</p> <p>◇標識の意味を学習したところで、2時間目の授業は避難について考えていきましょう。</p>	<p>○1 時間目の内容をふまえて2時間目の学習内容を簡単に説明する。</p> <p>●2時間続きの授業の場合は、<b>まとめ</b>については割愛してもよい。</p>

※2時間目の展開は、次ページを参照してください。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

このひょうしきは、何を伝えようとしているのでしょうか。



A



B



C

3 展開 (2 時間目)

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 津波の動画を見て、津波についてのイメージをもつ。</b></p> <p>◇津波関連の標識について学習したことを復習しましょう。</p> <p>◇では、実際の津波の映像を見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>【動画】DVD チャプター-B を上映</b> </div> <p>◇感じたことや分かったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波は、ものすごいスピードでやってくる。</li> <li>・大きな津波が来ると、あらゆる物を壊してしまう。</li> <li>・水だけでなく、瓦礫ごと押し寄せてくる。</li> <li>・低くても流される。立ってられない。泳げない。</li> <li>・泥水のように汚い。</li> <li>・すぐに高台へ避難しないと間に合わない。</li> <li>・丈夫な建物でないと流される。</li> <li>・引き潮で沖へ流されることもある。</li> </ul>	<p>○1 時間目の学習内容を復習する。</p>  <p><b>【動画】チャプター-B 津波映像の衝撃 ～スマトラ地震から学ぶ (4:00)</b></p> <p>☆津波の破壊力をイメージするとともに、逃げ遅れると命を失う危険性が高いことを理解できたか。</p> <p>●必要に応じて、副教材を使用して繰り返し学習してもよい。</p> <p>●2 時間続きの授業の場合は、<b>導入</b>については割愛してもよい。</p>
展開	<p><b>2 津波から命を守るための方法を知る。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>昭和南海地震・津波被害の写真を提示</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-213】田辺市の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-214】海南市の様子</p> </div> </div> <p>◇和歌山県でも、東南海・南海地震と言われる地震が、近い将来発生すると言われています。わたしたちのまち (〇〇市・町) では、地震が発生して津波がくるまでの時間は、約〇分だそうです。津波から命を守るために、みなさんはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ逃げる。</li> <li>・高いところへ避難する。</li> <li>・山へ避難する。</li> <li>・屋上 (3 階) へ上がる。</li> </ul>	<p>●沿岸部でない学校については、【資料-215】、【資料-216】を参考に、具体的に〇〇市・町にいることを想定して、学習を進める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-215】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-216】</p> </div> </div> <p>○津波に対しては、逃げるしかないと確認する。</p> <p>○時間があるなら裏山、高台といったより高い避難できる場所へ、最初から逃げた方がよいことを気付かせる。</p> <p>●身近にある避難施設の標識などを提示し、具体的な避難場所の理解を深めてもよい。</p> <p>●津波の予想高さは出さずに、具体的な数字を質問された場合は、「どんな大きさの津波がくるのかはわからない」と伝える。</p>

	<b>学習活動と内容</b> <b>主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など</b>	<b>指導上の留意点</b> <b>支援（○）、評価（☆）、参考（●）など</b>
	<p>（沿岸部の学校では以下の2つの内容を取り上げる）  ◇実際にどこへ逃げますか。  ・校舎の屋上                    ・〇〇山  ・公園                             ・△△マンション</p> <p>◇みなさんが学校にいるときの津波避難場所は、〇〇山ですね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>各校の津波避難場所の写真を提示</b> </div> <p>◇では、どのように逃げますか。  ・走って逃げる。  ・「津波が来るぞ、〇〇山に逃げろ」と言いながら逃げる。  ・小さい子がいたら、手をつないで一緒に逃げる。  ・防災頭巾（ライフジャケット）を身につけて逃げる。  ・自分から進んで逃げる。  ・近道して逃げる。  ・走るけど、事故にあわないように注意する。</p>	<p>●沿岸部の学校では、実際の避難場所を想起させる。</p>  <p>【資料-217】参考：津波避難場所 〇〇山</p> <p>○一刻を争う地域では、交通事故や衝突事故防止のために、「押さない、飛び出さない、戻らない」を心がけながら、急いで避難することが大切であることを確認する。  ○声をかけあい、みんなで避難することが大切であることを確認する。  ☆地震の後の津波に備え、高台へ避難する必要性を理解できたか。</p>
<b>ま と め</b>	<p><b>3 津波から命を守るためには、高台へ逃げるしかないことを確認する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>和歌山県の津波注意の看板を提示</b> </div> <p>◇わたしたちのまちでは（海の近くにいるときに）地震が発生したあとは、津波に注意しなければなりません。和歌山県では、始めに学習した標識のほかにも、こんな看板も設置されています。地震が発生したらすぐ高台へ避難することを思い出し、自分から避難しましょう。</p>	 <p>【資料-218】参考：那智勝浦町にかけられている看板</p> <p>●沿岸部地域では、実際に地域で設置している津波関連標識や看板を、写真で提示してもよい。</p> <p>○学習をもとに、津波避難訓練を行うことの大切さを理解させる。  ○「非常時に、人は経験したことしかできない」、「経験していないことは、非常時にはできない」ということを知らせる。  ●東日本大震災について知っていることや感じたことを話させてもよい。  ●授業後、感想を書かせてもよい。</p>

#### 4 備考

#### 5 その他資料（出典）

- ・【資料-213】【資料-214】：東京大学地震研究所
- ・副教材例：「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）  
「津波力実験」の動画、「東北」の映像など

# 小学校 5・6年生 (3-1)

## II 対処行動を知る B 津波からの避難方法を知る 【学級活動 2時間】

### 1 目標

- 地震や津波から正しく、安全に避難するための方法や心構えを理解する。
- 1 時間目：地震から身を守るためにはどう行動すればよいかを確認する。
- 2 時間目：津波から身を守るためにはどう行動すればよいかを話し合う。

### 2 展開 (1 時間目)

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 近い将来、発生が予想されている東南海・南海地震に対する意識を高める。</b></p> <p>◇日本で起きた地震や津波について、どのようなことを知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災</li> <li>南海地震</li> <li>阪神淡路大震災</li> <li>社会の時間に習った関東大震災</li> </ul> <p>◇昭和21年(1946年)の南海地震津波の被災体験について、ビデオを見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【動画】DVD イントロダクションを上映</div> <p>◇ビデオを見た感想を発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験感が生々しかった。</li> <li>被災写真がすごかった。</li> <li>こんなことが起こっていたなんてびっくりした。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【資料-311】を配布</div>  <p>【資料-311】東海・東南海・南海地震の発生時期と発生周期</p> <p>◇今日の学習のテーマは、“地震や津波から身を守るために”です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習課題『地震や津波から身を守る方法を考えよう。』</div>	<p>○過去、日本で起きた地震や津波について、子どもの知識を確認するため、ヒント等は与えず、自由に発言させる。</p> <p>○知っているか、知らないかについて、挙手させてもよい。</p>  <p>【動画】イントロダクション 大津波が和歌山を襲った～昭和南海地震津波～(3:00)</p> <p>○【資料-311】を配布し、和歌山県が繰り返した地震津波に襲われてきたことを確認する。</p> <p>○DVD サブタイトル「その時キミは…」を投げかけ、災害時に自分がどう行動すべきかを考えるのが、本時の課題であることを確認する。</p> <p>☆津波の威力を実感するとともに、地震や津波に対する備えの必要性を意識できたか。</p> <p>●学校が津波の来ない地域にある場合は、津波</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
		が来ると想定して本時の指導を行う。
展 開	<p><b>2 地震による揺れがおさまった後、どのように行動すべきかについて考える。</b></p> <p>◇地震発生時、身を守るためには、どのような行動をとればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭をかかす。</li> <li>・火を消す。</li> <li>・低い姿勢を取る。</li> <li>・机の下にかくれる。</li> <li>・家具から離れる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【ワークシート-31】を配付</b></p> <p>◇ゆれがおさまった後、身を守るためにはどのように行動すればよいかについて考えます。班になって、次の3つの場面で話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校にいるとき</li> <li>②自宅にいるとき</li> <li>③地域にいるとき（校区を想定）</li> </ul>	<p>○身を守るためには、まず揺れがおさまるまでの行動が重要であることを確認する。（既習事項）</p> <p>○阪神淡路大震災では、死因の9割が圧死であることを伝える。</p> <p>○続いて、【ワークシート-31】を配付し、揺れがおさまった後の行動を考えることを確認する。</p>
ま と め	<p><b>3 学習してわかったことを確認する。</b></p> <p>◇今日の授業を受けて、感想をワークシートに書いてください。</p> <p>◇身を守るための行動について学習したところで、2時間目の授業は時と場所に合わせた行動を具体的に考えていきましょう。</p>	<p>○班になって考えたことを各自で【ワークシート-31】に記入させる。</p> <p>○1時間目の内容をふまえ、2時間目の学習内容を簡単に説明する。</p> <p>●2時間続きの授業の場合は、<b>まとめ</b>については割愛してもよい。</p>

※2時間目の展開は、次ページを参照してください。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

○ゆれがおさまった後に、どのように行動すればよいだろうか？

①学校にいるとき

②自宅にいるとき

③地域にいるとき(校区を想定)

☆授業を受けての感想を書きましょう。

3 展開（2 時間目）

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
導入	<p><b>1 地震による揺れがおさまった後、どのように行動すべきかについて復習する。</b></p> <p>◇身を守るための行動について学習したことを確認しましょう。</p> <p>◇班で話し合う前に、平成5年の北海道南西沖地震の被災体験についてビデオを見てください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">【動画】DVD チャプターE を上映</div> <p>◇ビデオの中で述べられていましたが、津波のことを考えるとき、気を付けなければならないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">【資料-312】を提示</div> <p>◇和歌山県では、地震のあとには津波がくることがあります。そのため、津波がくる可能性があることも考えて、地震の揺れがおさまった後、身を守るための行動を考えておく必要があります。</p>	<p>○1 時間目の学習内容を復習する。</p> <p>○参考になることは、ビデオを見ながらメモをとらせてもよい。</p> <p style="text-align: center;"><b>【動画】チャプターE 1秒でも早く 1ミリでも高く ～串本の子供たちへ～(6:30)</b></p> <p>●必ずしも使用しなくてよい。</p> <p>○【資料-312】、【資料-313】を配付し、地震の揺れを感じてから津波が到達するまでの時間は、場所によって違うことを確認する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>【資料-312】</span> <span>【資料-313】</span> </p> <p>●2 時間続きの授業の場合は、導入については割愛してもよい。</p>
展開	<p><b>2 地震のあとには津波がくることを意識して、再度ゆれがおさまった後の行動について考える。</b></p> <p>◇ゆれがおさまった後、身を守るためにどのように行動すればよいかについて、班でもう一度話し合しましょう。出された意見は、ワークシートに書いてください。</p>	<p>○地震のあとには津波がくることを意識させて、再度、話し合いをさせる。</p> <p>○班での話し合いの時間を十分に確保する。話し合いを通じて、避難の意識を高める。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p>◇それでは、各班から発表してもらいます。</p> <p>&lt;①学校にいるとき&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上に逃げる。</li> <li>・指定の避難場所に行く。</li> </ul> <p>&lt;②自宅にいるとき&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の避難場所に行く。</li> <li>・家は安全だから逃げない。</li> <li>・ハザードマップを確認しておく。</li> </ul> <p>&lt;③地域にいるとき（校区を想定）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海や川に近づかない。</li> <li>・友達と一緒に逃げる。</li> <li>・ハザードマップに従う。</li> </ul> <p>◇みんなで話し合ひましょう。</p>	<p>○時間の都合で、班で①～③を分担して話し合せてもよい。</p> <p>○出された意見は、まず指導者が受け止める。その上で、誤解を与えるような内容については、改めて考えさせたり、助言したりする。（例）海から遠くに逃げる。</p> <p>○学校の地震・津波対応マニュアルの内容について、必要に応じて子どもに説明する。</p> <p>○東日本大震災では津波到達予測地域の外で多くの死者が出たことを説明する。可能であれば、地域のハザードマップを提示する。（フィールドワークをする際の重要な視点となる。）</p> <p>○出された意見について大事なことを確認する。</p> <p>☆ビデオで強調されていた「1秒でも早く、1ミリでも高く」の内容を理解できているか。</p> <p>☆津波避難3原則の視点から、児童の意見を評価することも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定にとられるな。</li> <li>・最善を尽くせ。</li> <li>・率先避難者たれ。</li> </ul>
まとめ	<p><b>3 学習して気づいたことを発表する。</b></p> <p>◇今日の授業を受けて、感想をワークシートに書いてください。</p>	<p>☆地震や津波から身を守ろうとする主体的な姿勢を高めることができたか。</p> <p>○【ワークシート-31】を回収し、まとめたものを教室掲示しておく。</p>

#### 4 備考

#### 5 その他資料（出典）

- ・【資料-311】【資料-312】：和歌山県津波防災教育 DVD 『TSUNAMI 津波来襲～その時キミは…～』解説書
- ・副教材例「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』」（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）

# 小学校 5・6年生 (3-2)

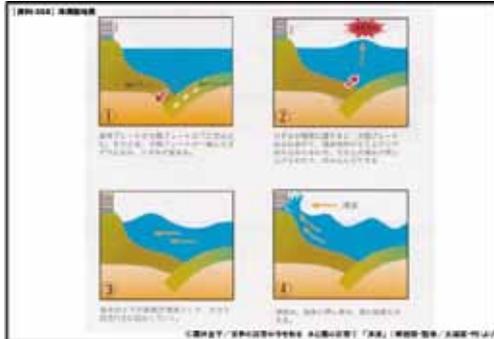
## I 地震・津波を知る    D 津波の様々な特徴を理解する    【理科 2時間】

### 1 目標

- ・地震や津波の発生メカニズムを知り、津波の伝わり方や破壊力について理解する。
- 1 時間目：地震や津波の発生メカニズムを知る。
- 2 時間目：津波の伝わり方や破壊力について理解する。

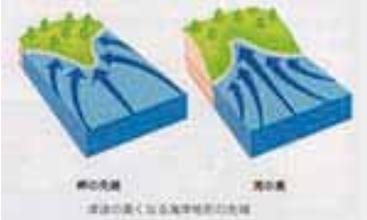
### 2 展開

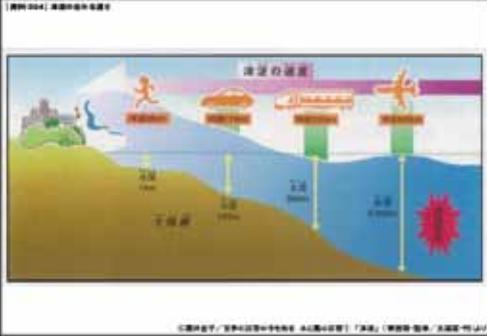
	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導 入	<p><b>1 近い将来発生が予想されている東南海・南海地震のことを知り、その対策として地震・津波に関する知識を持つことの重要性を理解する。</b></p> <p>◇和歌山県では、近い将来、巨大地震の発生が心配されています。そのことについて何か知っていることはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海地震について聞いたことがある。</li> <li>・震度7くらい。</li> <li>・津波が来る。</li> <li>・知らない。</li> </ul> <p>◇巨大地震発生の想定ビデオを見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【動画】DVD チャプターF を上映</div> <p>◇ビデオを見た感想を発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖い。</li> <li>・大きな揺れが心配だ。</li> <li>・家が壊れる。</li> <li>・津波が来たらどうしよう。</li> <li>・信じられない。</li> </ul> <p>◇地震津波の対策として、地震や津波のことを理解することが大切です。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;">学習課題『地震や津波の特徴について、理解しよう。』</div>	<p>○東南海・南海地震に対する児童の意識を把握するため、自由に発言させる。</p> <p>○知っているか、知らないかについて、挙手させてもよい。</p> <p><b>【動画】チャプターF 近未来予測シミュレーション～その時、キミは...～(3:30)</b></p> <p>☆近い将来、和歌山県が巨大地震や津波に襲われる危険性について意識が高まったか。</p> <p>○本時の学習課題を確認する。</p>
展 開	<p><b>2 地震や津波の発生メカニズムを知る。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">【ワークシート-32】を配付</div> <p>◇ワークシートの問い1～3を確認してから、地震津波発生のビデオを見ましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">【動画】DVD チャプターA を上映</div>	<p>○【ワークシート-32】を配付し、問い1～3を読む。</p> <p><b>【動画】チャプターA 津波と日本～地震津波の発生メカニズム～ (4:00)</b></p>

	<b>学習活動と内容</b> <b>主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など</b>	<b>指導上の留意点</b> <b>支援（○）、評価（☆）、参考（●）など</b>
	<p>◇問い1「日本が地震や津波に襲われ続けてきた原因」について発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海底の岩盤が関係している。</li> <li>・日本の近くにはプレートがある。</li> <li>・プレートが日本の下にもぐりこんでいる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料-321】を提示</b></p> <p>◇問い2「地震がどのようにして起こるのか」について発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸と海にプレートがある。</li> <li>・プレートが曲がる。</li> <li>・プレートが日本の下にもぐりこんでいる。</li> <li>・プレートがはねあがるときに地震が起きる。</li> </ul> <p>◇問い3「津波はどのようにして起こるのか」について発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海のプレートが持ち上がるときに起きる。</li> <li>・プレートによって海水が持ち上げられる。</li> <li>・持ち上がった海水が周りに広がっていく。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料-322】を提示</b></p>	<p>○児童の意見を聞いた後、<b>【資料-321】</b>を配付して解説をし、答えを板書する。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料-321】日本周辺に存在するプレートとプレート境界の位置</b></p> <p>○児童の意見を聞いた後、<b>【資料-322】</b>を配付して解説をし、答えを板書する。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料-322】海溝型地震</b></p>
<b>まとめ</b>	<p><b>3 学習して気付いたことを確認する。</b></p> <p>◇今日の授業を受けて、感想をワークシートに書いてください。</p> <p>◇津波の発生メカニズムについて学習したところで、2時間目の授業は津波の破壊力についても学習していきましょう。</p>	<p>○1時間目の内容をふまえ、2時間目の学習内容を簡単に説明する。</p> <p>☆地震や津波の発生メカニズムについて、基礎的な事項を理解できたか。</p> <p>●2時間続きの授業の場合は、まとめについては割愛してもよい。</p>

※2時間目の展開は、次ページを参照してください。

3 展開（2 時間目）

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
導入	<p><b>1 地震や津波の発生メカニズムを復習する。</b> ◇津波の発生メカニズムについて学習したことを確認しましょう。</p>	<p>○復習として、1 時間目の学習内容を確認する。 ●2 時間続きの授業の場合は、導入については割愛してもよい。</p>
展開	<p><b>2 津波の特徴を知る。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-323】を提示</b></p> <p>◇津波について、知っておいてほしいことがあります。 ①津波の前に潮が引くとは限らない。 ②陸地に近づくと大きくなり、特に湾の奥では大きくなりやすくなる。</p> <p><b>3 津波の伝わり方等について理解し、そのエネルギー（破壊力）を実感する。</b></p> <p>◇高さ 50cm の津波が来たとします。あなたならどうしますか。 ・低いので、これなら逃げられる。 ・50cm くらいだから逃げなくても平気だ。 ・低くても津波なので危ないから逃げる。 など</p> <p>◇ワークシートの問い 4～6 を確認してから、津波のビデオを見ましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>【動画】DVD チャプター-B を上映</b></p> <p>◇問い 4 「高さ 50cm の津波」をビデオで見てどう思いましたか。 ・50cm の津波ですごい被害が出る。 ・とても立ってられない。 ・流されてしまう。 ・川の流れのようだった。</p> <p>◇問い 5 「津波が 1 回襲って来たら、その後は来ない」について、どうでしたか。 ・繰り返し襲ってくる。 ・後から来る津波の方が大きいこともある。 ・1 回で油断してはいけない。</p> <p>◇問い 6 「津波の伝わる速さ」はどうでしたか。 ・ものすごく速い。 ・ジェット機なみの速さ</p>	<p>○【資料-323】を配布して説明し、その内容を板書する。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料-323】津波が高くなる海岸地形の先端</b></p> <p>○50cm の高さを実感させるために、学校の小プールの深さくらいであることを説明したり、定規等で示したりする。</p> <p style="text-align: center;"><b>【動画】チャプター-B 津波映像の衝撃 ～スマトラ地震から学ぶ～ (4:00)</b></p>

	<b>学習活動と内容</b> 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	<b>指導上の留意点</b> 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など																																			
	<p style="text-align: center;"><b>【資料324】を提示</b></p> <p>◇最後に、津波の破壊力についての実験映像を見てみましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>【動画】DVD 特別映像を上映</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【資料325】を提示</b></p>	<p>○児童の意見を聞いた後、<b>【資料324】</b>を配付して解説をし、答えを板書する。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料324】津波の伝わる速さ</b></p>  <p style="text-align: center;"><b>【動画】特別映像 津波防災最前線 津波力実験(1:00)</b></p> <p>○DVD 解説書 17 ページの「津波は海からの洪水です。波高がわずか数 10cm でも大変危険です。」を強調する。</p> <table border="1" data-bbox="962 1240 1449 1397"> <thead> <tr> <th>津波の被害</th> <th>1～2m</th> <th>2～4m</th> <th>4～6m</th> <th>6～12m</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木造家屋</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリートビル</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> </tr> <tr> <td>橋</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> </tr> <tr> <td>防波堤</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> <td>倒壊危険</td> </tr> <tr> <td>農田</td> <td>浸水</td> <td>浸水</td> <td>浸水</td> <td>浸水</td> </tr> <tr> <td>山岳</td> <td>崩壊危険</td> <td>崩壊危険</td> <td>崩壊危険</td> <td>崩壊危険</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>【資料325】津波の破壊力</b></p> <p>☆津波の伝わり方を理解し、その破壊力について実感を得ることができたか。</p>	津波の被害	1～2m	2～4m	4～6m	6～12m	木造家屋	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	鉄筋コンクリートビル	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	橋	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	防波堤	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	農田	浸水	浸水	浸水	浸水	山岳	崩壊危険	崩壊危険	崩壊危険	崩壊危険
津波の被害	1～2m	2～4m	4～6m	6～12m																																	
木造家屋	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険																																	
鉄筋コンクリートビル	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険																																	
橋	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険																																	
防波堤	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険	倒壊危険																																	
農田	浸水	浸水	浸水	浸水																																	
山岳	崩壊危険	崩壊危険	崩壊危険	崩壊危険																																	
<b>まとめ</b>	<p><b>3 学習して気づいたことを発表する。</b></p> <p>◇今日の授業を受けて、感想をワークシートに書いてください。</p>	<p>☆地震や津波の知識を得るとともに、興味・関心を高めることができたか。</p>																																			

#### 4 備考

#### 5 その他資料（出典）

- ・【資料-321】～【資料-325】：和歌山県津波防災教育 DVD 『TSUNAMI 津波来襲～その時キミは…～』 解説書

【ワークシート-32】「地震・津波の特徴について」

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

○問11 「日本が昔から地震や津波におそわれ続けてきた原因は？」

(例)日本周辺にプレート(海底の岩盤)の境界があり、プレートが日本の下にもぐり込んでいるから。

○問12 「和歌山県の場合、地震はどのようにして起こるのだろうか？」

(例)海側のプレートが紀伊半島の下にもぐり込み、その力に耐えられなくなって、陸側のプレートが跳ね上がったときの衝撃が地震である。

○問13 「津波はどのようにして起こるのだろうか？」

(例)跳ね上がったプレートで海水が持ち上がり、陸に迫って来るのが津波である。

○津波について気をつけたいこと2つ

①津波には、「押し波」と「引き波」がある。

②津波は陸地に近づくと急に大きくなる。特に、湾の奥(岬の先端)では大きくなりやすい。

○問14 「高さが50cmくらいの津波が来たら、あなたはどうしますか？」

(例)移動をあきらめ、建物の上階に避難する。

○問15 「津波は1回おそって来たら、その後は来る？ 来ない？」

(例)津波は繰り返しおそってくる。後からの波の方が大きいこともある。

○問16 「津波の伝わる速さはどのくらいだろう？」

(例)深い海の上では、時速800km以上(ジェット機なみ)である。

☆授業を受けての感想を書きましょう。

# 小学校 タウンウォッチング（まち探検）（4-1）

II 対処行動を知る C 学校や自宅周辺の避難場所を知る 【総合 2時間】

## 1 目標

・タウンウォッチング（まち探検）を通し、校区内の津波避難場所やその周辺についての情報を深める。

## 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
導入	<p><b>1 タウンウォッチング（まち探検）について理解する。</b></p> <p>◇これから、みんなで津波避難場所、津波に関する施設や表示を確かめるためにまち探検をします。</p> <p>◇避難場所までの道の様子、安全な場所や危険な場所、津波注意の看板、堤防や水門等を見つけては地図に書き込んでいきましょう。</p> <p>◇交通事故・人の迷惑にならないようにルールやマナーを守って行動しましょう。</p>	<p>○校区が広い場合や、複数の学級がある場合は、見学コースを分けて実施する。</p> <p>●事前に教員の応援や保護者の協力を得る。</p> <p>○関連施設や標識も意識させる。</p>  <p>【資料218】参考：那智勝浦町にかけられている看板</p> <p>○安全対策と見通しをもって行動できるように、白地図には見学コースの道順を示しておく。</p>
<p><b>学習課題『校区内の津波避難場所や危険箇所を把握しよう。』</b></p>		
展開	<p><b>2 タウンウォッチングを開始する。</b></p> <p>◇歩きながらも避難するときに安全な場所や危険な場所を確かめ、津波に関する標識・看板を探していきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難ビル</li> <li>・高台や山</li> <li>・水門や陸閘（りくこう）</li> <li>・看板</li> <li>・川や水路</li> <li>・瓦礫で通れなくなりそうな道</li> <li>・津波避難タワー</li> <li>・高層マンション</li> <li>・防災無線施設</li> <li>・石碑</li> <li>・せまい道</li> <li>・家や塀が崩れそうなところ</li> <li>・津波避難場所</li> <li>・防波堤や防潮堤</li> <li>・避難誘導灯</li> <li>・低いところ</li> <li>・広い道</li> </ul>	<p>○要所で立ち止まり、周囲の様子をじっくり観察させる。</p> <p>○避難場所や周辺の様子が分かりやすいように、目印になる施設等の名称も白地図に記入させる。</p> <p>○津波対策関連施設や標識がどこにあるのか、どんな目的があるのかを知らせる。</p>  <p>【資料411】参考：津波避難タワーの写真</p>

	<p>◇もうすぐ津波避難場所の〇〇山に着きますよ。今通っている道は大きな地震が発生したときどうなるでしょう。</p> <p>◇この避難場所には何人ぐらいの人が集まるのでしょうか。</p> <p>◇この堤防は昭和南海地震の津波が来ても大丈夫なように造られています。東日本大震災のような津波が来たらどうなるでしょうね。</p> <p>◇帰りは学校まで歩いて何分かかかるのか計ります。</p> <p>◇もう一度、探検して分かったことや書き残したことを地図に書き込みましょう。</p>	<p>○実際にいくつかの津波避難場所に行って、それらがどこにあるのか、道・通路の様子を確かめさせる。</p>  <p>【資料412】</p>  <p>【資料413】</p> <p>○地域の人たちも避難することから、混雑を想起させる。</p> <p>○津波対策は絶対ではないことを気づかせる。</p>  <p>【資料414】参考：防潮堤の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●季節によっては、歩く時間および見学時間を考慮して水分補給・トイレのための休憩をとる。</li> <li>●見学先や児童が興味をもちそうな所を写真に撮っておき、後の学習に活用する。</li> <li>●津波発生時および津波避難訓練時の参考データとして活かすことができる。</li> </ul> <p>☆見学したことや思ったことを白地図に書いてあるか。</p>
<p>まとめ</p>	<p><b>3 次時の作業内容を知る。</b></p> <p>◇次の時間は、みんなが調べたことを出し合って、防災マップを作っていきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>防災マップ用白地図を提示</b></p> </div>	<p>○一人一人の調べたことや気になることを出し合うことが、みんなの安全安心につながるということを伝え、次時への関心を持たせる。</p> <p>○防災マップ用白地図は、校区白地図を拡大したものを用意する。</p>

### 3 備考

- ・この指導事例は、津波注意区域でのタウンウォッチング（まち探検）を想定しています。沿岸部ではない学校については、風水害・土砂災害等を想定したタウンウォッチングを実施してください。

### 4 その他資料（出典）

# 小学校 防災マップづくり (4-2)

## II 対処行動を知る D 様々な避難方法を考える 【総合 2時間】

### 1 目標

・防災マップづくりを通じ、生活の場面ごとに、どの避難場所が最適なのかを知り、避難方法を考える。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 防災マップづくりをすることについて知る。</b></p> <p>◇まち探検でみんなが調べてきたことを出し合っ、防災マップを作っていきます。</p> <p style="text-align: center;"><b>防災マップ用白地図を提示</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>【資料421】</span> <span>【資料422】</span> </p>	<p>○拡大した校区白地図をグループに1枚ずつ用意する。</p> <p>○地区別にグループを作っている場合は、地区別に白地図を配布する。</p>
<p><b>学習課題『様々な避難場所を把握しよう。』</b></p>		
展開	<p><b>2 まち探検で使った地図をもとに、校区（地区別）の防災マップづくりを開始する。</b></p> <p>◇まち探検で確かめた津波避難場所や周りの様子をタックシールに書き込み、校区（地区別）白地図にはっていきましょう。</p> <p>◇危険な場所や避難するときに目印になる建物、津波に関する標識・看板も書き込んでいきましょう。そして、みんなの役に立つ防災マップを作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難ビル</li> <li>・高台や山</li> <li>・水門や陸閘(りくごう)</li> <li>・看板</li> <li>・川や水路</li> <li>・瓦礫で通れなくなりそうな道</li> <li>・津波避難タワー</li> <li>・高層マンション</li> <li>・防災無線施設</li> <li>・石碑</li> <li>・せまい道</li> <li>・津波避難場所</li> <li>・防波堤や防潮堤</li> <li>・避難誘導灯</li> <li>・低いところ</li> <li>・広い道</li> <li>・家や塀が崩れそうなところ</li> </ul>	<p>○白地図に下記のような色分けをさせておくと分かりやすい。</p> <p style="margin-left: 20px;">茶：路地・道路      青：海・川・池・水路          緑：山・緑地      オレンジ：広場・公園          赤：住宅・ビル密集地 など</p> <p>○避難場所や周辺の様子が分かりやすいように、目印になる施設等の名称も白地図に記入させる。</p> <p>○あらかじめ撮っておいた写真を必要に応じてグループに提供する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>【資料411】</span> <span>【資料423】</span> </p>

	<p>◇タックシールに書いていた説明や名前を整理して、白地図に書き込みましょう。写真も貼っていきましょう。</p> <p><b>3 それぞれの防災マップを見合い、情報を交流する。</b></p> <p>◇それぞれの防災マップを見て、分かったことや気になることを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い建物が少ない。</li> <li>・10mの津波が来たら山へ逃げるしかない。</li> <li>・山の避難場所はあるけれど遠い。</li> <li>・避難場所はどこも大丈夫なのか。</li> <li>・津波はどこまで来るのか分からないから、より高いところへ逃げるしかない。</li> <li>・避難場所に向かう道がせまい。別の逃げ道も知っておいたほうがいい。</li> <li>・家が壊れたりして、通れそうにない道もある。</li> <li>・5分も走れば避難場所に行けると思う。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料424】を提示</b></p> <p>◇和歌山県では、それぞれの津波避難場所に安全レベルが決められています。少しでも安全レベルの高い場所に避難するようにしましょう。</p> <p>◇近くにレベル3の避難場所がない場合には、レベル2の避難場所に、レベル2の避難場所もない場合には、レベル1の避難場所に避難することになります。</p> <p>◇どこに、どのようなレベルの避難場所があるのかを、しっかり確認しておきましょう。</p>	<p>○名称や説明はタックシールに書かせて貼ると、整理・訂正もしやすい。対象物ごとに色分けしたシールを用意しておくことで分布がよく分かる。</p> <p>☆マップづくりに積極的に参加していたか。</p> <p>○校区内に津波避難場所や避難可能な場所がいくつもあることに気付かせる。</p> <div data-bbox="1050 734 1380 963" data-label="Image"> </div> <p><b>【資料424】避難場所の安全レベル</b></p> <p>○津波避難場所には3段階あることを知らせる。</p> <p>☆自宅周辺や校区内の津波避難場所について把握できたか。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><b>4 津波避難3原則を知る。</b></p> <p>◇津波避難3原則を紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①想定にとらわれるな。</li> <li>②状況下において最善を尽くせ。</li> <li>③率先避難者たれ。</li> </ol> <p>◇津波避難で失敗したら命を失います。「ここまで逃げておけば大丈夫」というのはありません。その時にできる一番安全な方法で避難するしかないのです。</p> <p>◇自分が逃げることによって、みんなも逃げる。その結果大勢の人が助かるのです。覚えて実行しましょう。</p>	<p>○まず自分の命は自分で守らなければならないことを気付かせる。</p> <p>○避難3原則の意味を理解できる言葉で説明する。</p> <p>○家族や友達と改めて避難場所を確認することを勧める。</p>

**3 備考**

**4 その他資料（出典）**

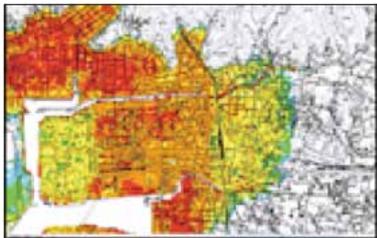
# 中学校 (5-1)

## II 対処行動を知る B 津波からの避難方法を知る 【学級活動 1時間】

### 1 目標

- ・津波避難三原則の意味を理解する。
- ・津波避難三原則を踏まえて、津波浸水予測図の活用を考えることができる。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 学習課題「津波浸水予測図をどう活用すればよいか」を理解する。</b></p> <p>◇津波浸水予測図を読み取ってみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>地域の津波浸水予測図 (拡大) を提示</b> </div>  <p><b>参考 【資料-459】 海南市の津波浸水予測図</b></p> <p>紫・・・5.0m以上  赤・・・3.0m以上～5.0m未満  橙・・・2.0m以上～3.0m未満  黄・・・1.0m以上～2.0m未満  緑・・・0.5m以上～1.0m未満  水色・・・0.5m未満</p> <p>◇大きな地震が発生し大津波警報が発令されたときに、赤色に着色された場所 A、緑色に着色された場所 B、着色されていない場所 C にいるとしたら、それぞれどんな行動をするだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A や B の場所にいたら、C の場所へ避難する。</li> <li>・ C の場所なら安全</li> </ul>	<p>○導入として、南海・東南海地震が定期的に来ていることを話し、近いうちに大地震が来るかもしれないという危機感を持たせる。</p> <p>○校区の津波浸水予測図があれば提示する。</p> <p>○生徒が具体的な場所をイメージできるように、一部を拡大したものをスライドや黒板掲示として提示する。</p> <p>●校区に津波による浸水が想定されていない場合は、校外学習等に出かける可能性のある地域の津波浸水予測図を用いる。</p> <p>●近隣の市町村を見比べてもよい</p> <p>●各市町のハザードマップを使用してもよい</p> <p>●小5・6年【資料311】を提示してもよい</p> <p>○マグニチュード 8.6 の東海・東南海・南海地震が同時発生し、津波が来襲した場合を想定して作成されているものであることを知らせる。</p> <p>○着色されていない部分は津波による浸水が想定されておらず、この図からは安全なイメージを受けることを確認しておく。</p>
	<b>学習課題『津波浸水予測図の活用方法について考えよう。』</b>	

	<b>学習活動と内容</b> 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	<b>指導上の留意点</b> 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
<b>展 開</b>	<p><b>2 東日本大震災発生時における釜石東中学校の事例に学ぶ。</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【資料511】を提示</b></p> <p>◇「東日本大震災で被災した釜石市鵜住居（うのすまい）地区の浸水予測図」はどのように作られていたのでしょうか。</p> <p>◇明治及び昭和三陸津波や昭和35年のチリ地震津波の浸水域をもとに作成されています。</p> <p>◇丸数字は一次避難所を示しています。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料512】を提示</b></p> <p>◇「東日本大震災による死者・行方不明者居住地分布」のような状況になったのはどうしてだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波浸水予測図で安全だと考えてその場所にとどまった。</li> <li>・これまでの津波で浸水したことがなかったので安全だと考えていたのではないか。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料513】を提示</b></p> <p>◇釜石東中学校と鵜住居小学校は、浸水予測範囲の外側にあります。小学校の校舎は津波でこのような状態になってしまいました。当日、児童や生徒はまだ学校にいたそうです。この津波で、子ども達や先生はどうなったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの犠牲者が出たのではないか。</li> <li>・何人かは犠牲になったのではないか。</li> <li>・他の場所に避難できたのだろうか。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料514】を提示</b></p> <p>◇想定をはるかに超える大津波に襲われながら、両校の児童生徒が全員無事であったことは、新聞でも大きく報道されていました。このときの避難の様子を見てみましょう。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【資料511】</b></p> <p>○これまでに大きな被害をもたらした津波による浸水域をもとに作成されていることを知らせる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料512】</b></p> <p>○赤や黄色の部分では死者はおらず、浸水が想定されていない場所で多くの死者が出ていることに気付かせる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料513】</b></p> <p>○前出の【資料512】で、両校の位置を確認する。また、小学校は3階建ての鉄筋校舎で、耐震工事を済ませて間もなかったことを知らせる。</p> <p>○数人に発表させた後に、全員無事であったことを知らせる。</p> <p>●必要に応じて副教材を使用して学習してもよい。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料514】</b></p>

<p style="text-align: center;"><b>学習活動と内容</b></p> <p style="text-align: center;">主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など</p>	<p style="text-align: center;"><b>指導上の留意点</b></p> <p style="text-align: center;">支援（○）、評価（☆）、参考（●）など</p>
<p style="text-align: center;"><b>【資料-515】～【資料-519】を提示</b></p> <p>◇海の近くにある中学校の生徒が、すぐに避難するように伝えながら、あらかじめ決めていた避難場所まで避難した。</p> <p>◇中学生が避難している様子を見て、小学生も避難を開始した。避難場所で、幼稚園児も合流した。【資料-515】</p> <p>◇津波避難所になっている介護福祉施設に到着するが「まだ危険だ」と判断し、次の避難場所へ避難を開始した。【資料-516】</p> <p>◇さらに危険を感じた生徒達は、さらに高台へ避難した。【資料-517】</p> <p>◇最後に石材店に避難していった。【資料-518】</p> <p>◇津波は、介護福祉施設の直前までやってきた。【資料-519】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-515】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-516】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-517】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-518】</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>【資料-519】</p> </div> <p style="text-align: center;"><b>【ワークシート-51】を配付</b></p> <p>◇児童生徒たちが全員無事だった理由を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が小学生に避難するように指示した。</li> <li>・当初、想定していた避難場所でも危険だと判断できたことが大きい。</li> <li>・想定にとらわれず、状況を判断しながら行動した。</li> <li>・日頃から避難訓練や防災学習を積み重ねていた。</li> </ul>	<p>○【資料-514】を提示し、【資料-515】～【資料-519】を順に見せながら、子どもたちの避難の様子を説明する。</p> <p>○【資料-515】当初、想定していた避難場所（津波で被災）</p> <p>○【資料-516】小学生を連れて避難する釜石東中学校の生徒</p> <p>○【資料-517】子どもたちが介護福祉施設に到着した直後の様子。津波はこの数分後に施設のすぐ近くにまで到達した。</p> <p>○【資料-518】最終的には子どもたちは石材店に避難した。介護福祉施設のすぐ近くまで被災した状況を読み取ることができる。</p> <p>○【資料-519】2回目の避難場所の介護福祉施設。右下の写真は、この施設から、子どもたちが避難して来た道路を撮影したもので壊滅的な被害を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●率先避難についての具体的な話、資料等を用いて学習してもよい。</li> <li>●必要に応じて副教材を使用して学習してもよい。</li> </ul> <p>○提示された情報をもとに発言するようにさせる。</p> <p>○生徒の発言を整理しながら、津波避難三原則を示し、【ワークシート-51】に記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定にとらわれるな。</li> <li>・最善を尽くせ。</li> <li>・率先避難者たれ。</li> </ul> </div> <p>○釜石東中学校の生徒は、防災学習の中で、津波避難三原則を徹底して学んでいたことを知らせる。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p><b>3 津波浸水予測図をどう活用すればよいかを考え、意見を交流する。</b></p> <p>◇津波浸水予測図はある方がよいですか、ない方がよいですか。津波避難三原則を踏まえて考えてみましょう。</p> <p>&lt;1 ある方がよい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生の目安になる。</li> <li>・昔の津波被害の経験を活かせる。</li> </ul> <p>&lt;2 ない方がよい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釜石市の状況を見ると、ない方が良かったと思う。</li> <li>・信用してはいけないものは、作っても仕方がない。</li> </ul> <p>&lt;3 わからない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある規模の津波を想定した図ということ、考えて活用しなければいけない。</li> </ul>	<p>○津波浸水予測図の想定を再度確認する。</p> <p>○和歌山県総合防災課のホームページにも、「これ（この想定）を上回る規模の地震や津波が発生する可能性もありますので…」と書かれていることを知らせる。</p> <p>○【ワークシート-51】に記入させる。</p> <p>○挙手で立場を明確にさせた後に、理由を発言させる。</p> <p>○発言が一方に偏る場合には、【資料-512】を再度提示し、津波浸水予測図の利点と問題点の両面にわたる意見が出るように配慮する。</p> <p>問題点：津波浸水予測図の想定にとらわれてしまう。</p> <p>利点：過去の津波の経験をもとに災害の規模をとらえる目安となる。</p> <p>○津波浸水予測図は、避難訓練を計画したり図上演習を行ったりする場合に参考になる。別途実施する、これらの活動において、津波浸水予測図の利点や必要性を気付かせる。</p>
まとめ	<p><b>4 授業を振り返り、考えをまとめる。</b></p> <p>◇ワークシートに授業の感想を書きましょう。</p>	<p>○【ワークシート-51】に記入させる。</p> <p>☆津波避難三原則を理解できたか。</p> <p>☆津波浸水予測図は安全を保証するものではなく、ある想定に基づいて作成されたものであることを理解したうえで、その活用を考えることができたか。</p> <p>●釜石の新聞記事等を活用してもよい。</p>

### 3 備考

- ・各地の津波浸水予測図（平成 17 年 3 月作成）は、資料を参照のこと  
和歌山市【資料-451】～【資料-458】・・・串本町【資料-485】～【資料-490】  
海南市【資料-459】～【資料-460】・・・那智勝浦町【資料-491】～【資料-493】  
有田市【資料-461】～【資料-462】・・・太地町【資料-494】新宮市【資料-495】  
（和歌山県情報館：総合防災課：和歌山県津波浸水予測図：県全域図）

### 4 その他資料（出典）

- ・【資料-511】～【資料-519】：群馬大学大学院片田敏孝教授提供
- ・副教材例「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』（企画・制作：気象庁 制作・協力：東映株式会社）  
「鵜住居 避難経路を車が走った動画」（YouTube）<http://www.youtube.com/watch?v=pbgu9Ad97wU>  
「鵜住居 避難経路を人が走った動画（検討中）」（群馬大学大学院 片田研究室）

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

問い1 2つの地図(資料-511と512)を見て、わかることを書いてください。

問い2 [資料-513]、ここにとどまっていたら(3階に避難していたら)、どうなっていたでしょうか？

問い3 「津波浸水予測図は、あった方がよい？ない方がよい？」

1 ある方がよい

2 ない方がよい

3 わからない

理由

※1から3の番号に○をつけさせて、その理由などの意見を記入させる。

※話し合いの際にはメモを書き加える。

「津波避難三原則」

- 
- 
- 

☆授業を受けての感想を書きましょう。

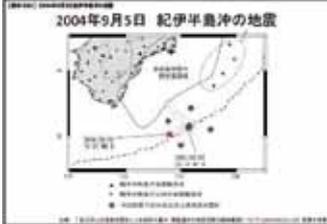
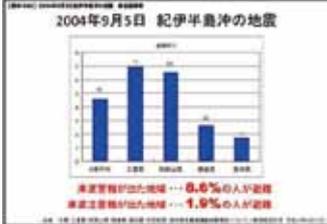
# 中学校 (5-2)

## II 対処行動を知る E 避難できない人間の心理を知る 【学級活動 1 時間】

### 1 目標

- ・防災についての知識があっても行動できない人間の心理を理解したうえで、災害発生時に率先して避難行動する意味を持たせる。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 日常のいろいろな状況を想定して、そのとき地震が発生したらどうするかを考える。</b></p> <p>◇今、非常ベルが鳴ったら・・・どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放っておく。(何かの間違いだろう、悪戯かも)</li> <li>・みんなが避難するようなら避難する。</li> <li>・先生の指示があるまで待つ。</li> <li>・すぐに避難する。</li> </ul>	<p>○アイスブレイクとして意見交換を行う。避難行動を起こそうとしない生徒が多いと考えられるので、その理由も述べさせ、学習課題を考える際の材料とする。</p>
<p><b>学習課題『避難できない人間の心理について、理解しよう。』</b></p>		
展開	<p><b>2 災害時に避難行動を阻害する心理を考える。</b></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料-521】【資料-522】を提示</p> <p>◇平成 16 年 9 月 5 日に紀伊半島沖で地震が発生し津波警報が発令されましたが、避難勧告が出たにもかかわらず避難しなかった人がたくさんいました。なぜ避難しなかったのだと思いますか。</p> <p>&lt;正常化の偏見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大したことないだろうと思った。</li> <li>・自分だけは大丈夫と考えた。</li> </ul> <p>&lt;集団同調性バイアス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな避難しなかったから。</li> </ul> <p>&lt;エキスパート・エラー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家などが大丈夫だといったから。</li> </ul> <p>&lt;経験にとらわれる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の地震では津波はここまでこなかった。</li> </ul> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【ワークシート-52】を配付</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料-523】を提示</p>	<div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-521】 2004 年 9 月 5 日紀伊半島沖の地震</b></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-522】 津波避難率</b></p> </div> <p>○【ワークシート-52】に記入させる。</p> <p>○発言が出尽くしたところで、【資料-523】を提示する。</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-523】 避難しなかった理由</b></p> </div>

<p style="text-align: center;"><b>学習活動と内容</b></p> <p style="text-align: center;">主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など</p>	<p style="text-align: center;"><b>指導上の留意点</b></p> <p style="text-align: center;">支援（○）、評価（☆）、参考（●）など</p>
<p style="text-align: center;"><b>【資料-524】～【資料-526】を提示</b></p> <p>◇正常化の偏見とは、「思い込みによって頭が非常事態であるという認識に切り替わらない状態のこと」【資料-524】</p> <p>◇集団同調性バイアスとは、「多数派意見が正しいと思いつくこと」【資料-525】</p> <p>◇エキスパート・エラーとは、「専門家の指示をうのみにしてしまったことによって招いた最悪の結果のこと」【資料-526】</p> <p>◇これらの心理の中で、自分に当てはまると思うものはありますか。</p> <p>◇どんな状況であれば避難行動を起こせるでしょうか。グループで話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難している人がいれば、自分もついていける。</li> <li>・東日本大震災を思い出して、最悪を考えて行動する。</li> <li>・想定や経験にとらわれない。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【資料-527】を提示</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">2004年9月5日 紀伊平島沖の地震</p> <p style="text-align: center;">三重県尾鷲市の避難率は<b>19.7%</b></p> <p style="font-size: small;">・地震の発生直後に逃げ込んでいた1人のおじさんが、柱の隙間に避難を呼びかけると、自ら率先していくつぞ避難開始</p> <p style="font-size: small;">・これを見たおじが、続いて避難</p> <p style="font-size: small;">・さらに、避難する様子を他の住民が次々に観察</p> <p style="text-align: center;"><b>率先避難者</b></p> <p style="font-size: x-small;">先に避難することで、周りの人に避難している姿を見せる</p> <p style="font-size: x-small;">それにつられて、他の人も避難しやすくなる</p> </div> <p style="text-align: center;"><b>【資料-527】 率先避難者 三重県尾鷲市の例</b></p>	<p>○【資料-523】の理由や、生徒の発言をとらえながら、災害発生時の人々の心理を、【資料-524】～【資料-526】を用いて整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">根拠はないのだけど・・・</p> <p style="text-align: center;">今まで大丈夫だったから、 今回も大丈夫だろう！</p> <p style="text-align: center;"><b>正常化の偏見</b></p> <p style="font-size: x-small;">「自分だけは大丈夫と思ってしまう人間の心理 例：大震災発生時、自分は大丈夫だから 119で通報しなかった 正しく正しい結果に思い、少し遅くなる</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-524】 正常化の偏見</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">本当は津波が心配だったけど・・・</p> <p style="text-align: center;">たくさんの方が津波を気に していないようだったので、 自分もつられてしまった</p> <p style="text-align: center;"><b>集団同調性バイアス</b></p> <p style="font-size: x-small;">「みんながやっているから・・・」という人間の心理 周りや他人に影響されてしまうこと</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-525】 集団同調性バイアス</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">専門家の言うとおりにするのが一番！</p> <p style="text-align: center;">専門家（先生）の指示に 従ってさえいれば大丈夫 だと思っていた</p> <p style="text-align: center;">→ 思考停止、自分で判断しない</p> <p style="text-align: center;"><b>エキスパート・エラー</b></p> <p style="font-size: x-small;">専門家の指示をうのみにしてしまったことによって 招いた最悪の結果のこと</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-526】 エキスパート・エラー</b></p> </div> <p>○挙手で自分に当てはまる内容を確認させることによって、災害時に誰もが陥りやすい心理状態であることを実感させる。</p> <p>●避難行動を妨げる要因は、この他にも考えられる。</p> <p>○【ワークシート-52】に記入させる。</p> <p>○4名程度のグループで意見交換させたあと、全体で考えを共有させる。</p> <p>○災害時に陥りやすい心理を踏まえて考えるようアドバイスする。</p> <p>○いずれも、津波避難三原則に帰結することを気付かせる。</p> <p>○平成16年の地震では、三重県尾鷲市のある地域では、率先避難者がいたため、他地域よりも避難率が高かったことを知らせる。</p> <p>○また、東日本大震災では、釜石東中学校の生徒が、小学校の生徒や地域の住民に対する率先避難者であったことを復習する。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）、予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）、評価（☆）、参考（●）など
	<p>◇この授業での学習を踏まえたうえで、実際に大津波警報が発令されたとき、あなたはどのようなことが心配ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動をとれるだろうか。</li> <li>・親や先生に「待機しよう」と言われたら行動しないかもしれない。</li> <li>・周りの人の行動の影響を受けてしまいそう。</li> <li>・不安はない。</li> </ul>	<p>○頭で理解していても行動に結びつけるのは簡単ではないという発言を認めつつ、災害時には率先して避難行動をしようとする意欲が大切だという意識を持てるよう励ます。</p> <p>○和歌山県における津波に関して、次の特徴を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-地震発生場所が陸地に近い和歌山県では、地震発生から津波到達までの時間が非常に短い。</li> <li>-また、大津波を引き起こす長い周期で揺れる地震は、場合によっては大きく揺れていることを認識できない場合がある。</li> <li>-「大きな揺れを感じたらすぐに避難する」とともに、「たとえ揺れを感じなくとも大津波警報が発令されたらすぐに避難」することが極めて重要である。</li> </ul>
ま と め	<p><b>3 授業を振り返り、考えをまとめる。</b></p> <p>◇ワークシートに授業の感想を書きましょう。</p> <p>◇さて、今、非常ベルが鳴ったらどうしますか。</p>	<p>○【ワークシート-52】に記入させる。</p> <p>☆災害時に陥りやすい心理を理解できたか。</p> <p>☆これらの心理を理解したうえで、災害時に率先避難者として行動しようという意識を持てるようになったか。</p> <p>○発問を投げかけるだけに留め、実際に避難行動をとることの難しさを再度認識させる。</p>

### 3 備考

- ・資料を拡大し黒板に提示、印刷して配布するなどして活用してもよい。

### 4 その他資料（出典）

- ・【資料-524】～【資料-526】：山村武彦「人は皆『自分だけは死なない』と思っている」（2005 宝島社刊）

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

## 2004年9月5日 紀伊半島沖の地震

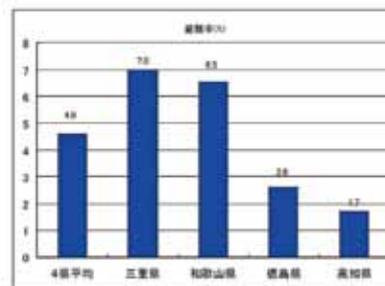
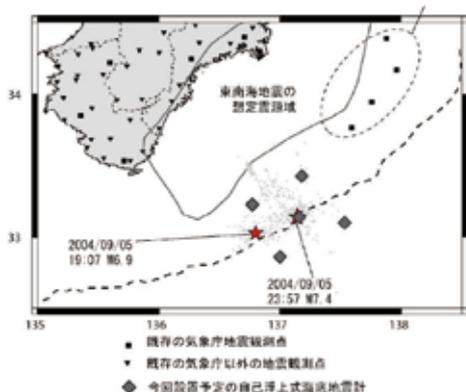


図15-16 避難率の県による違い

津波警報が出た地域・・・8.6%の人が避難  
津波注意報が出た地域・・・1.9%の人が避難

出典 「自己浮上式海底地震計による紀伊半島や東海海域の地震活動の臨時観測について」2004/09/10 14:00 気象庁発表

出典 「4県(三重県・和歌山県・徳島県・高知県)共同地震・津波防災意識調査結果報告について」(東京理科大学 平成17年4月15日)

○平成16年9月5日に紀伊半島沖で地震が発生し、津波警報が発令されました。

しかし、避難しなかった人がたくさんいました。なぜ避難しなかったのだと思いますか。

○どんな状況であれば、避難行動を起こせるでしょうか。

☆授業を受けての感想を書きましょう。

第 III 部 2004 年 9 月 5 日紀伊半島南東沖地震時の津波危険地区住民の避難行動（一部抜粋）

2004 年 9 月 5 日午後 7 時 07 分、紀伊半島沖の地下 10km を震源とするマグニチュード 6.9 の地震が起き、7 分後の午後 7 時 14 分には三重県南部（伊勢市以南）及び和歌山県沿岸に津波注意報が出され、続いて午後 8 時 16 分、徳島県、高知県、三重県の南部以外に津波注意報が発表されたが、同午後 9 時 15 分、注意報はすべて解除された。続けて 11 時 57 分頃、東海道沖を震源（午後 7 時 07 分の地震とほぼ同じ場所）とするマグニチュード 7.4 の大地震（本震＝紀伊半島南東沖地震）が起き、9 月 6 日午前 0 時 01 分には和歌山県沿岸に津波警報、徳島県と高知県の沿岸には津波注意報が出された。さらに午前 0 時 03 分には三重県南部（伊勢市以南）に津波警報、三重県の明和町以北には津波注意報が出された。

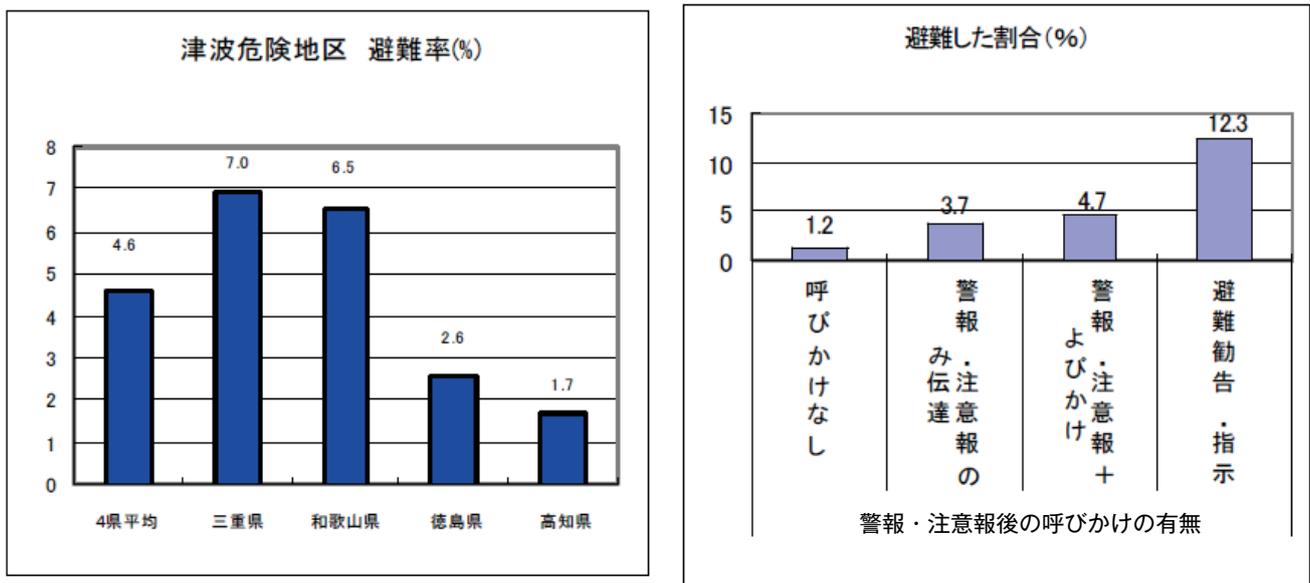


図15 各県の避難率と市町村の呼びかけ内容による避難率の違い

（以下、避難状況等についての調査結果考察より一部抜粋）

- ① 避難勧告・指示を出した 11 市町村の住民の半数以上が防災無線やテレビなどから避難の呼びかけを聞いている。その受け止め方は多様であり、「避難命令」と受け止めた人が 2 割弱、できるだけ避難した方がよいと受け止めた人が 4 割、どちらかといえば避難した方がよいと軽く受け止めた人も 4 人に 1 人程度いた。
- ② 実際に避難した人は津波警報対象地区でも、わずか 9%に過ぎず、注意報対象地区では 2%であった。また、避難勧告・指示を出した市町村の住民でも 12%に留まった。しかも、市町村による避難勧告・指示や津波警報を聞いてやっと避難した人が非常に多く、揺れの直後に自己判断で避難した人は少なかった。また、避難所要時間も平均 30 分近くかかっている。
- ③ 避難しなかった理由を尋ねた結果、「そのときいた場所が危険とは思わなかった」、「予想される津波の高さが 50cm とか 1m 程度と放送していたので、危険とは思わなかった」という理由が多かった。このことは、津波危険地区に住んでいるという意識が弱く、今回の津波警報を安心情報に読み変えてしまう人が多かったことを示している。

## 中学校 (5-3)

### Ⅲ 先人の経験に学ぶ    A 語り継ぐ責任    【学級活動 1 時間】

#### 1 目標

- ・津波の被害を乗り越えてきた先人の思いに触れることによって、津波の被害の経験を語り継ぐことの大切さを理解するとともに、地域及び家庭における防災意識の高揚に貢献しようとする実践力の向上を図る。

#### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 本時の課題を把握する。</b></p> <p>◇東日本大震災の大災害の中で、釜石市の小中学生には犠牲者がほとんどいませんでした。津波による犠牲者をなくすために、人々はどのような努力をしてきたのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>学習課題『過去の被災経験を語り継いでいく意味を考えよう。』</b> </div>	<p>○新聞記事等があれば活用する。 ●【資料511】～【資料519】を用いてもよい。</p>
展開	<p><b>2 津波被害を伝承しようとする先人の思いを理解する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>【資料-531】を配付</b> </div> <p>◇「語り伝えよ」を読み、印象に残った部分を、理由などのコメントをつけて発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ???</li> <li>・ ???</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>【ワークシート-53】を配付</b> </div> <p>◇津波を体験していない祖父が、津波の経験を孫に語り継いでいるのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波から何かなんでも家族を守りたい。</li> <li>・ 津波で命を落とさないためには逃げるしかないことを伝えたい。</li> <li>・ 両親や祖父母に教わった教訓を語り継がねばならないという使命感</li> <li>・ 津波の恐ろしさを絶対に忘れてはいけない。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  </div> <p><b>【資料-531】生徒作文「語り伝えよ」</b> (平成 20 年度に、釜石市両石(りょういし)地区に住む中学校 3 年生が書いた作文)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>※釜石市両石地区は、明治三陸大津波で 900 人中 780 人余りが亡くなり、大きな被害を受けた。作者の祖父は、明治・昭和三陸大津波の直接の被害を受けてはいないが、孫にその経験を語り伝えている。</p> </div> <p>○【ワークシート-53】に記入させる。</p>

**3 津波被害を最小限に留めるうえで、津波被害の伝承が重要な意味をもつことに気付く。**

**【資料-532】を提示**



**【資料-532】シムル島の言い伝え**

◇中学生作文「語り伝えよ」に登場する祖父と、「シムル島の言い伝え」に共通しているのは、どんなところでしょうか。

- ・津波がやってきたときには、高台に避難するしかない。
- ・100年近く、津波の恐ろしさが語り継がれてきた。

**4 和歌山県に残されている津波に関する史跡に込められた先人の思いを考える。**

**【動画】DVD チャプターC を上映**



**【動画】チャプターC 「稲むらの火」から学ぶもの  
～津波に立ち向かった男 濱口梧陵～(4:51)**

◇広村堤防は、建物や田畑に津波が入ってこないようにするために造られましたが、それ以外に、どんな思いが込められていると思いますか。

- ・いつか大津波がやってくるということを伝えようとしている。
- ・この堤防で安心しないで、津波の恐れがあるときには必ず避難する。
- ・堤防を造って災害で荒廃した町を復興させたい。

- 全世界で23万人以上の死者・行方不明者がでた2004年インド洋津波において、シムル島ではほとんど犠牲者がでなかった。
- 古い言い伝えを守り、みんなで避難することによって被災を免れたシムル島の例をもとに、過去の体験を語り継いでいく意味を理解させる。

☆「津波に対しては避難あるのみだ」と語り伝えようとした先人の思いを理解できたか。

※「稲むらの火」の物語のモデルとして知られている郷土の先人・濱口梧陵や広村堤防を紹介している。

●【動画】特典映像～地震津波歴史遺構～に近隣の史跡が取り上げられていれば、併せて活用するとよい。

- 【ワークシート-53】に記入させる。
- 堤防は「津波が来ても大丈夫」な町を保証するためにあるのではなく、あくまでも最小限の防御であること、そして、いつか大津波が発生することへの注意を促すためにあることを確認する。

※広村堤防の建設は、地元民が土木事業に携わることによる経済復興にも寄与したことが、現在でも高く評価されている。

**5 授業を振り返り、考えをまとめる。**

◇将来発生する津波による災害を最小限にとどめるために、私たちがしなければならぬことについて、授業の感想も含めて書きましよう。

- 【ワークシート-53】に記入させる。
- ☆和歌山県沿岸部は津波による被害が必ず発生する場所であることや、津波避難三原則の理念を、東日本大震災を目撃した今、家庭や地域で永く語り継ごうという意識を持てたか。

まとめ

**3 備考**

**4 その他資料（出典）**

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 名前(\_\_\_\_\_)

- 津波を体験していない祖父が、津波の経験を孫に語り継いでいるのはどうしてでしょうか。

- 広村堤防は、建物や田畑に津波が入ってこないようにするために造られましたが、  
それ以外に、どんな思いが込められていると思いますか。

- ☆授業を受けての感想を書きましょう。

# 各地方指導事例及び参考指導事例

## 小学校 1年生（1-4②） 一紀美野町立野上小学校

### II 対処行動を知る A 地震から身を守る方法を知る 【学級活動 1時間】

#### 1 目標

- ・地震から身を守るための正しい行動を知る。

#### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 学校で大きな地震が発生したときの身の守り方について学習することを知る。</p> <p>◇わたしたちのまちで大きな地震が起こったときについて考えてみましょう。</p> <p>◇大きな地震が起こると、学校や家、まちはどうなるでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">写真を提示</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物が落ちてくる。</li> <li>・ガラスが割れる。</li> <li>・家が壊れる。</li> <li>・崖崩れが起きる。</li> <li>・道路に段差や地割れができる。</li> <li>・電気やガス、水道が止まる。</li> <li>・火事が起こる。</li> <li>・本棚やタンスなどが倒れる。</li> <li>・ピアノが動く。</li> <li>・塀が倒れる。</li> <li>・せまい道は塞がれる。</li> <li>・津波が来る。</li> </ul>	<p>○今まで、どんなところでどんなときに地震を経験したかを発表させる。</p> <p>○大地震が発生するとどのような被害が発生するのか想像させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-141】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-142】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-143】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【資料-144】</p> </div> </div>
【展開】	<p>2 地震発生時の避難方法について、劇を見ながら考える。</p> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペープサート</div>   </div> <p>◇大きな声で大騒ぎしたら、なぜいけないのか、考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放送や先生の話が聞けなくなる。</li> <li>・あわてないで、机の下にもぐるほうがいい。</li> </ul> <p>◇早く避難しようと走ったり、人を押したりすると、なぜいけないのか、考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こけて、けがをする。</li> <li>・かいだんでこけると、あぶない。</li> </ul>	<p>○場面の様子がよく分かるような劇を見せて、意見を発表させる。</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">【資料-148】ペープサート台本「あんぜんにひなんするには…」を参照</p> <p>①大騒ぎする様子の劇を見せる。</p> <p>②避難するときに、走ったり人を押したりする様子の劇を見せる。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	◇教室に忘れたものなどを取りにもどると、なぜいけないのか、考えましょう。 ・みんなからはぐれる。 ・ひとりになると、あぶない。 ・けがをするかもしれない。	③教室に忘れたものを取りに行こうとする劇を見せる。
【まとめ】	3 学習したことを、まとめる。 ◇大事なことを、まとめてみましょう。 お・・・おさない は・・・はしらない し・・・しゃべらない も・・・もどらない ◇学校で地震が起こったときどうするか、やってみましょう。 ①物が落ちてきそうなところから離れ、机の下などにもぐる。 ②揺れが収まったら、防災ざぶとんを被り、騒がず廊下に並ぶ。 ③人を押ししたり走ったりせずに階段を下り、運動場に避難する。 ◇休憩時間中で先生がそばにいないときはどうするか、確認する。 ・運動場にいるときは、教室に戻らず、運動場にいる。 ・教室やトイレや廊下にいるときは、先生がやってくるのを待たずに、安全なところを通過して運動場に集まる。	○【ワークシート-14②】に記入させる。 ①「おはしも」の約束を確認する。 ②その他の大事なことや、分かったことを書かせる。  ○実際に、避難訓練のようにやってみる。 【展開例】 ○【資料-147】訓練用緊急地震速報を流し、安全に行動できるように指導する。 ○急なトラブルがある場合は、避難経路が変わることも知らせる。  ☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。

出典：【資料-141】は文部科学省「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」

【資料-142】は総務省消防庁「チャレンジ！防災48」

【資料-143】【資料-144】は「釜石市津波防災教育のための手引き」

【ワークシート-14②】

あんぜんに ひなんするには・・・

ー じしんが おこったら ー

1ねん なまえ ( )

お・・・ ( )

は・・・ ( )

し・・・ ( )

も・・・ ( )

がくしゅうして わかったこと おもったこと

---

---

---

---

---

---

---

---

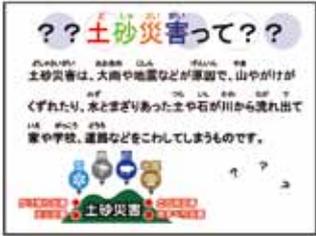
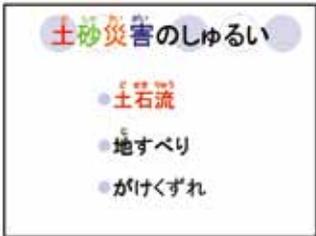
# 小学校 3・4年生（2-2）

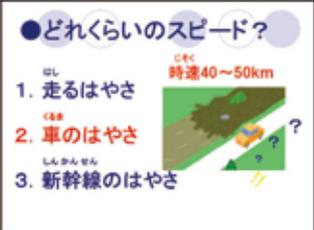
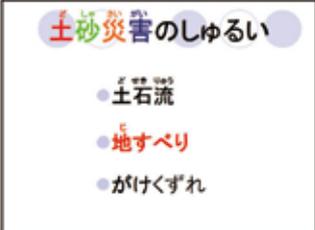
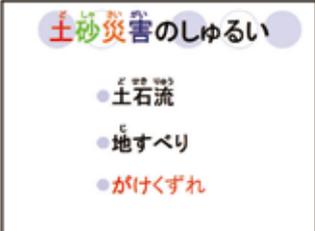
## I 自然災害を知る F 土砂災害の特徴を知る 【学級活動 1時間】

### 1 目標

- ・土砂災害の発生しやすい場所や被害の特徴を知り、命を守るための方法を知る。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 地域の自然・地形の特徴を知る。</p> <p>◇私たちの地域はどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山がある ・川がある ・ため池がある ・海がある</li> <li>・自然豊かで空気のきれいなところ ・食べ物がおいしい</li> <li>・昔から人が住んでいる ・おじいちゃんおばあちゃんが多い</li> </ul> <p>◇この地域は、自然に恵まれ、昔から人が生活していたところですが、ときどき山や川が暴れることがあります。今日はこの地域で起こる災害「土砂災害」について学習します。</p>	<p>○自然の恩恵を受け、古くから人の営みが見られた住みよい地域であることを確認する。</p> <p>※災害を強調するのではなく、災害をやり過ぎず知恵を学ぶための事前学習と位置づける。</p>
【展開】	<p>2 土砂災害の種類・原因等特徴を知る。</p> <p>◇スライドを見ながら、どんなところが危ないのか、被害に遭わないようにするにはどうすればよいか考えましょう。</p> <p style="text-align: center;">【スライド】「土砂災害を学ぼう」を上映</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	<p>【スライド】「土砂災害を学ぼう」を順に上映</p> <p>○和歌山県の場合、山間部や海岸近くまで山が迫っている地域が多いので、地域の特徴を想起させながら、説明する。</p> <p>○現象をイメージしやすいようにアニメーション動画になっている。</p> <p>○平成23年9月の大水害では山間部に降った雨が山肌を削り、流木・岩・家屋などを凄まじい勢いで流していったことを確認する。</p> <p>○那智勝浦町那智川や田辺市滝尻でも土石流の被害が大きかった。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇) 予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○) と評価 (☆)
【展開】	 	<p>○土石流のスピードはクイズになっているので、子どもたちに考えさせる。 場所にもよるが、水が下る分津波よりも速いことに気付かせる。</p>
	 	<p>○地滑りなどによって土砂ダムができると、下流に住む人々は不安な日々が続くこともある。</p>
	 	<p>○地滑りの起因についてクイズあり。地滑りは広い範囲でゆっくりと地面が動く。</p>
	 	<p>○崖崩れは急に発生する。</p>
	 	<p>○土砂災害を防ぐために国や県が対策をとっている。(砂防ダムなど)</p>
	 	<p>○降り続く雨には十分注意し、危険サインである現象が起こった時は緊急事態であり、すぐ避難しなければ危ないことを確認する。</p>

	<p>学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など</p>	<p>指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）</p>
	 <p>◇土砂災害のスライドはどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨の時は、川や山に近づかないほうがいいな。</li> <li>・まわりで雨が降っていなくても、山奥の天气が悪いと急に水かさが増えることが分かった。</li> <li>・がけくずれや土石流は気付いてから逃げても遅いと思う。いつ逃げればいいのか。</li> </ul>	<p>○危険な現象を見つけたときは、周りの人に知らせながら、まず自分自身が避難する。（率先避難）</p>
<p>【まとめ】</p>	<p>3 学習の感想を書く。</p> <p>◇今日の学習で分かったことや、思ったことを書きましよう。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【ワークシート 22】【ダイジェスト版】を配付</p> <p>◇土石流、地滑り、崖崩れといった土砂災害は、地震や津波のように広い範囲で起こることはないですが、避難が遅れると命を落とします。みなさんはいつ避難しますか。この問題については次の時間に考えましよう。</p>	<p>○スライドの場合、上映が終わると何も残らないので、子どもたちにワークシートと一緒にダイジェスト版資料を配付する。</p> <p>☆土砂災害は大雨がもたらす自然災害であることを理解できたか。</p>

【ワークシート-22】

# 土砂災害を学ぼう

ねん 名まえ ( )

土砂災害は、がふりつづいたり、大きな地震  
があったときにおこります。

土砂災害には、おもに3つのしゅるいがあります。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

学習して わかったこと おもったこと

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# 小学校 5年生（3-1㉔） 一広川町立広小学校一

## II 対処行動を知る B 津波からの避難方法を知る 【学級活動：避難訓練事前学習 1時間】

### 1 目標

- ・避難訓練に向けて、地震や津波から正しく、安全に避難するための方法や心構えを理解する。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 映像を見て、災害の怖さを知る。</p> <p><b>【動画】DVDチャプターBを上映</b></p> <p>◇津波はどんな時に来るのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震のあと</li> <li>・揺れがなくても遠いところから来ることもある。</li> <li>・南海地震が発生したとき</li> </ul> <p>◇映像を見て気がついたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家が倒れている。</li> <li>・津波で家が流されている。</li> <li>・車がかたむいている。</li> <li>・津波はものすごいスピードでやってくる。</li> </ul>	<p>○DVDを見せる。</p>  <p><b>【動画】チャプターB 津波映像の衝撃</b> ～スマトラ地震から学ぶ～（4:00）</p> <p>※建物が地震によって倒壊したり、津波が襲ってくる映像を用意し、地震・津波の威力を想起させる。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>学習課題「災害から命を守るための避難方法や心構えを勉強しましょう。」</b></p>	<p>○学習課題を黒板に提示する。</p>
	<p>2 地震が発生した時、どのような行動をとればよいかを話し合う。</p> <p>◇地震発生時、自分の身を守るためにはどのように行動すればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭を守る。（座布団、本）</li> <li>・机の下にもぐり、机の足をしっかり持つ。</li> <li>・低い姿勢をとる。</li> <li>・家具から離れる。</li> <li>・広い所に行く。</li> <li>・靴を履く。</li> </ul> <p>◇揺れがおさまった後、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいでしょうか。</p> <p>授業中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の指示に従う。</li> <li>・廊下に並び。運動場に出る。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>お・は・し・も</b></p>	<p>〈 第一次避難 〉</p> <p>○あわてずに落ち着いて身の安全を確保させる。</p> <p>☆教室内での安全確保について確認できたか。</p> <p>〈 第二次避難 〉</p> <p>○「お・は・し・も」を確認する。</p> <p>○一人にいるときもあるので、自己判断して速やかに行動できるようにさせたい。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>休み時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出口を確保する。</li> <li>・安全に気をつけて自己判断し、運動場に集合する。</li> </ul> <p>学校以外の所に居た時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡神社に逃げる（登下校時）。</li> <li>・一人で逃げる。</li> </ul> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">津波てんでんこ</div> <p>◇ 11メートル以上の津波が襲ってきたとき、どうすればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かってからでは間に合わない。</li> <li>・どんな津波が来るか分からないから、最初から八幡神社に逃げる。</li> <li>・八幡神社なら裏山へ登る。</li> </ul> <p>◇だから、津波避難3原則というものがあります。</p> <p>①想定にとらわれない 油断しない、大丈夫だと安心しない。</p> <p>②最善を尽くす 自分にできる精一杯の避難をする。</p> <p>③先避難者になれ 自分が先に避難して、みんなを刺激する。</p>	<p>〈 第三次避難 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな揺れや長く揺れたときに、高台に素早く逃げることを押える。</li> <li>○ 広川町には約30分で最大11メートルの津波が襲ってくるかもしれないことを確認する</li> <li>○ 本校の津波避難場所の写真を提示する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>広川町 八幡神社</p> </div> <p>☆家族会議での避難についての約束を思い出すことができたか。</p> <p>〈 第四次避難 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震、津波避難3原則を知る。</li> <li>○ 更に高いところへ避難できる場所を選ばせる。低いところを通らないと到達できない場合は、リスクを考えさせる。特に浸水してからだと移動は不可能であることから、「最善を尽くす」ことの大事さを理解させる。</li> <li>○ そのとき、自分にできる限りのことをする。</li> </ul> <p>☆地震や津波から正しく、安全に避難する方法や心構えを理解することができたか。</p> <p>○ いざという時、避難訓練でやったことしかできないということを伝える。</p>
【まとめ】	<p>3 学習を振り返ってわかったことを書く。</p> <p>◇今日の授業の感想を書きましょう。</p>	<p>☆身を守り、より高く、より速く、自分の命は自分で守ろうとする姿勢を高めることができたか。</p> <p>◇学習を振り返ってわかったことを書かせる。</p>

### 3 備考

この学習は、5年生の総合的な学習の時間「立ち上がり 災害から」と並行して実施します。

## 中学校（5-1②）

### II 対処行動を知る B 津波からの避難方法を知る② 【学級活動 1時間】

#### 1 目標

- ・「津波てんでんこ」に込められた願いにふれ、自分自身が避難することで家族や周りの人も助かることを理解する。

#### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 津波避難3原則を確認する。</p> <p>◇津波避難3原則を覚えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定にとられるな</li> <li>・最善をつくせ</li> <li>・率先避難者たれ</li> </ul> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークシート-51②を配付</p> <p>◇率先避難にもつながる「津波てんでんこ」について学習します。</p> <p style="text-align: center; border: 3px double black; padding: 5px;">学習課題「『津波てんでんこ』について考えよう。」</p>	<p>○前回の学習を想起させる。</p> <p>○個々の言葉について説明させる。不十分であれば、補足する。</p> <p>○ワークシートに記入させる。</p>
【展開】	<p>2 「津波てんでんこ」から率先避難の意味を考える。</p> <p>◇これからアニメ「約束の命」を上映します。主人公の思い、行動について考えながら見ましょう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【動画】DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」上映</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【動画】アニメーション「約束の命」（約3分）</p> <p>◇主人公の男の子の行動についてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の後すぐ津波のことを思い浮かべ、避難できたのは普段から訓練していたからだと思う。</li> <li>・家族の写真を見て、高台へ避難したのは家族できちんと話し合っていて、一人ひとりがきちんと避難する約束をしていたはずだ。</li> <li>・まちの人達に避難を呼びかけながら避難するなんて、なかなかできないと思う。</li> <li>・一人で避難してきた女の子にかけ言葉は、自分の願いでもあると思う。</li> </ul>	<p>【動画】津波防災啓発DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」内のアニメーション「約束の命」（約3分）を上映する。</p> <p>○主人公の率先避難の様子に注目させる。</p> <p>○地震直後に主人公が家族の写真を見たことに注目させる。</p>

	<p style="text-align: center;">学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）</p>
【展開】	<p>3 「津波てんでんこ」について話し合う。</p> <p>◇東北地方には「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。「てんでんこ」とは「てんでんばらばら」という意味で、津波が来たら、家族のことは構わないで、自分の命を守ることを考えて、てんでんばらばらに逃げろ、という言い伝えです。みなさんはどう思いますか。自分や家族のことを思い浮かべながら、グループで話し合ひましょう。</p> <p>＜グループ討議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父（祖母）が心配で自分だけで逃げられない。</li> <li>・親が避難しているか気になるので、確かめに行く。</li> <li>・自分だけ逃げるといのは、薄情な気がする。</li> <li>・一人で逃げるのは勇気が必要だ。</li> <li>・家族一人ひとりがきちんと逃げる確信がないと、自分も逃げられない。</li> </ul> <p>◇話し合ったことを発表してください。</p> <p>＜発表会 &amp; 全体討議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当にできるだろうか。</li> <li>・実行できればみんなが助かる。</li> <li>・祖母は「私のことは構わないで逃げなさい。」と言うけれど。</li> <li>・間に合うのなら逃げ遅れそうな人を助けたい。</li> </ul> <p>◇まとめの代わりにもう一つビデオを上映します。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【動画】DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」上映</p> <div data-bbox="360 1328 743 1697" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【動画】「津波てんでんこ」（約12分）</p> <p>◇自分だけでなかなか逃げられないですよ。東北地方では何度も津波に襲われているにも関わらず、犠牲者がたくさん出ています。だからこそ、一人ひとりがきちんと逃げるのが大事なのです。</p> <p>◇この地域では人を迎えに戻る時間はないですね。家族で話し合い、一人ひとりがきちんと逃げる約束をし、それを信じて避難しましょう。</p>	<p>○自分の思いを出させるために、4・5人のグループで話し合わせる。</p> <p>○自分の思いやメンバーの意見を【ワークシート-51②】に記録させる。</p> <p>○机間巡視して、全体で考えてみたい意見をチェックしておく。</p> <p>☆自分の思いを表現できたか。</p> <p>○時間がかかりそうなときは、チェックしておいたグループの発表を優先させる。</p> <p>【動画】津波防災啓発DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」内の「津波てんでんこ」（約12分）を上映する。</p> <p>○実際に学校や家庭・地域の避難訓練に積極的に参加し、避難経路や避難場所を確かめておくことが大切であることを確認する。</p> <p>○日高地方以南は地震発生後、津波到達時間が30分以内なので、すぐ避難行動を始めないと間に合わない。</p>

	<p>学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など</p>	<p>指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）</p>
<p>【まとめ】</p>	<p>4 学習を振り返り、考えをまとめる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-511②】避難カードを配付</b></p> <p>◇このカードを使って家族と避難場所を確認し、「自分の命は自分で守る」「てんでんこで避難する」ことを約束しておきましょう。そして、自分のカードは財布や手帳に挟んでおきましょう。</p> <div data-bbox="375 526 730 1019" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;"><b>【資料-511②】避難カード</b></p> <p>◇ワークシートに学習の感想を書きましょう。</p>	<p>○既に避難カードを配付している学校では、見本を見せて家族で話し合っているか確認する。</p> <p>○【ワークシート-51②】に記入させる。 ☆津波てんでんこは、家族と話し合い、信じ合わなければできないことであることを理解できたか。</p>
<p>3 備考</p>	<p>・【動画】「津波防災啓発DVD『犠牲者“ゼロ”をめざして』」（NHK和歌山放送局制作、和歌山県教育委員会発行）</p>	

## 津波からの避難方法を知る②

中学校 年 組 番 ( )

### 1 津波避難3原則 説明

・想定にとらわれるな

・最善をつくせ

・率先避難者たれ

### 2 「津波てんでんこ」(言い伝え)

「津波てんでんこ」についてどう思いますか。

グループで出た意見を書きましょう。

### 3 感想

.....

.....

.....

.....

.....

# 中学校（5-2②） 一上富田町立上富田中学校

## II 対処行動を知る E 避難できない人間の心理を知る 【学級活動 1時間】

### ■ 指導案について

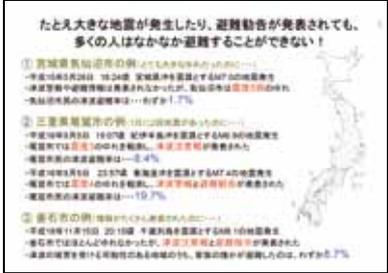
上富田町は津波だけでなく、川の氾濫、山崩れ、崖崩れ、などの災害も想定しなければならない実態も踏まえ、資料を入れ替えています。

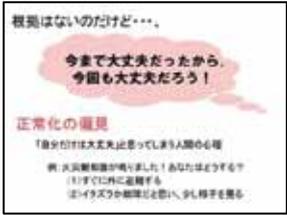
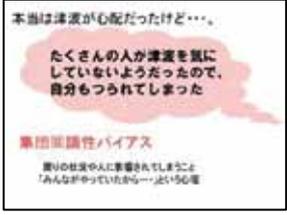
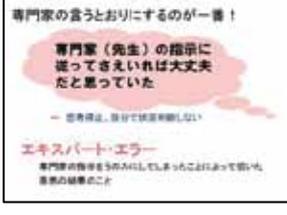
この学習は、高台にある朝来小学校への避難訓練に反映させるために実施しています。

### 1 目標

- ・災害にあった時の心理を理解する。
- ・災害発生時に率先して避難行動する意識を持たせる。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 日常のいろいろな状況を想定して、そのとき地震が発生したらどうするのかを考える。</p> <p>◇今、非常ベルが鳴ったら・・・どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かの間違いだろう、気にしない。</li> <li>・みんなの行動を見て行動する。</li> <li>・先生の指示に従う。</li> <li>・慌てて何をするか想像できない。</li> </ul>	<p>○アイスブレイクとして意見交換を行う。避難行動を起こそうとしない生徒が多いと考えられるので、その理由も述べさせ、2の学習課題を考える際の材料とする。</p>
【展開】	<p>2 災害時に避難行動を阻害する心理を考える。</p> <p>◇実際に災害に遭遇したときにどのような行動を取ったのか見てみましょう。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【資料-521②】【資料-522②】を配布</p>	 <p>たとえ大きな地震が発生したり、避難勧告が発表されても、多くの人はなかなか避難することができない！</p> <p>① 宮城県気仙沼市の例（1995年12月13日の大津波）          ・津波到達後約20分経過後、避難指示が発令されたが約30%の避難者          ・津波発生から避難開始までの平均時間は約15分であったが、避難完了は約30分を要した          ・津波発生時の津波避難率は約10%であった</p> <p>② 三重県津市町の例（1995年12月13日の大津波）          ・津波発生後約15分経過後、避難指示が発令されたが約20%の避難者          ・津波発生から避難開始までの平均時間は約10分であったが、避難完了は約20分を要した          ・津波発生時の津波避難率は約10%であった</p> <p>③ 鹿児島県指宿市の例（1995年12月13日の大津波）          ・津波発生後約15分経過後、避難指示が発令されたが約20%の避難者          ・津波発生から避難開始までの平均時間は約10分であったが、避難完了は約20分を要した          ・津波発生時の津波避難率は約10%であった</p> <p>【資料-521②】津波避難率</p>  <p>【資料-522②】“避難勧告”</p>
	<p>◇なぜ、避難しなかったのかワークシートに記入し班で話し合ってみよう。</p> <p>【正常化の偏見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たぶん大丈夫だろう。</li> <li>・いつも避難しなくても大丈夫だから。</li> </ul> <p>【集団同調性バイアス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな避難していないから。</li> </ul> <p>【エキスパート・エラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家などが大丈夫だといったから。</li> </ul> <p>【経験にとらわれる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の地震では津波はここまでこなかった。</li> </ul>	<p>○【ワークシート-52②】に記入させる。</p> <p>○避難勧告や避難指示が出ていても避難しない人が多いことを確認する。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>◇実際に津波注意報が発表されたときの住民の意識調査結果を見てみましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>【資料-523②】を配付</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難しなくても大丈夫だと思った人が多い。</li> <li>・津波は小さいと決めつけている人も多い。</li> <li>・津波の被害を思い浮かべているのに、自分には危険が及ばないと思うところが不思議である。</li> <li>・自分達の意識とさほど変わらないように思う。</li> <li>・50cmの津波なら防波堤もあるから大丈夫と思ってしまおうだろう。</li> </ul>	<p>○発言が出尽くしたところで、【資料-523②】を提示する。</p>  <p style="text-align: center;"><b>【資料-523②】釜石市民の意識調査（震災前）</b></p>
	<p style="text-align: center;"><b>【資料-524】～【資料-526】を提示</b></p> <p><b>【資料-524】</b> 正常化の偏見 思い込みによって頭が非常事態であるという認識に切り替わらない状態のこと</p>  <p><b>【資料-525】</b> 集団同調性バイアス 多数派意見が正しいと思いつつ込むこと</p>  <p><b>【資料-526】</b> エキスパート・エラー 専門家の指示をうのみにしてしまっただけで招いた最悪の結果のこと</p>  <p>◇これらの心理の中で、自分に当てはまると思うものはありますか。</p>	<p>○自分達が出した考えと比較させる。</p> <p>○【資料-524】の理由や生徒の発言をとらえながら、災害発生時の人々の心理を、【資料-525】～【資料-526】を用いて整理する。</p> <p>※避難行動を妨げる要因は、この他にも考えられる。</p> <p>○挙手で自分に当てはまる内容を確認させることによって、災害時に誰もが陥りやすい心理状態であることを実感させる。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>◇どんな状況であれば避難行動を起こせるでしょうか。グループで話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難している人がいれば、自分もついていける。</li> <li>・東日本大震災を思い出して、最悪を考えて行動する。</li> <li>・想定や経験にこだわらない。</li> <li>・みんながきちんと避難すると思うことができれば、自分も避難できる。</li> </ul> <p>◇みなさんがそういう状況を作りましょう。上富田中学校生徒が率先避難すれば、周りの人も避難し始めます。釜石市の中学生や小学生は避難訓練を通して、直ぐ行動できるようになっていたからこそ、東日本大震災の中で多くの人を助けることにつながったのです。次はあなたたちの番ですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【ワークシート-52②】に記入させる。</li> <li>○4名程度のグループで意見交換させたあと、全体で考えを共有させる。</li> <li>○災害時に陥りやすい心理を踏まえて考えるようアドバイスする。</li> <li>○いずれも、津波避難3原則に帰結することを気付かせる。</li> <li>○東日本大震災では、釜石東中学校の生徒が、小学校の生徒や地域の住民に対する率先避難者であったことを知らせる。</li> <li>○頭で理解していても行動に結びつけるのは簡単ではないという発言を認めつつ、災害時には率先して避難行動をしようとする意欲が大切だという意識を持てるよう励ます。</li> <li>○2011年9月の紀伊半島大水害のように、上富田町では津波よりも、大雨による富田川の氾濫や土砂災害の危険性の方が高いことも確認し、率先避難の重要性を認識させる。</li> </ul>
【まとめ】	<p>3 授業を振り返り、考えをまとめる。</p> <p>◇ワークシートに授業の感想を書きましょう。</p> <p>◇さて、今、非常ベルが鳴ったらどうしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【ワークシート-52②】に記入させる。</li> <li>☆災害時に陥りやすい心理を理解できたか。</li> <li>☆これらの心理を理解したうえで、災害時に率先避難者として行動しようという意識を持てるようになったか。</li> <li>○発問を投げかけるだけに留め、実際に避難行動をとることの難しさを再度認識させる。</li> </ul>

### 3 その他資料（出典）

- ・【資料-522②】はNHK岡山放送局HPから引用
- ・【資料-524】～【資料-526】は山村武彦「人は皆『自分だけは死なない』と思っている」（2005 宝島社刊）

## もし災害に遭遇したら

中学校（ ）年（ ）組（ ）番・氏名（ ）

避難勧告や避難指示が出ても避難しない人が沢山いる現実があります。なぜ、避難しないのでしょうか。考えて見て下さい。

避難率 宮城県気仙沼市 (H15) 1.7%

三重県尾鷲市 (H16) 8.4%

宮城県釜石市(H18) 8.7%

岡山県岡山市 (H23) 1%以下



どんな状況があれば避難行動を起こせるのか考えてみよう。



授業の感想を記入しよう。

# 中学校（5-3②） 一印南町立印南中学校一

## Ⅲ 先人の経験に学ぶ A 語り継ぐ責任 【学級活動 1時間】

### 単元名「地震・津波から命を守る」

#### 1 目標

- ・津波被害を経験し乗り越えてきた先人の考えや思いを理解し、津波被害の経験や記録を未来に伝える方法などを考える。

#### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 本時の課題を把握する。</p> <p>◇東日本大震災で釜石市の小中学生には犠牲者がほとんどいませんでした。津波による犠牲者をなくすために、人々はどのような努力をしてきたのでしょうか。</p>	<p>【スライド】印南中学校「語り継ぐ責任」を順に投影</p> <p>○女川町では人口の8%に当たる827人が犠牲になった。その町にある女川第一中学校の震災後の取り組みを紹介。</p> <p>○全国に残された津波災害碑を紹介 大きな災害があるとそれを後世に伝えるための努力は各地で行われてきた。</p>
	<p>2 印南の南海地震災害をふり返る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料-53②】【ワークシート-53②】を配付</p> <p>◇過去の南海地震の名前と印南での災害状況はどうでしたか。 ワークシートの1に記入する。</p> <p>3 伝承が災害軽減につながることを理解する。</p> <p>◇印南に残る津波災害記録は印定寺の合同位牌と合同墓碑ですが、この災害で印南の人々はどういう教訓を得ましたか。 ワークシート2に記入しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大地震がおこったらその後すぐに大津波がやってくる。」という教訓を得た。</li> </ul> <p>◇安政南海地震のときに印南は地震津波による死者は出ませんでした。これは宝永の教訓が地域で生きていたからだと思われませんが、資料の中の森家文書と東光寺記録にそれを示すところを捜しましょう。 ワークシート3の文書にアンダーラインを入れましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安政『今年6月の夜明け頃地震に驚き、これは津波が来るといだし、その頃より宝永4年の10月4日の津波に流死者が多数あったと別紙に写されたとおり、印</li> </ul>	<p>【スライド】印南中学校「語り継ぐ責任」を投影</p> <p>○南海地震の歴史をふり返り、印南での被害を簡単に確認する。</p> <p>○生徒が朗読する宝永南海地震の印定寺合同位牌裏書きを聞く。</p> <p>○安政、昭和南海地震の資料を示す。</p> <p>○被災の程度は地震発生状況（発生時間、津波の到達時間や規模）や地域性が関係しているが、過去の体験が十分に伝わったときとそうでない場合に大きな差が出ることを理解させる。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇） 予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>定寺石碑に書かれていることを見だし心の準備をしていた』『津波が来ると云われたら、このあたりの人々は身一つで逃げ去る覚悟ができています』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教訓が伝承されていたからすぐに行動できた。</li> <li>・ 昭和『地震後夫は浜に出た』『津波の知らせを受けて逃げる』『地震後すぐに逃げないで津波の侵入で初めて逃げ始めた。』 → 伝わっていない。</li> </ul> <p>4 伝承が伝わらない原因を探りこれからの伝承のあり方を考える。</p> <p>◇宝永に比べ安政の記録は7点になり多くなっているにかかわらず、昭和の南海地震では津波による犠牲者が16名も出てしまいました。どうして増えてしまったのか、班に分かれて話し合しましょう。小川さんの覚書と日下さんの記録を参考に原因を考えましょう。</p> <p>ワークシート4(1)(2)に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安政の時の死者が0であったので、油断していた。</li> <li>・ 記録が各家に埋もれ、地域の共有情報とならなかった。語り継がなかった。</li> <li>・ 津波が来るのが早かった。</li> <li>・ 津波の怖さを知らない人が増えた。</li> <li>・ 戦争が終わった後で混乱していた。</li> <li>・ 江戸時代と明治以降の知識伝達のしくみが変化した。学校が知識伝達の主となり、防災教育は行われなかった。</li> </ul> <p>◇伝わらなかった原因をふまえて、災害記録を未来へ確実に伝えて行くために、みなさんはどうしたらいいでしょうか。再度話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分達が大人・親になったときに子どもにきちんと伝える。</li> <li>・ 地域の避難訓練に参加し、今日学んだことを伝える。</li> <li>・ 広川町のように津波祭をする。</li> <li>・ 法要を再開する。</li> <li>・ 子どもに必ず伝える努力をする。</li> <li>・ 紙芝居「印南のキセキ」を地域で上演する。</li> <li>・ 保護者や地域の人にも集まってもらって、学習発表会をする。</li> </ul>	<div data-bbox="932 622 1399 965" data-label="Image"> </div> <p>○班に分かれて話し合う。</p> <p>○概要を発表ボードに記入させる</p> <p>○問題提起になるような内容があれば、発表させ全体で話し合う。資料や経験を基に根拠を明らかにしながら意見を出させる。</p> <p>○話し合いで出た方法を発表ボードに転記し、代表に発表させる。</p> <p>○大阪市大正区や広川町の例をあげて、伝承には継続する努力と同時に伝える「しくみ」も必要であることを示す。</p> <p>☆班員と話し合っ、行動に移せる具体的な方法等を考えることができたか。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【819H】	5 学習を振り返る。 ◇まとめを記入し、あわせて感想を書く。	○これまでの南海トラフ地震では、必ず津波が印南町を襲っていることから、当事者意識をもって感想を書かせる。

### 3 指導にあたって

当地は海岸線が入りくむなどの地理的な条件により古くから地震・津波の襲来を受け、そのたびに大きな被害を被ってきた歴史がある。平成23年3月1日に東北地方太平洋沖地震が発生し、東日本に未曾有の被害をもたらした。また、本県では同年9月に台風12号による紀伊半島豪雨が起り大規模な土砂災害や河川の氾濫等で死者・行方不明者合わせて61名の犠牲者を出した。当地では、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震、局地的に起こる大きな風水害から子どもの命はもちろんのこと、住民の命を守るために防災教育を徹底していかなければならない。

当校では平成17年度から5年間にわたり生徒による津波研究班を結成し、「印南湾における津波の挙動」をテーマに津波の高さや浸水域等を調査してきた。平成22年度からは、これまでの津波研究を生かして地域住民の命を守る「津波防災の取組」へと移行してきた。これらの取組の成果は、町公民館印南分館や区長会から依頼を受けてその都度地域住民に発表してきた。地震・津波を想定した避難訓練は年数回実施し、あらゆる状況下でも「自分の命は自分で守る」ことを基本として率先避難の行動力を育てている。例えば平成24年9月には、生徒の下校時に地震・津波襲来を想定して避難訓練を行ったりもした。また、生徒会で地区会を組織し、定期的に「各地区の避難場所」「各地区の連絡網」や「家族の避難場所」の確認も行ってきた。

生徒は、このような取組を通して津波避難や自助の意識は高まっている。今後はその蓄積を生かし、学校として今まで以上に組織的、意図的、計画的、継続的に防災教育を行い、避難訓練等を充実させ、行動力を鍛えていく必要がある。また、地域の自主防災組織による避難訓練などへの積極的参加で、地域リーダーの一人としての期待に応えていく必要がある。

本単元は和歌山県教育委員会から平成23年12月に出された「和歌山県防災教育教材・津波防災教育指導の手引き」をもとに、理科、特別活動〔学級活動、学校行事（健康安全・体育的行事）、生徒会活動〕の指導で総合単元的な学習として計画した。教材は、身近な地域の資料等を発掘して活用することにより、印南、和歌山の歴史的な魅力や先人の経験、考えや思いを理解し、語り伝えることができるように工夫したい。

指導方法、指導形態については、チームティーチングやグループ協議等を取り入れ、意見交換やコミュニケーションを重視した指導を心がけたい。そうすることにより、個々の生徒の理解や経験の違いを乗り越えて「地震・津波から命を守る」行動力を高めることができると思う。

### 4 単元の指導計画（全7時間）

- |                                    |         |
|------------------------------------|---------|
| (1) 地震による災害を知る（理科）                 | 1時間     |
| (2) 対処行動を知る 津波から避難方法を知る（学級活動）      | 1時間     |
| (3) 対処行動を知る 避難できない人間の心理を知る（学級活動）   | 1時間     |
| (4) 避難訓練をする 火災、地震・津波を想定し行動する（学校行事） | 3時間     |
| (5) 先人の経験に学ぶ 語り継ぐ責任（学級活動）          | 1時間（本時） |

### 5 単元の目標

- (1) 地震・津波から命を守るための知識を身に付け、命を守ることができる。
- (2) 避難訓練に積極的に参加しようとする態度を育てる。
- (3) 先人の経験や資料を基に、教訓を伝える大切さを理解するとともに、語り継ぐ態度を育てる。

【ワークシート-53②】

■Ⅲ 先人の経験に学ぶ A 語り継ぐ責任

年 組 番 名前( )

1 過去の南海地震の名前と印南での災害状況 空欄に適切な数字や言葉を入れなさい。

2 悲惨な宝永地震災害から印南ではどのような教訓を得ることができただろうか。

3 安政南海地震のときに印南は地震津波による死者はでなかった。これは宝永の教訓が地域で生きていたからだと思うが、資料の中の森家文書と東光寺記録にそれを示すところがあればそこへアンダーラインを入れなさい。

### 森家文書

また回旋磯場漁船流失したり破損した舟が数艘あったが、流死者は一人もいなかった。皆山上に逃げ上り命が助かったのである。今年 6 月の夜明け頃地震に驚き、これは津波が来ると言いだし、その頃より宝永 4 年の 10 月 4 日の津波に流死者が多数あったと別紙に写されたとおり、印定寺石碑に書かれていることを見だし心の準備をしていたがこれも氏神のお蔭である。他の所に舟で出た者も怪我や難がなかった。何時も大地震があればすぐに津波が来ると心得て高いところに逃げ去ることが大事である。

以上は後の世に大地震が来たときも人々の命が助かり事を願って短文だが書き残しておく。

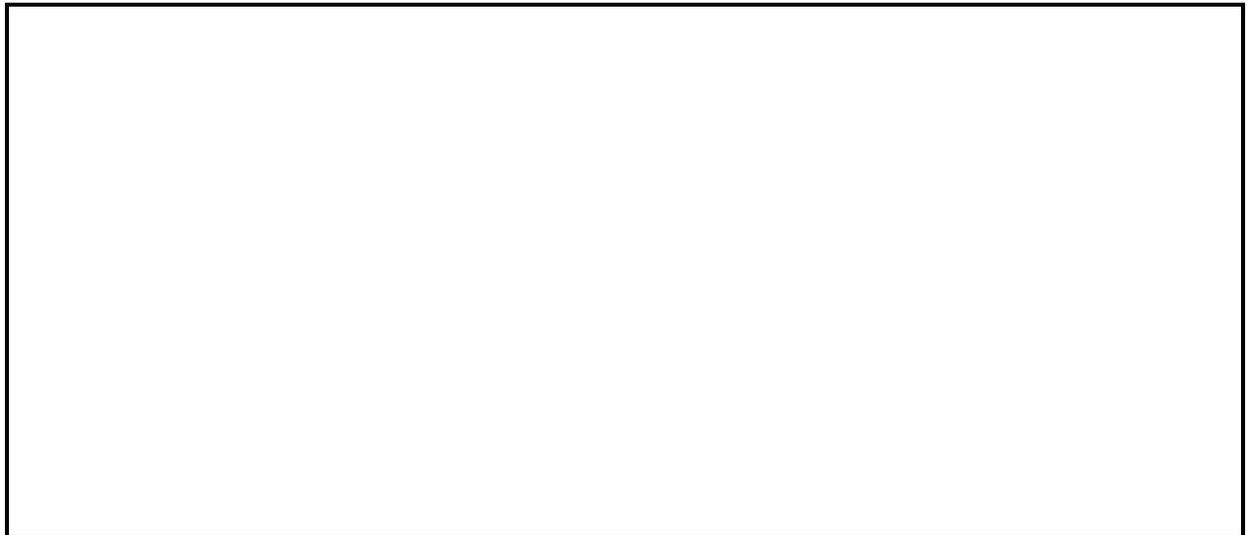
### 東光寺過去帳記録

嘉永七年(安政元年)6月14日に珍しく大地震があった。夜中の1時頃から朝方まで3,4度ゆった。驚いた。汐の引きも近頃珍しい引き方をしたもので、津波が来ると云われたら、このあたりの人々は身一つで逃げ去る覚悟ができている。同年11月4日朝の10時頃に大地震がゆった。潮は珍しい引き方をした。翌5日午後4時頃に大地震がゆって間もなく大津波が来た。西よ東よと北南よと、思い思いに逃げていった。その声は骨身にとおった。言うも愚か、語るも涙、命惜しさに山を住み家とした。人々はその日暮らしをした。

4 宝永に比べ安政の記録は7点になり多くなっているにかかわらず、昭和の南海地震では津波による犠牲者が16名も出てしまいました。どうして増えてしまったのか、班に分かれて話し合しましょう。小川さんの覚書と日下さんの記録を参考に原因を考えましょう。



5 伝わらなかった原因をふまえて、災害記録を未来へ確実に伝えて行くためにみなさんは、どうしたらいいでしょうか。話し合いの要点を書いておきましょう。

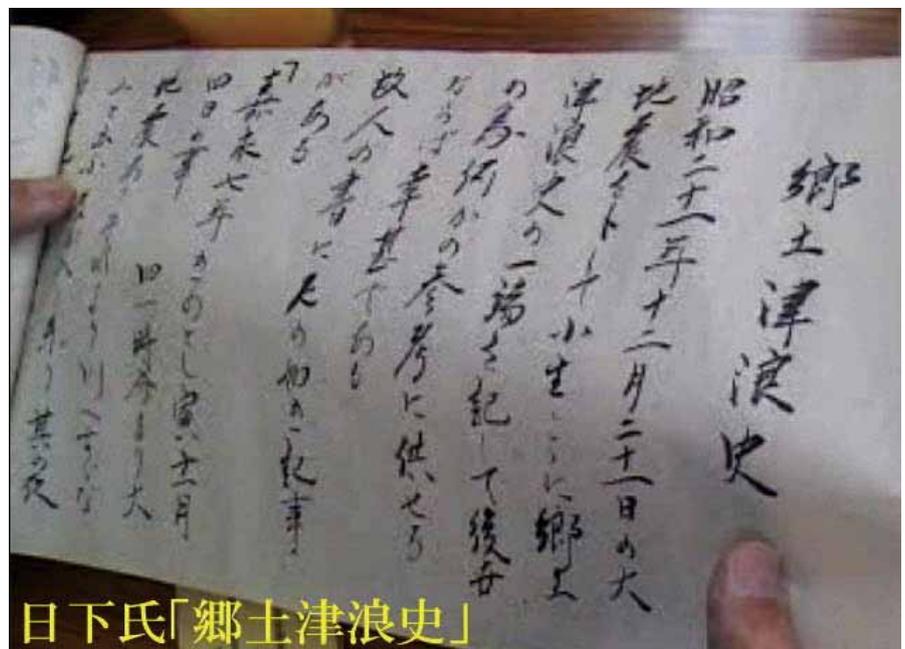


感想



## 印南に残る過去南海地震・津波の記録

- 宝永 ①印定寺 合同位牌裏書き  
②津波溺死者合同墓碑記録
- 安政 ①森家文書  
②東光寺過去帳記録  
③本郷かめや(古川薬局)倉庫板壁の記録  
④片山宇一郎家(地方)津波・物価記録  
⑤最勝寺記録(山口)  
⑥玉置善右衛門記録(地方)  
⑦桶屋與兵衛(よへえ)の息子戎(えびす)屋楠次郎(12才)記(地方塩田家蔵)
- 昭和 ①印南町史通史編に詳細記録  
②昭和21年津波覚書「横島に流されて」小川キミエ(本郷)  
③郷土津浪史 日下善右衛門(浜東)  
④印定寺 震災横死者之靈位裏書き



## 【宝永の記録】

### 印定寺合同位牌裏書き

ああ、時は宝永4年10月4日の昼1時頃、大地震おおじしんが数回起こり、山が崩れ、地面は砕け、人々はみな大混乱した。

午後2時頃に、山のような津波がうねりながら押し寄せてきて家財があつという間に流されて、行方知れずになってしまった。前代未聞ぜんだいみもんのことだ。ことごとく波にさらわれ皆漂ただよい溺おぼれてしまった。哀かなしいことに親子兄弟はあつという間に離ればなれになってしまった。およそ162人の老若男女ろうにやくなんによが流され亡くなり、水の泡と消えて、和歌の浦の波のように帰らぬ昔となってしまったのだ。

近くで見た人も遠くで聞いた人も、たいへん哀あわれに思ったのである。

13回忌に当たる享保4年10月4日 印定寺八代天誉忍然てんよにんねんがここに記す。

## 【安政の記録】

### ◎森家文書

11月5日午後4時頃より大地震があつて人々は驚いているうちに、西の方に天まで響く大きな音がするやいなや引き潮しおなしに津波が上がってきて、何度も満ち引きがあつた。日暮れ時分に湾の半分が干上がったあとに大波が来た。ただし波の高さは札場の辻で3尺(1mほど)、恵比寿神社階段で2段と少し。印定寺の門柱もんちゆうで1尺2寸(40cmほど)あつた。波は椎之木しのき(今の印南中あたり)にまで達した。浜側は家が少々流失し、大破した家が多かつた。印南川の両側の家は残らず流失したが、印南橋の本郷側南詰めに破損の家が1軒残つた。また回旋磯場漁船かいせんいそばが流失したり破損した舟すうそうが数艘あつたが、流死者は一人もいなかった。みな山上さんじょうに逃げ上り命が助かつたのである。今年6月の夜明け頃地震に驚き、これは津波が来ると誰かが言いだしたので、その頃に宝永4年の10月4日の津波に流死者が多数あつたと紙に書かれていたが、印定寺石碑に同じ事が書かれていることを見つけだし心の準備をした。これも氏神うじがみのお

かげ  
陰である。他の所に舟で出た者も怪我<sup>けが</sup>や災難はなかった。大地震があればすぐに津波が来るといつも心得ていて、高いところに逃げ去ることが大事である。しかも晴れて海に異変がなく波も高くななくても、大水が出て川の堤防<sup>ていぼう</sup>が切れるときのように津波は上がってくる。印南湾に羽網場<sup>はねあば</sup>の舟がつながれていたが、引き潮の時に破船<sup>はせん</sup>し湾の西に舟が少々残った。

以上、後の世に大地震が来たときも人々の命が助かる事を願って短文だが書き残しておく。

## ◎東光寺過去帳記録 (過去帳余白に記された記録)

かえい  
嘉永七年(安政元年) 6月 14日に珍しく大地震があった。夜中の1時頃から朝方まで3, 4度ゆった。驚いた。汐<sup>しお</sup>の引きも近頃珍しい引き方をした。津波が来るといわれたら、このあたりの人々は身一つで逃げ去る心得をしている。同年 11月 4日朝の10時頃に大地震がゆった。汐は珍しい引き方をした。翌5日午後4時頃に大地震がゆって間もなく大津波が来た。人々は西へ東へ北へ南へと思ひ思ひに逃げていった。その声<sup>ほねみ</sup>は骨身にとおるほどだった。言うも愚か、語るも涙なことであった。命惜<sup>いのちお</sup>しさに山を住み家とした。人々はしばらくその日暮らしをした。

## 【昭和の記録】

### ◎昭和 21年津波覚書「横島に流されて」 小川キミエ 本郷

地震後夫は浜に出た。私も津波のしらせを受け4歳の男の子を背負い、小学校6年生の女の子の手を引いた。しかしまたたく間に家は倒され、親子3人家がもろ共に川に浮かぶことになった。流された家の柱を片手に抱えたから命が助かったが、この間印南川の口を何回も津波と共に往復した。やがて横島まで流された。その間海面は家具や酒樽<sup>さかだる</sup>等が流れて身の危険にさらされたが、運よく3時間後、鳥賑漁<sup>い か</sup>に来ていた浜部落の中西吉太郎<sup>きちたろう</sup>さんに助け上げられた。その時片手に抱いた長女は既<sup>すで</sup>に死亡していたが背中<sup>あ げ</sup>の長男は無事であった。やがて地方部落の坂口辰之助<sup>たつのすけ</sup>さんの鳥賊釣船<sup>い か っ づ り ぶ ね</sup>に移され、午前8時に浜に上った。漂<sup>ひょうりゆう</sup>流中は一心に神仏

に祈りつづけた。夫は浜よりの帰途、附近ふきんの柿の木につかまり一命ひろを拾ったが祖母は避難途中で死亡した。

## ◎郷土津浪史 日下善右衛門 浜東

昭和21年12月21日の大地震のようすを描いて、私はここに郷土津浪史の一端いつたんを書き残す。後世のため何らかの参考にしていただければ幸である。

### —中 略—

昭和21年12月21日午前4時19分、左右動の大地震、素足寝巻すあしねまきで飛び出し、瓦かわらの落下等を防ぎながら、落ち着いてしばらくして家に入った。まずあかりを灯ともして足を洗い服をきて少しあと、その間約12、3分、突然川方面より津波の大声に倉に米を出しに行き表に行った時、流速約13メートル毎秒(時速約50km)の波が浜より入ってきた。その時すでに邦子くにこ(妹)と武次たけじ(弟)が飛び出していた。すぐに米を投げ捨てて裏より出た時、祖父、父、姉と私と母の順にたがいに取り合っていた。祖母が裏より武次らと同方面に行った。森定もりさだの所へ来たとき腰までずぶ濡れで、また浜よりの波が強く歩けず、祖父の号令ごうれいと共に引き返し増田さんの2階へ上がり、約3分ほどで水が引いたので、私は彼ら3人を探すために石橋さんの家のあたりへ来た。その間、流れ込んできた物が道をふさいでいて、それを回り、あるいはころびしながら行ったが誰も見つけることができなかった。しかたなく家へ帰り服を着がえ、すぐ要害山ようがいさんへ行けばたくさんの方がたき火をしていてその中に祖母と武次を発見したが、邦子は見あたらなかった。聞けば我慢がまんできず逃げ出したようだが、邦子の行方は全く不明であった。

### —後 略—

その後邦子さんは地方の路地裏で死体になって発見されました。約50cmほどの津波に足を取られ流されて溺れたようです。

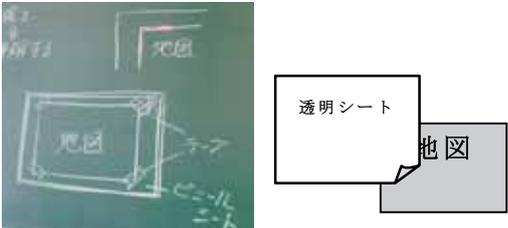
# 中学校（5－4） — 海南省立下津第一中学校 —

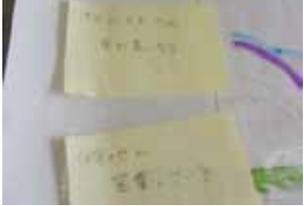
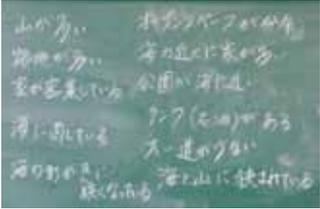
## II 対処行動を知る D 様々な避難方法を考える 【総合 2時間】

### 1 目標

- 災害図上訓練（D I G）を通して、地域の特徴を理解する。
- 災害発生時の被害や避難について考察することができる。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 D I G（ディグ）とは何かを知る。 ◇ D I G（災害図上訓練）について説明します。 D：Disaster（災害）      dig：掘る I：Imagination（想像） G：Game（ゲーム） →「防災意識を掘り起こす。」 「災害を理解する。地域を理解する。」</p> <p>2 D I Gの準備をする。 ◇ D I Gを行うのに必要なものを配ります。 ＜準備物＞ 地図（2500分の1程度の地図）、透明シート（地図の上に敷き、油性ペン等で書き込む）、油性ペン（太字・細字両用の12色セットがおすすめ）、消去薬（油性ペンの消去用（ベンジンのほか、OA用ティッシュペーパーやマニキュア用除光液、液状シップ薬でも代用可）、筆記用具、黒板（ホワイトボードなど）、ティッシュペーパー（油性ペンのふき取り用）、セロハンテープ、付箋紙、ドットシール（丸形のカラーシール）、地域の災害ハザードマップなど ◇机の上に、D I Gができるように、地図の準備をします。</p> <p>3 D I G進行のルールを確認する。 ◇これから課題を出します。よく聞いてグループで作業や話し合いをしてください。  ◇グループで楽しく、元気よく、自由に意見交換をしましょう。</p>	<p>○ D I Gとは何か、なぜD I Gを行うのかを説明する。</p>  <p style="text-align: center;">【資料-541】D I G</p> <p>○ 事前にグループ分けをし、準備物も分けておく。</p>  <p style="text-align: center;">【資料-542】準備物</p> <p>○ 手順を口頭で伝えながら、地図と透明シート等の確認を行う。</p>  <p style="text-align: center;">【資料-543】シートの使い方</p> <p>○ ファシリテーター（教師）の指示に従って、グループで課題を進行していくことを確認する。</p> <p>○ D I Gに正解はないことを確認し、自由に発言、意見交換ができる雰囲気づくりに心がける。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>4 基本地図をつくる。</p> <p>◇自然条件を確認し、地図に色を付けていきましょう。 (例)海岸線・河川・ため池…青</p> <p>◇地域の構造を確認し、地図に色を付けていきましょう。 (例)幅員が広い道路…紫 狭い道路(幅 2m 以下)…ピンク 鉄道…黒 オープンスペース…黄緑色</p> <p>5 地域の特徴を知る。</p> <p>◇地域の特徴を考え、付箋紙に書き込み、地図上に貼っていきます。</p> <p>◇グループで出された意見を発表し、他のグループと意見交換をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山が多い。</li> <li>・家屋が密集している。</li> <li>・路地が多い。</li> <li>・海の形が湾になっている。</li> <li>・海に面している。</li> <li>・幅員の広い道が少ない。</li> <li>・海と山に挟まれており、平野部が少ない。</li> </ul> <p>6 地域の「人的・物的防災資源」を確認する。</p> <p>◇地域の公共施設や避難場所、病院などを確認し、ドットシールを貼ります。 (例)官公署などの災害救援・対応にかかわる機関・施設…青●シール</p> <p>医療機関…黄●シール 地域防災において役立つ施設…赤●シール 地域防災にとって重要な人材…緑●シール</p>	<p>○書き込む条件・課題を、進行状態を考えながら順次伝えていく。</p>  <p>【資料-544】DIG①</p> <p>☆地域の特徴をとらえられるように、地図上にきれいに色をつけられたか。</p> <p>○学習している地域の特徴を十分に把握できるように確認する。</p>  <p>【資料-545】DIG②</p> <p>○出された意見を板書する。</p>  <p>【資料-546】DIG③</p> <p>☆地域の特徴を理解することができたか。</p> <p>○ファシリテーターは、事前に「人的・物的防災資源」の場所を把握しておく。</p>  <p>【資料-547】DIG④</p>

	<p style="text-align: center;">学習活動と内容</p> <p style="text-align: center;">主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p> <p style="text-align: center;">支援（○）と評価（☆）</p>
【展開】	<p>7 地域の具体的な被害を考える。</p> <p>◇設定した災害における被害を予想して付箋紙に書き込み、地図上に貼ります。</p> <p>◇グループで出された意見を発表し、他のグループと意見交換をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細い路地が家屋の倒壊で通れなくなる。</li> <li>・石油工場があるので、大規模火災が起こる。</li> <li>・川幅が狭いので、津波が来た場合水位が急に高くなる。</li> <li>・船が津波によって陸地に打ち上げられる。</li> </ul> <p>8 図上で避難経路を確認する。</p> <p>◇条件設定を行い、災害発生時の避難経路を確認する。</p> <p>◇避難経路を、地図を使って、グループごとに発表する。</p>	<p>○災害の設定を行う。</p> <p>(例)地震・津波 風水害 土砂崩れ</p>  <p>【資料-548】DIG⑤</p> <p>○予想される被害を想定しておく。</p>  <p>【資料-549】DIG⑥</p> <p>☆災害発生時の被害を考察することができたか。</p> <p>○災害の種類や程度、発生時刻などを決定しておき、課題設定を行う。</p> <p>(例)午後3時に大規模な地震発生。 30分後に津波の来襲が予想される。 午前4時に集中豪雨のため、河川が氾濫した。</p>  <p>【資料-550】DIG⑦</p> <p>☆災害発生時の被害を考察することができたか。</p>
【まとめ】	<p>9 まとめをする。</p> <p>◇DIGで地域の様子や避難経路をイメージできたと思いますが、実際に自分達で確かめた方がいいですね。タウンウォッチングを行い、地域の人達にも有効な避難マップを作っていきましょう。</p>	<p>○防災意識・関心を高めたところで、タウンウォッチング等に発展させる。</p>  <p>【資料-551】DIG⑧</p>

### 3 広川町立広小実践

広川町立広小 5年生 総合的な学習の時間

単元名 「立ち上がれ 災害から」

#### 1. 単元目標

- ・避難所生活を疑似体験する中で、避難所で生活するために必要なものや互いに配慮し協力することの大切さに気づくとともに、防災意識を高めることができる。
- ・避難所での人々の思いをもとに、人々にとって大切なものは何かという課題を、自分なりの考えをもとに、課題解決にあたることができる。
- ・課題に対して、自分なりの考えのもとになるものを探し、まとめたものを相手に分かるように伝えることができる。
- ・自分の考えを膨らませるために、他の人々から学ぶことを大切にする。

#### 【市民性の目標】

- ・今やるべきことを一生懸命取り組むことができる。(自立)
- ・目標に向かって、自分をよりよく高めることができる。(自立)
- ・自他を大切にし、お互いの考えを尊重し合う。(共生)
- ・協力して、学習や活動に取り組むことができる。(共生)
- ・集団の規律を守り、地域の活動に積極的に参加する。(社会参加)
- ・学校や地域のために役に立とうと行動する。(社会参加)

#### 2. 単元構想 (全70時間)

評価の観点・・・●かかわる力 ★問題解決力 ◆表現力  
 評価方法・・・【 】

段階	子どもの意識の流れ	教科・道徳・特活	評価
課題把握	<p>家や道路が流され、町がなくなる。津波がこんなに恐ろしいとは、知らなかった。身を守る。家具の固定をする。津波が来るかもしれないので逃げなければならない。</p> <p>日曜日に家族みんなです話合った。八幡神社に逃げることになった。</p> <p>聞きたいことを考えよう。</p> <p>避難所生活は大変だ。電気はつかないし、水もない。食べるものは十分なのかな。</p> <p>テレビだけでは分か</p>	<p>①総合的な学習の時間 防災 (24時間)</p> <p>1. 東日本大震災について話し合う。</p> <p>2. 災害から命を守るためには、どうしたらよいかを考える。</p> <p style="text-align: center;">堤防掃除</p> <p>3. 家族会議を開く。</p> <p>4. 家族会議で話し合ったことを発表する。</p> <p style="text-align: center;">避難訓練</p> <p>5. 広川町の防災対策について話を聞く。</p> <p>6. 避難所について考える。</p> <p style="text-align: center;">堤防掃除</p> <p>7. 自然教室で学びたい</p>	<p>●災害の怖さを知り、命の大切さに気づき、実感できる。【ノート】</p> <p>★災害後に困ることを調べることができたか。【ノート】</p> <p>●ボランティアの人の話を聞いて、防災意識を高めることができたか。【ノート】</p> <p>★避難所について考えることができたか。</p>

らないことがいっぱいあるんだ。

広川町も避難所を考えている。避難所はどんな対策をしているのか。

避難所生活は大変そう。私たちも実際に体験してみよう。

テント作りや朝食作りを頑張りたい。

みんなと力を合わせて頑張りたい。

乾パンとスープだけでは辛いな。

やっぱり温かいみそ汁はおいしいな。元気が出てくる。

多くのことを学んだ。避難所生活は大変だということが分かった。

水、食べ物、家、お金、仕事、強い意志。でも、なんといっても助け合い、支え合いたい。

図書室で資料を集めよう。

パソコンでも調べてみよう。

みんなに分かりやすく伝えるためのまとめ方を工夫してみよう。

自信を持って発表しよう。

みんなの発表を聞いて、自分の意見をまとめよう。

ことを考える。

8. 自然教室の計画を知る。

百年後のふるさとを守る

特別活動（2日間）  
1. 非常時にどのように身を守るか。（講義、実習）  
2. 避難所での生活（講義、実習）  
3. ボランティアの基礎（講義、実技）

②総合的な学習の時間  
防災（30時間）

避難訓練

1. 自然教室を振り返る。
2. 災害から立ち上がるためには何が大切なのかを考える。（ウェビング図）
3. 個人の課題を決める。
4. 課題について、調べ追求する。
5. 調べたことをまとめる。
6. 発表をし合う。
7. 「自助、共助、公助」について考える。

稲むらの火祭りに参加

堤防掃除

「もったいない」（道徳1時間）

避難訓練に向けて

避難訓練

命の時間  
道徳1時間

★自然教室で学びたいことを考える。【ノート】

◆災害から立ち上がるために何が大切かを意識しながら、振り返ることができたか。【ノート】

★災害から立ち上がるために何が大切かについての課題を考えることができたか。【ノート】

★自分の課題を解決するための方法を考えることができたか。【ノート】

★学んだことを分かりやすく伝える方法を選んでまとめることができたか。【発表物】

◆友だちに伝えるように話すことができたか。【発表】

追求

<p>発信</p> <p>広川町の防災対策についてもっと詳しく知りたいな。</p> <p>地域に自主防災組織があるのかな。どんな活動をしているのだろう。</p> <p>防災対策について学んだことをまとめたい。</p> <p>稲むらの火の館にはたくさんの人が訪れるので、私たちの冊子を展示してもらいたいな。</p>	<p>③総合的な学習の時間 防災（16時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広川町では災害から身を守り、立ち上がるためにはどんなことをしているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織について</li> <li>・社会の仕組みについて</li> <li>・避難所について</li> </ul> </li> <li>2. 意見文を書く。</li> <li>3. 冊子にする。</li> <li>4. 地域に発信することについて考える。</li> </ol>	<p>避難訓練</p> <p>社会（7時間） マスコミ</p> <p>避難訓練</p>	<p>◆社会の仕組みについて理解することができたか。 【ノート】</p> <p>★一年間を振り返って、学んだことを論文に書くことができたか。 【書いた物】</p>
--	---	---	---

### 3. 実践記録

#### ① 「東日本巨大地震について、思ったことや考えたことを話し合う。」

2011年3月11日に東日本に巨大地震が起こった。和歌山県にも津波警報が発表された。その様子を子ども達も映像や新聞を通して見ている。まず、一人一人が地震や津波について感じたことを書き留め、意見交換した。子どもたちは、「地震や津波がこわい。町がめちゃめちゃになり、家族をなくし、命を奪う。他人事ではない。家族と離ればなれになったらいやだ、など自分の思いを書き留めていた。近い将来起こるといわれている南海トラフ地震、災害から身を守るためには日頃どのような備えが大切なのかを、みんなで考えていくことになった。

#### ② 「命を守るために災害前にどのような備えをしておかなければならないのか」

まず、一人一人がノートにどのような備えが大切なのかを書き、グループで意見交換した。非常持ち出し袋の用意、安全な避難経路、タンスの固定、避難所の確認、避難訓練に参加など、たくさんの意見が出された。

#### ③ 「家族会議を開こう」

前時の意見を基に家族会議で話し合っておきたいことをグループで出し合った。その結果、\*避難場所を確認する。\*避難経路を決めておく。\*待ち合わせ場所の3つに決まった。一人一人が家族会議を開いて、話し合い、確認した。

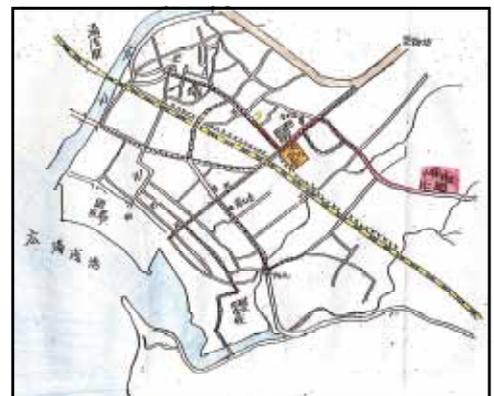
#### ④ 「広の地図に、自宅から八幡神社までの道に色を塗り、避難経路を確かめよう」

避難経路を地図に表すことで、逃げる道を再確認できたようである。「真っ先に八幡神社へ、家に引き返さない、」など、家族でいい話ができようだ。津波がくるときは、より早く、より高いところに逃げ、命を守るということを確認し合った。

#### ⑤ 「広川町の防災対策はどうなっているのだろう」

各家庭では、非常持ち出し袋の準備、タンスの固定、家族会議等、災害への備えをしている。では、広川町ではどんな防災対策をしているのだろうかということで、町の防災対策について調べる事になった。

まず、グループになって、防災対策を出し合い、その後、全体で確認し合った。災害前、災害時、災害後の対策に分けた。避難所が多いということ、役場が避難所になっているけど、海



の近くなので大丈夫なのかなという意見が出された。そこで、広川町の防災対策について、今どんな対策をしているのか、尋ねてみることになった。

### 広川町の防災についての質問内容

1. 広川町には、4つの堤防がありますが、今の堤防で津波は防げるのですか。また、何メートルまで防げるのですか。
2. 赤門、銀門が閉じたら、みどり区の人たちはどうなるのでしょうか。 等々

#### ⑥ 「広川町防災対策担当者の話を聞こう」

広川町の防災対策を聞いて、町民の命を守るために、上記の質問内容以外に訓練の大切さや日頃から人と人とのつながりを大切に、高齢者や体の不自由な人、困っている人には声をかけ合い、近所や地域で支え合うということ学ぶことができた。また、地震時には「自分は大丈夫」ではなく、とにかく高台に逃げる事が大事であることも学び、防災意識を高めることができた。



#### ⑦ 「避難所生活の写真を見て気がついたことを話し合おう」

広川町には避難所が56カ所用意されている。災害後に家を失うと避難所生活を余儀なく強られる。避難所生活の写真を見て、避難所生活とはどういうものなのか話し合うことにした。

- ・体育館は広いが、人がいっぱい狭い。自由に動けないようだ。
- ・食料がなくなったら、どうするのだろう。
- ・シートの上に座っている。落ち込んでいる。

避難所生活の一枚の写真から、避難所生活の大変さに気づくことができた。そんな避難生活の一部を自然教室で疑似体験することを伝えた。



#### ⑧ 「自然教室で避難所生活をして学びたいことを書き留める」

- ・自然教室で避難所生活を疑似体験をするに当たって、何を学びたいのかを一人一人めあてをもって参加できるように考えた。
- ・いつもの普通の暮らしと何が違うのか、汗だくだくなのにシャワーがないのはどんなにつらいのかを学びたい。

#### ⑨ 「自然教室で避難所生活を体験しよう」

目的・・・災害が起きた際の生活について体験する。

##### 1 自然教室シナリオ

20XX年8月30日未明、太平洋沖で巨大な地震があった。東海、東南海、南海が同時に起き、三連動といわれる巨大地震だ。広の町にも11mを超える津波が襲い、町を呑みこんだ。

町の人たちは、浜口梧陵翁の知恵で高台に逃げ命は助かった。しかし、ライフラインは寸断され、町は壊滅状態になった。太平洋岸各地に被害は及び、東京、名古屋、大阪も大きな被害を受けた。特に和歌山県沿岸の被害は甚大で国道、JRも寸断され物資の移動も人の移動もままならないような状態である。

今回の自然教室はこの状態で子どもたちがどのように避難所で対応するのかを学ぶ場にした。

##### 2 設定

- (1) 津波の後の避難所である。
- (2) ライフラインは寸断されている。(基本的に電気、水道がない)
- (3) 被災日(1日)は簡単な非常食しかない。
- (4) 翌日、救援物資が届く。

### 3 強調点

- (1) 衣・食・住が確保される。
- (2) 衣食足りたあとで、かかわることができる。

#### 〈自然教室で学んだこと〉

## 衣食住があれば、人間は生きていける。

#### 【テントの張り方、たたみ方】【寝袋の使い方】

- ・協力することの大切さが分かった。協力があればできる。
- ・すごく力があるが、みんなと支え合った。
- ・短時間でできるので、災害の時でも便利だった。



#### 【ロープの結び方】

- ・ロープは災害時いろいろなところで役立ち、結び方を覚えておいたら、たくさんの人を助けることができると思った。
- ・ロープで棒と棒を結ぶことで家具（3本の木が椅子に）を作ることもできる。

#### 【担架とけがをしたときの応急処置】

- ・手当の仕方を身につけると人を救うことができる。
- ・たくさんの人を助けたい。
- ・身近なものでできるので、もしも何もなかったとしても人を救えるので便利だと思った。
- ・やり方も簡単だったので絶対活用したい。



#### 【火おこし】

- ・細かい木ほど火がつきやすい事が分かった。
- ・紙のように薄く切る。
- ・利き手には軍手をささず利き手でない方に2枚重ねてさすことで、万一の事を考えて二重にしておく。
- ・マッチのつけ方で、向きを変えようとつけやすい。
- ・体と手で風を防ぐことが分かった。
- ・少しの工夫で大きな炎を出すことができた。



#### 【旗のあげ方 降ろし方】

- ・旗を大切にすることを学んだ。



自然教室で擬似避難所体験をして、避難所生活は不自由で大変だったこと、いかに家があり、着る物があり、食べる物がある当たり前の生活が幸せかを感じることができたようだ。テントを立てる、寝袋をたたむ、炊き出し等を通して、協力することの大切さを、4つの実習、ロープ、国旗、担架・三角巾、火おこしを体験する事で、技術を身につけておけば、いざというときに命を守ることにつながるし、同時に、人を助け、支え合うことにもつながっていくことを学ぶことができた。

#### ⑩ 「避難所生活をして大変だなと思ったことは何だろう。」

自然教室をして、避難所生活の大変さを考え、発表し合った。

衣	食	住	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えるときが、1回しかなかった。</li> <li>・シーツや寝袋の片付けが大変</li> <li>・服が汗くさくて気持ちが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちゃんとした食べ物がそろっていない。</li> <li>・乾パンがおいしくなかった。</li> <li>・救援物資が届いていな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほんの少しの場所で、ご飯を食べたり、服を着たり、寝たりと、少ないスペースで何もかもしなければならぬので、とて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前のことができないくなる。</li> <li>・避難所生活全て</li> </ul>

悪い。 ・寝袋がかたくてうすい。	かったら、何も食べる ものがないので、本当 に大変だと思った。 ・乾パンとスープだけで はお腹がすく。	も大変だ。 ・お風呂がないので大変 ・ライフラインが止まって いる所 ・テントの中は狭い。
---------------------	---	---

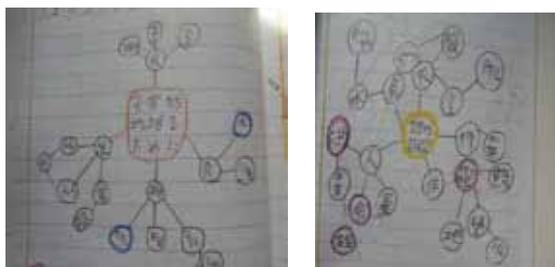
「衣」では、昼間汗をかいたのに、お風呂に入れず、気持ち悪かったということである。

「食」では、やはりお腹がとってもすいたようである。乾パンは飽きてくるし、のどが渇くし、ちゃんとした食事がとれないのはとてもつらかったようである。朝ご飯のありがたさを痛感したようだ。

「住」が一番多かった。テントの中は狭く、身動きがとれなかったようだ。避難所体験は大変で、特に東日本大震災に遭われた人々の気持ちがよく分かったと、感想を述べた子もいる。

### ⑪ 「災害から立ち上がるために、一番必要なこと、大切なことはなんだろうか」

自然教室で避難所体験をして、困ることがたくさんあった。災害から立ち上がるためには一番必要なことは何かをウエビング図を使って一人一人書き留めた。主に衣、食、住の3つをポイントにして考えた。



### ⑫ 「課題を決めて、調べる方法を考えよう」

課題	人数	調べる方法
・食料について	4人	インターネット
・食料と衣服について	3人	本や資料
・住まいについて	2人	テレビの防災番組
・ボランティアについて	3人	新聞
・家族について	11人	人に聞く
・支援物資について	3人	自分で考える
・お金について	2人	家族に聞く

災害から立ち上がるために、一番必要なことは何かを、一人一人よく考えて決めることができるよう、時間を確保した。理由も書かせた。同じ課題の人も多いが、まず一人で調べた。調べる方法は、主にインターネットと自分なりに考えるである。

### ⑬ 「課題について、調べよう」

東日本大震災の記事や復興についての内容が多かったので、そこからヒントを得るようにした。

インターネットで検索しても自分が調べたい内容がなかなか見つからず、苦労したところもあった。災害から立ち上がるために自分なりに自分の課題についてどう思うかを考え、文や図に書き表した。



### ⑭ 「調べたことを、まとめよう」

課題ごとにグループとなり、一人一人が調べたことを出し合い、そこからテーマに沿ってまとめることにした。まとめ方は、1. テーマの理由、2. 調べた内容、3. 調べて分かったこと・感想の三つの流れを確認した。発表し合うことを前提に、聞き手に分かりやすいようにまとめること、そのために、見出しを考える、要点をまとめ内容が重複しないよう整理する、図や絵を用いて、グラフを使用する、番号をそろえる、ポイントに色を使うなど、指導した。

## テーマ 災害から立ち上がるためには、「家族」が大切

#### 1. 理由

災害から復興するときに、家族がいなければ不安からパニックを起こしてしまい、ス

トレスもたまってしまう。家族がいると安心だし、協力し合えるから必要である。立ち上がる勇気もてる。家族が一番大切だ。

## 2. 調べたこと

### 家族がいると

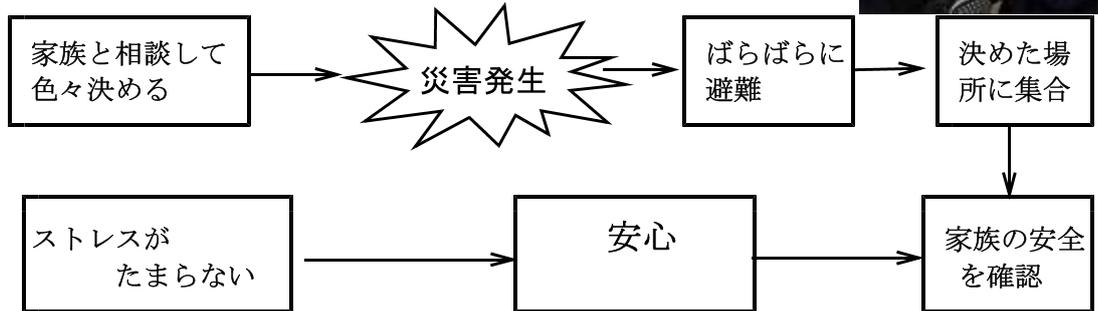
- ・協力し合える。
- ・気軽に話すことができる。
- ・安心できる。笑顔をくれる。
- ・支えてくれる。
- ・一緒に悩みを解決してくれる。

### 家族がいなかったら

- ・家族がいないと、食事や洗濯に困る。
- ・相談してくれる相手がなくなる。
- ・家族がいないと独りぼっちになり、不安になる。
- ・悲しくなって、どうやって生きていけばいいかわからなくなる。

災害後に家族と再会できるためには、

- ・家族と持ち出し品を準備しておく。
- ・普段から地域とのつながり、家族とのつながりを深めておく。
- ・連絡方法や避難所、避難経路など、家族で決めておく。



## 3. 分かったこと 感想

- ・家族について、話し合い思ったことは、家族がいないと、不安が増えることだ。例えば、気軽に話せる人がいなくなったり、一緒に生活をしていけなくなる。だから、身近にいる家族は、とても大切だと思う。
- ・私にとっては、家族が一番大切で、もし家族がいなくなったら、何もできなくなってしまう。家族で避難場所を決めたり無事を知人や家族に伝えておくことは、家族と会うためには一番大切なので、家族はとても大事だと言うことが分かる。
- ・家族は私たちにとっては大切な存在だ。家族や知人友人が見つかったら、とても嬉しい。

## ⑮ 「発表会をしよう」



支援物資



家族



ボランティア

発表会前には、グループで分担して、発表練習をした。発表会では、聞き手を意識して、声の大きさを大切にされた。発表後に質問を聞いた。聞き手は、発表内容の感想、学んだことを書きとめた。発表会では質問はあまりなく聞くことが中心であったが、一人一人感想や学びを短時間にしっかり書くことができていた。

「家族が大切」では、心の支え、心のよりどころとなり、いるのといないのとでは生きる力が違ってくる。困ることがあれば、いつでも相談でき、心を元気にしてくれる。災害後に家族と自分の命を守り、災害から立ち上がるためには、災害前の備えが大切で、話し合いが命を守ることになるということを学ぶことができた。

「食料と衣類が大切」では、生きるために一番食料が必要で、衣類も寒さなどで、身を守るためになくてはならないことを学んだ。ライフラインがストップした時、非常持ち出し袋の大切さも学んだ。

「支援物資の大切さ」では、たくさんの物に人々のやさしさがつまっていることを学んだ。

「住まいの大切さ」では、息が詰まる避難所のつらさに比べ、プライバシーを守れる自由になる所がほしくなり、まず仮設住宅で、最後に個人の家が必要になることを学んだ。

「お金」が大切では、最初は、支援物資をもらえるが、日が経つにつれお金が必要になる。お金があれば、何でも買うことができ、自分の家を建てる時にも、お金が必要であることを学ぶことができた。

「ボランティアが大切」では、一人だと瓦礫の処理など大変で、絶対人の力がないと復興はありえないこと、また、片付けなどの仕事だけでなく、お年寄りや子どもたちの励ましとなり、悲しい人々の心の支えや励ましになることも学ぶことができたようだ。

### ⑩ 「みんなの発表をきいて、災害から立ち上がるためには何が大切なのだろうか」

発表が終わって、今一度災害から立ち上がるためには何が大切なのかを考え、話し合った。

自分の調べた課題が大切だと思う人、「家族」から「支援物資」に変わった人、等、様々であった。特に、心の支えになる家族と一緒にいれば、お金や物がなくても困難を乗り越えることができるという意見が多かった。発表後に増えたのが、「ボランティア」である。災害から立ち上がるのには、人の助けなしに復興はできないし、人は生きる希望を与えてくれるということだ。生きるための食料や衣服、支援物資等の物と不安な心を満たしてくれる両面が立ち上がるためには大切だということに気がついた。そして、話し合いからみんなが調べた事がどれも必要であるという、結論に至った。そこで、災害直後からどれが一番大切なのかを時系列にして考えることにした。

### ⑪ 「時系列で、災害から立ち上がるために大切なことを考えよう」

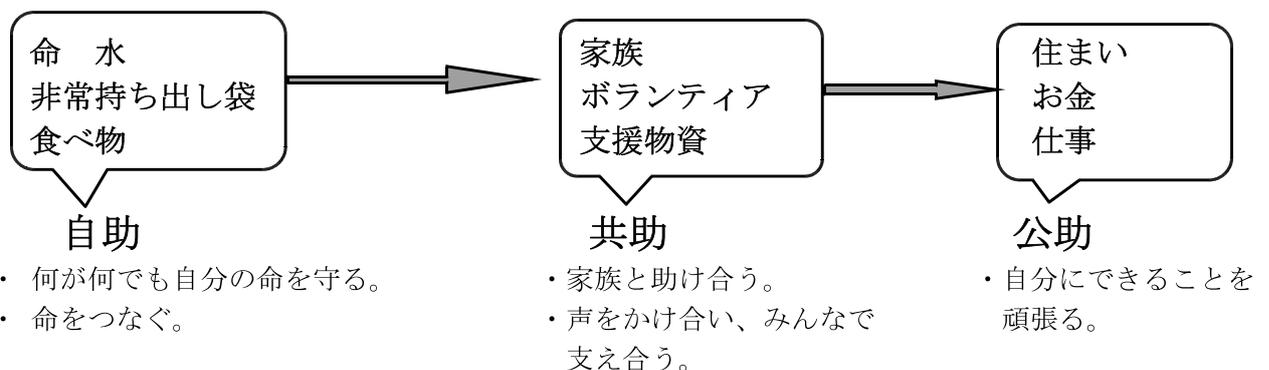
地震直後に必要な物は、非常持ち出し袋が大切だと思います。次に必要なのは、家族です。家族がいると安心できます。協力、支え合い、助け合いもできます。次に必要なのは、ボランティアです。自分たちだけで出来ないことが、ボランティアがいると、できるようになります。そして、復興するときに必要なのは、住まいだと思います。やっぱり、自分達の住む場所が必要だと思います。

時系列に並べることで、災害から立ち上がるために何が大事なのか、何が必要なのかを、想像しながら、書きとめることができた。自己の課題を「家族が大切」と言った人の中には、真っ先に家族を探す、家族の安否を確認しないと何もできないと言う人がいた。

### ⑫ 「災害から立ち上がるために大切なことを図に表そう」

国語の「百年後のふるさとを守る」で学習した自助、共助、公助の順に、みんなで話し合いながらまとめた。「仕事」について出てこなかったが、お金を得るためには、仕事がほしい、働かなければ生きていけないし、普通の生活ができないということになった。

【 命を守る 】 → 【人と助け合う】 → 【国、県、町が助ける】



⑱ 「上の図を見て、災害から立ち上がるとは、どういうことだろうか」

- ・災害から立ち上がるということは、災害が起きてから、みんなで命がけで協力し合って、本当の暮らしにもどるとのことだと思います。
- ・災害から立ち上がるということは、町の人や家族と助け合うということだと思います。なぜかという助け合うことが一番大切だと思うからです。
- ・災害から立ち上がるとは、自助、共助を大切にすることだと思う。

⑳ 「広村復興のために力を尽くした浜口梧陵から学ぼう」

1854年の安政の大地震で、大きな被害を受けた広村を復興させた梧陵の考え方や生き方をビデオを通して再確認し、学んだ。9年前に放映された「その時、歴史は動いた」の番組である。解説者として国語の本ののっている「百年後のふるさとを守る」の作者である河田恵昭氏が出ている。

東日本大震災後の復興中の今、160年前の梧陵さんの偉大さを改めて感じたようである。

「百世の安堵をはかれ」を見て、ぼくはもっと命を大切にしようと思いました。梧陵さんは冷静で良かったと思います。安政南海地震から160年経った今、次に南海トラフがこわいから、非常持ち出し袋とかいろいろ備えようと思いました。もし今来たら、早く「率先避難者たれ」になって、八幡神社へ行こうと思いました。これからは備えておきたいと思いました。

㉑ 「“立ち上がれ災害から”の学習を通して学んだことを冊子にして、地域に発信しよう」

この一年間、「立ち上がれ 災害から」をテーマにして学んできたことをどのようにしてまとめて地域に発信していきたいかを話し合った。広小のホームページにのせる等の意見もあったが、冊子を作って、「稲むらの火の館」に展示し、地域の人々は勿論、日本各地から見学に来られた人に見てもらおうということになった。

#### 4. 成果と課題

##### 【市民性の目標】

###### 自立

授業の初めに一時間一時間のめあてを知らせ、書きとめ、学習してきた。だから何を勉強するのがはっきりしたので、どの子も一生懸命前向きに取り組むことができた。しかし、「自分をよりよく高める」という点においては、個人差があり、受け身的な態度が目立った。

###### 共生

ほぼ誰とグループになっても協力して話し合いや、作業をすることができる。同じ課題どうしがグループを組み、調べたことをまとめる時も、男女仲良く取り組めた。

###### 社会参加

この一年様々な地域の行事に参加し、地域と深く関わることができた。しかし、集団の規律を守り、挨拶などできるかということ、そうではない。全体で挨拶ができて、個人ではできないのが現状である。「稲むらの火祭り」においては、「自他を大切に、人の話を聞く」を意識して、参加させたい。

##### 【かかわる力】

自分の考えを膨らませるために、他の人々から学ぶことを大切にする。

- ・グループ活動を通して、友達とかかわることができ、話し合いも道筋からそれることなく取り組めることができる。
- ・「家族会議をする」課題があり、ほとんどの子が休日などに家族と話し合いを持つことができ、避難経路、避難場所を確認、決定することができた。

##### 【問題解決力】

避難所での人々の思いをもとに、人々にとって大切なものは何かという課題を、自分なりの考えをもとに、課題解決にあたることができる。

## 課題設定

「災害から立ち上がるためには、一番何が必要か、大切な」の課題設定は自然教室の体験をもとにして、考えることができた。まず、避難所生活で実際に困ったことを出し合った。その後、「復興するために一番大切なことは何か」をウエビング図に書き表し、イメージを膨らませ理由も示し、一人一人課題を見つけることができた。しかし、中には友達の発言に影響されたり、思いつきのまま決めたりしたため、理由づけが浅くなってしまった子もいた。

## 課題解決方法・課題追求

問題の解決手段としては、インターネット、本、資料、テレビ、体験者に聞く等を挙げた。昨年度の反省を踏まえ、「体験者に聞く」を一番にして調べたいと思い、岩手県の小学校に交流依頼をしたが叶わず、結局インターネットに頼るしかなかった。しかし、検索しても即自分の課題に結びつく資料はなく、内容も浅くなってしまい問題解決には限度があった。課題追求を充実させるためには、単元構想の見直しや単元計画を早めに綿密に立てておく必要がある。

## 表現力

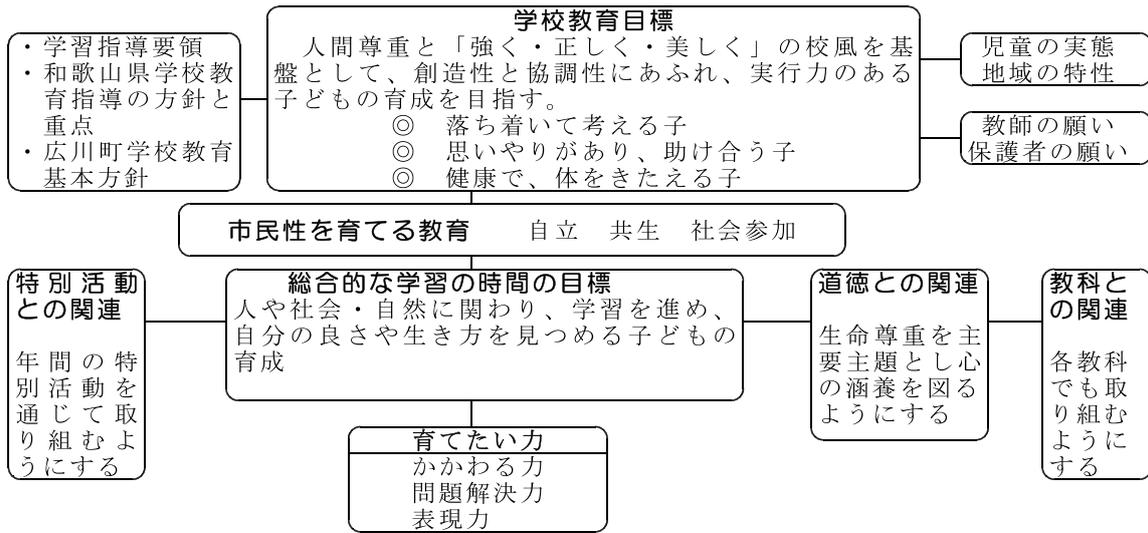
課題に対して、自分なりの考えのもとになるものを探し、まとめたものを相手に分かるように伝えることができる。

書くことを重視してきたので、一時間一時間の授業の中で、課題に対して自分の考えや思いを書くことができた。それをもとに発表し、学び合いを深めることができた。ノートを見ると一年間の取り組みが分かり、学習した内容、思考の流れを思い出すことができ、比較することができた。

避難所生活を疑似体験する中で、避難所で生活するために必要なものや互いに配慮し協力することの大切さに気づくとともに、防災意識を高めることができる。

広川町の防災対策について防災担当者の方々に近い将来起こると言われている南海トラフの大地震や津波の大きさ等、具体的な話を聞くことで、どの子も危機感を持ち、非常持ち出し袋の用意、家族会議の必要性、八幡神社に避難すること、避難訓練の大切さなど、防災意識を高めることができた。

また、自然教室では、今復興中の東北の人たちの大変さを少しでも感じることもできたようだ。また、講義から、地震や津波がどうやって発生するのか、地震が起きて何分後に地震が来るのか弱い地震でも津波が来ることを知り、いつ来てもいいように備えの大切さを学んだ。

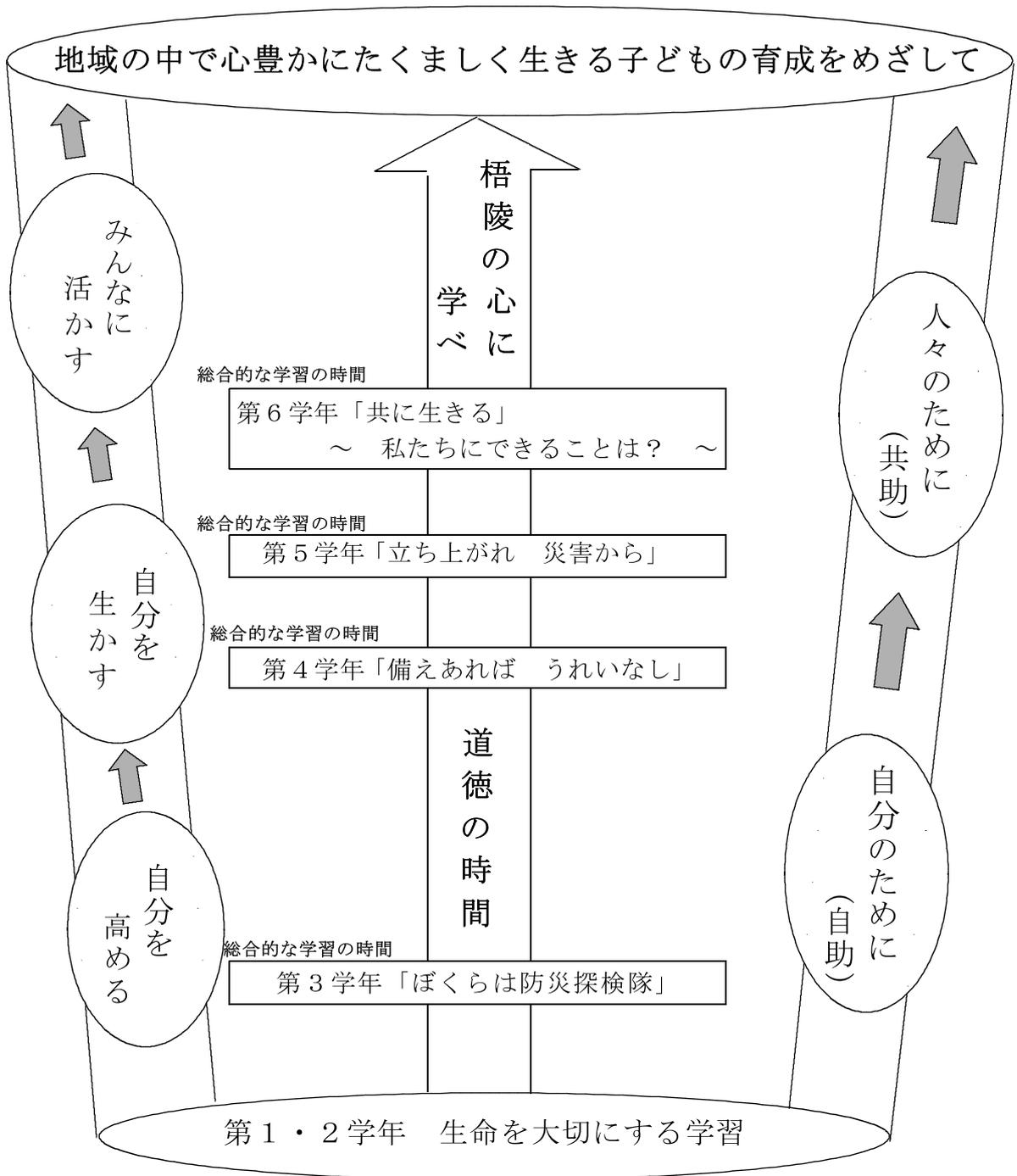


学年	中 学 年	高 学 年
目標	<p><b>かかわる力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や身近な社会、自然現象に意欲的にかかわることができる。</li> <li>・自分の役割を自覚し、他と協力して活動することができる。</li> </ul> <p><b>問題解決力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験をとおして自分が調べたい課題を見つめることができる。</li> <li>・調べ方、方法を考え、計画を立て活動を進めることができる。</li> <li>・集めた情報を整理しながら学習を進めることができる。</li> </ul> <p><b>表現力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを、考えたことを図や表にまとめることができる。</li> <li>・分かったことを相手に分かりやすく伝える。</li> </ul>	<p><b>かかわる力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の身近な社会、自然現象に疑問や興味関心をもつことができる。</li> <li>・互いに力を出し合い、思いやりをもって協力することができる。</li> </ul> <p><b>問題解決力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験をとおして、自分の追求する課題を見つめることができる。</li> <li>・計画を立て、課題を追求する方法を見つめることができる。</li> <li>・必要な情報を選択し、効果的に活用したり整理したりしながら学習を進める。</li> </ul> <p><b>表現力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が調べたことを分かりやすく伝えることができる。色々な表現方法から分かりやすい方法を選び表現できる。</li> </ul>
内容	<p><b>防災</b></p> <p>第3学年「ぼくたち防災探検隊」</p> <p>第4学年「備えあればうれいなし」</p> <p>それぞれをとおして防災意識を高め、かかわる力・問題解決力・表現力を育てる。</p>	<p><b>防災</b></p> <p>第5学年「立ち上がれ災害から」</p> <p>第6学年「共に生きる 私たちができること」</p> <p>それぞれをとおして防災意識を高め、かかわる力・問題解決力・表現力を育てる。</p>
評価	<p>かかわる力 (地域、身近な社会、自然現象にかかわる力、協力する力等)</p> <p>問題解決力 (課題を見つめる力、方法を選択する力、情報を分析する力)</p> <p>表現力 (まとめる力、伝える力)</p>	

**地域などの人材活用・教育機関との連携**

- ・地域の名人、ゲストティーチャー、大学の先生など
- ・地域の施設（公民館、役場など）
- ・地域の放送局や新聞など

防災学習の系統図



※第1・2学年の「生命を大切にする学習」は、生活科を核とし、各単元を「生命を大切にする」という観点でとらえ、道徳や他の教科とも関連を図り学習を構成している。

※わかば学級（特別支援学級）での総合的な学習は、生活单元的な学習の中に組み入れ、学習内容については、各学年の防災学習の内容を参考に、当学級の子どもたちの実態をふまえ設定している。

## 4 資料一覧

### ●小学校 1・2 年生

- 【ワークシート-11】「つなみからいのちをまもろう」
- 【ワークシート-12】「つなみからいのちをまもろう」
- 【ワークシート-13】「つなみからいのちをまもろう」
- 【ワークシート-14】「教室・家の中の安全な場所を見つけよう」
- 【ワークシート-14②】「あんぜんに ひなんするには・・・」
- 【ペープサート】男の子の子
- 【資料-121】釜石市立鶴住居小学校の被災写真
- 【資料-122】参考：山寺の写真
- 【資料-123】参考：裏山の写真
- 【資料-124】参考：避難ビルの写真
- 【資料-141】被災教室の写真
- 【資料-142】壊れたブロック塀の写真
- 【資料-143】倒壊した家屋の写真
- 【資料-144】崩落した道路の写真
- 【資料-145】教室の絵
- 【資料-146】家の中の絵
- 【資料-147】訓練用緊急地震速報
- 【資料-148】ペープサート台本

### ●小学校 3・4 年生

- 【ワークシート-21】「津波関連標識」
- 【ワークシート-22】「土砂災害を学ぼう」
- 【スライド】「土砂災害を学ぼう」
- 【ダイジェスト版】「土砂災害を学ぼう」
- 【資料-211】標識 A
- 【資料-212】標識 B・C
- 【資料-213】昭和南海地震・津波被害の写真（田辺市の様子）
- 【資料-214】昭和南海地震・津波被害の写真（海南市の様子）
- 【資料-215】和歌山県シミュレーションによる  
津波第一波ピーク到達時間
- 【資料-216】参考：南海トラフの巨大地震による想定津波
- 【資料-217】参考：津波避難場所〇〇山の写真
- 【資料-218】参考：那智勝浦町にかけられている看板

### ●小学校 5・6 年生

- 【ワークシート-31】「地震・津波から身を守るために」
- 【ワークシート-32】「地震・津波の特徴について」
- 【資料-311】東海・東南海・南海地震の発生時期と発生周期
- 【資料-312】津波の第一波ピーク到達時間
- 【資料-313】参考：南海トラフの巨大地震による想定津波
- 【資料-321】日本周辺に存在するプレートとプレート境界の位置
- 【資料-322】海溝型地震
- 【資料-323】津波の高くなる海岸地形の先端
- 【資料-324】津波の伝わる速さ
- 【資料-325】津波の破壊力

### ●小学校 タウンウォッチング・防災マップ

- 【資料-411】参考：津波避難タワーの写真
- 【資料-412】参考：高台近くの道の写真
- 【資料-413】参考：津波避難場所の写真
- 【資料-414】参考：防朝堤の写真
- 【資料-421】参考：防災マップの例（1）
- 【資料-422】参考：防災マップの例（2）
- 【資料-423】参考：高台へつながる道の写真
- 【資料-424】避難場所の安全レベル

### ●中学校

- 【ワークシート-51】「津波避難三原則」
- 【ワークシート-51②】「津波からの避難方法を知る②」
- 【ワークシート-52】「避難できない人間の心理」
- 【ワークシート-52②】「もし災害に遭遇したら」
- 【ワークシート-53】「語り継ぐ責任」
- 【ワークシート-53②】「語り継ぐ責任」
- 【スライド】印南中学校「語り継ぐ責任」
- 【資料-511】釜石市鶴住居地区津波浸水予測図
- 【資料-511②】避難カード
- 【資料-512】釜石市鶴住居地区 死者・行方不明者居住地分布
- 【資料-513】釜石市立鶴住居小学校の被災写真
- 【資料-514】実際の避難経路
- 【資料-515】被災した避難場所（ございしよの里）の写真
- 【資料-516】避難中の様子の写真
- 【資料-517】次にめざした介護福祉施設の写真
- 【資料-518】津波が迫ってきたときの写真
- 【資料-519】最終避難先の写真
- 【資料-521】2004 年 9 月 5 日紀伊半島沖の地震
- 【資料-521②】津波避難率
- 【資料-522】2004 年 9 月 5 日紀伊半島沖の地震：津波避難率
- 【資料-522②】避難勧告
- 【資料-523】避難しなかった理由
- 【資料-523②】釜石市民の意識調査（震災前）
- 【資料-524】正常化の偏見
- 【資料-525】集団同調性バイアス
- 【資料-526】エキスパート・エラー
- 【資料-527】率先避難者 三重県尾鷲市の例
- 【資料-531】生徒作文「語り伝えよ」
- 【資料-532】シムル島の言い伝え
- 【資料-53②】印南中学校「語り継ぐ責任」
- 【資料-541】～【資料-551】災害図上訓練写真

## ●和歌山県津波浸水予測図

- 【資料451】和歌山市沖ノ島(友が島)
- 【資料452】和歌山市地ノ島、加太地区
- 【資料453】和歌山市西脇地区
- 【資料454】和歌山市北部
- 【資料455】和歌山市北東部
- 【資料456】和歌山市南部
- 【資料457】和歌山市南東部
- 【資料458】和歌山市浜宮地区
- 【資料459】海南市
- 【資料460】海南市下津町
- 【資料461】有田市北部
- 【資料462】有田市南部
- 【資料463】湯浅町
- 【資料464】広川町
- 【資料465】由良町北部
- 【資料466】由良町南部
- 【資料467】日高町北部
- 【資料468】日高町南部
- 【資料469】美浜町西部
- 【資料470】美浜町東部
- 【資料471】御坊市北部
- 【資料472】御坊市南部
- 【資料473】印南町
- 【資料474】みなべ町北部
- 【資料475】みなべ町南部
- 【資料476】田辺市北部
- 【資料477】田辺市南部
- 【資料478】白浜町北部
- 【資料479】白浜町南部
- 【資料480】白浜町日置地区
- 【資料481】白浜町伊古木地区
- 【資料482】すさみ町周参見地区
- 【資料483】すさみ町見老津地区
- 【資料484】すさみ町里野地区
- 【資料485】串本町西部
- 【資料486】串本町中部
- 【資料487】串本町大島
- 【資料488】串本町潮脚
- 【資料489】串本町古座地区
- 【資料490】串本町田原地区
- 【資料491】那智勝浦町南西部
- 【資料492】那智勝浦町中部
- 【資料493】那智勝浦町北東部
- 【資料494】太地町
- 【資料495】新宮市

## ●授業実践事例

- 【授業実践事例-1】小学校5・6年(3-1)王子小学校
- 【授業実践事例-2】小学校5・6年(3-1)三輪崎小学校
- 【授業実践事例-3】小学校5・6年(3-2)三輪崎小学校
- 【授業実践事例-4】中学校(5-1)高田中学校
- 【授業実践事例-5】中学校(5-1)城南中学校
- 【授業実践事例-6】中学校(5-1)光洋中学校

## ●津波てんでんこに関する授業参考事例

- 【授業参考事例-1】小学校低学年(1) 対処行動を知る  
「避難の必要性を知ろう【てんでんこ1】」
- 【授業参考事例-1】小学校中学年(1) 対処行動を知る  
「いろいろな避難場所を知ろう【てんでんこ2】」
- 【授業参考事例-1】小学校高学年(2) 対処行動を知る  
「津波てんでんこを理解しよう【てんでんこ3】」

## ●各学校に配布されている資料・教材

### 【小中学校共通】

- ・和歌山県津波防災教育 DVD「TSUNAMI 津波来襲～その時キミは…～」及び解説書(A4、49頁)
- ・くろしお教育サミット「防災学習ハンドブック(指導者用)」(A4、66頁)
- ・和歌山県・防災啓発 DVD「東南海・南海地震に襲われたら～緊急事態！その時あなたは?!～」
- ・平成23年度和歌山県学校安全教室・講演DVD「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」

### 【小学校】

- ・文部科学省・学校安全資料 DVD「子どもを事件・事故災害から守るためにできることは」
- ・文部科学省・CD-ROM「災害から命を守るために～防災教育教材(小学生用)～」
- ・和歌山県教育委員会・減災教育副読本「命を守る県民減災運動、地震に強いまちづくりをめざして」(5年生及び保護者用)

### 【中学校】

- ・文部科学省・学校安全 DVD「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」
- ・文部科学省・DVD「災害から命を守るために～防災教育教材(中学生用)～」

## ●和歌山県内の石に刻まれた災害記憶記念碑一覧

- 【地震・津波】、【洪水】

## 石に刻まれた災害の記憶 災害記念碑一覧

### 地震・津波

指定	名称	建立年代	所在地	所在地詳細	災害名	参考文献
	北海道地震津波浸水水位	平成3年 (1991)2月	海南市名高	海南駅前広場内	昭和南海地震	『ニュース和歌山』 2012年1月1日付
県指定	大地震津波心得の記碑	安政3年(1856)	湯浅町湯浅	深専寺山門入り口の左側	安政南海地震	『湯浅町誌』『和歌山県文化財ガイドブック下』 p42、新版p88
	感恩碑	昭和8年 (1933)12月	広川町広	広村堤防内	安政南海地震	
	栢陵浜口君碑	明治25年(1892)	広川町上中野	広八幡神社境内	安政南海地震	
国指定 史跡	広村堤防	安政5年 (1858)12月	広川町広		安政南海地震	『和歌山県文化財ガイドブック下』
	津浪之記事碑	文久2年(1862)	美浜町浜ノ瀬	美浜町公民館浜ノ瀬分館裏	安政南海地震	『美浜町史』史料編 p188
	防潮堤		美浜町田井	美浜町若もの広場西側に 広がる防潮林内		
	高波溺死靈魂之墓	享保4年(1719)	印南町印南	印定寺	宝永地震	
	防波堤跡		みなべ町埴田	鹿島神社の南	宝永地震	『南部町史』通史編第三 巻p1118
	北海道地震津波潮位標識	平成17年 (2005)4月	田辺市芳養	国道42号沿い (大神社の向かい)	昭和南海地震	
	防潮堤		田辺市新庄町	旧国道42号道路沿い (山側)	昭和南海地震	
	安政津浪の碑	昭和47年 (1972)春	田辺市新庄町	橋谷天満宮の階段脇	安政南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	安政津浪の碑	昭和47年 (1972)春	田辺市新庄町	北原河内神社境内	安政南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	宝永津波の碑	平成24年 (2012)春	田辺市新庄町	名喜里大湊神社の階段脇	宝永地震	
	安政津浪の碑	昭和47年 (1972)春	田辺市新庄町	名喜里大湊神社の階段脇	安政南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	安政津浪の碑		田辺市新庄町	山祇神社の階段脇	安政南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	北海道大地震津波潮位標		田辺市新庄町	山祇神社の階段脇	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	南海大地震津浪潮位標		田辺市新庄町	新庄駅前	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p83
	南海大地震津浪潮位標		田辺市新庄町	JA紀南新庄支所近く	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p83
	南海大地震津浪潮位標		田辺市新庄町	跡之浦児童公園の敷地内	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p83
	安政津浪の碑	昭和47年 (1972)春	田辺市新庄町	跡之浦稲田神社の階段脇	安政南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	宝永の津波潮位(推定)	平成10年(1998)	田辺市新庄町	東光寺すぐ近くの高架の橋桁	宝永地震	
	津浪之碑		田辺市新庄町	東光寺敷地内	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	南海大地震津浪遭難者供養像		田辺市新庄町	東光寺敷地内	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p101
	安政・昭和南海地震の津浪潮位標		田辺市新庄町	内之浦干拓親水公園内山祇神社内	安政地震・ 昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p116
	南海大地震津浪潮位標		田辺市新庄町	内之浦公民館敷地内	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p83

指定	名称	建立年代	所在地	所在地詳細	災害名	参考文献
	南海大地震津浪潮位標		田辺市新庄町	北長町内会館の近く	昭和南海地震	『復刻 昭和の津浪 付昭和の津浪余録・チリー津波』p83
	岩城惣八夫妻の墓	明治26年 (1893)8月17日	白浜町	網不知の共同墓地の一角	宝永地震・安政地震・昭和南海地震	『紀伊民報』1995年2月7日付
	南無阿弥陀仏 大津浪犠牲者供養塔	昭和36年 (1961)5月24日	白浜町	網不知地藏堂境内	昭和南海地震、昭和チリ沖地震	『白浜町誌』本編下1-p455～
	昭和二十一年十二月二十一日発生 南海道地震による津波の潮位	平成8年 (1996)12月	白浜町	網不知公園内	昭和南海地震	
	昭和二十一年十二月二十一日発生 南海道地震による津波の潮位	平成8年 (1996)12月	白浜町細野	細野会館〔白浜町中央公民館堅田分館〕正面の脇	昭和南海地震	
	昭和二十一年十二月二十一日発生 南海道地震による津波の潮位	平成8年 (1996)12月	白浜町才野	才野会館正面の脇	昭和南海地震	
	昭和二十一年十二月二十一日発生 南海道地震による津波の潮位	平成8年 (1996)12月	白浜町富田	国道42号沿い、交番・消防倉庫の横	昭和南海地震	
	昭和二十一年十二月二十一日発生 南海道地震による津波の潮位	平成8年 (1996)12月	白浜町堅田	立ヶ谷会館敷地内	昭和南海地震	
	正念元心居士(谷三郎左衛門の墓碑)	享保4年 (1719)正月5日	すさみ町周参見	国道42号脇	宝永地震	『すさみ町誌』下-p725
	防潮堤		すさみ町周参見	国道42号付近	宝永地震	
	故志士谷三郎左衛門氏記念碑	昭和2年(1927)7月建立、昭和40年(1965)7月移転	すさみ町周参見	国道42号脇	宝永地震	『すさみ町誌』下-p724
	津浪乃碑		すさみ町周参見	萬福寺境内	昭和南海地震	『すさみ町誌』下-p728/特別展図録『災害と文化財』
	宝篋印塔	享保8年 (1723)10月4日	すさみ町周参見	萬福寺墓地	宝永地震	『日置川災害史』p654、 『すさみ町誌』上巻p635
	「為後鑑」碑		すさみ町周参見	周参見王子神社裏山の大山の頂上	安政南海地震	『すさみ町誌』下-p735/特別展図録『災害と文化財』
	昭和南海地震津波到達標柱跡		串本町橋杭	JRきのくに線ガード下	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町大水崎	サンナンタンランド大水崎踏切前町道	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町矢の熊	土木所長官舎	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町堀	元警察官舎町所有地	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町南	町道電柱横	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町袋	袋バス停前串本財産区所有地	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱跡		串本町袋	石切地藏前	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町二色	にしき園踏切入口	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町二色	二色町営住宅入口	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町高富	釜郷原防火水槽付近	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町有田	大山入口、JRきのくに線有田駅下がり	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町田並	円光寺石垣附近	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町江田	告示板横	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町田子	田子区民会館敷地内	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町安指	安指区民館玄関前	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町和深	和深公民館玄関前	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町大島	個人所有の駐車場	昭和南海地震	
	昭和南海地震津波到達標柱		串本町大島	大島漁協上町道	昭和南海地震	
	吉村宮一組合長「記念碑」		串本町西区	須賀浦集会所西側	昭和南海地震	
	大津波記念之碑		那智勝浦町天満	天満神社境内の鳥居の横	昭和東南海地震	特別展図録『災害と文化財』
	「記念」碑		田辺市本宮町湯ノ峰		安政地震、明治22年水害	

## 石に刻まれた災害の記憶 災害記念碑一覧

### 洪水

指定	名称	水系	建立年代	所在地	所在地詳細	災害名	参考文献
	小野真次頌徳碑	紀ノ川		伊都郡かつらぎ町広口	大宮神社境内	昭和28年水害	
	災害復興記念碑	紀ノ川		紀の川市桃山町調月	大歳神社前	昭和28年水害か	『桃山町誌 歴史との対話』p352
	洪水記念碑	紀ノ川		和歌山市坂田	了法寺境内	明治22年水害	『和歌川』
	災害浸水最高地点碑	紀ノ川		海草郡紀美野町野中	十三神社境内	昭和28年水害	
	大水害の地蔵尊	有田川	昭和29年(1954)	かつらぎ町花園北寺	北寺観音堂の左隣	昭和28年水害	
	紀州大水害記念碑	有田川	平成5年(1993)	かつらぎ町花園北寺	北寺観音堂から100m離れた場所	昭和28年水害	
	花園村水難犠牲者之碑	有田川	昭和53年(1978)	高野町高野山	高野山の境内	昭和28年水害	
	七・一八水害保田復興記念碑	有田川		有田市辻堂	辻堂都市計画公園＝保田児童公園	昭和28年水害	碑文は、『7.18水害保田復興記念誌』p335～にあり
	顕彰碑	有田川	昭和48年7月18日建立	有田市千田	高田峠＝千田神社の県道沿いの鳥居をくぐり、海へ出る坂道になっているところのすぐ道路脇(県道から見上げないとわからない)	昭和28年水害	写真は、『7.18水害保田復興記念誌』の口絵にあり
	水位標	有田川		有田市下中島	島垣内道路傍	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	水位標	有田川		有田市山田原	八王子公園内＝保田橋北詰	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	水位標	有田川		有田市星尾	秋葉山麓登口	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	水位標	有田川		有田市千田	地蔵寺境内	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	水位標	有田川		有田市千田	千田東公民分館敷地内＝千田東公民館	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	水位標	有田川		有田市千田	千田神社＝須佐神社石段登口玉垣内	昭和28年水害	『7.18水害保田復興記念誌』p357
	大水害死者供養之塔	有田川		有田川町小島	当初あった場所から北に50mほどの場所に移転している	昭和28年水害	
	水位標識	有田川		有田川町上中島	上中島公民館から北東に直線で250mほどの有田川沿い	昭和28年水害	
	復興記念碑	有田川		有田川町尾中	尾中公民館の近く	昭和28年水害	
	七・一八水難者供養口	有田川		有田川町長田	浄教寺境内山門入ってすぐ	昭和28年水害	
	水害横死者之碑	有田川		有田川町徳田	国道424号徳田交差点から南西に100m行左折。但し、左折する道は細くてわかりにくい。	昭和28年水害	
	慰霊塔	日高川		日高川町弥谷	美山(川原河)から有田の白馬トンネルに向かう上り坂の左手道沿いにある	昭和28年水害	『和歌山県教育史』第2巻p176～177
	明治水害記念碑	日高川		日高川町若野		明治22年水害	
	道成寺の階段	日高川		日高川町鐘巻		明治22年水害	
	水位標	日高川		日高川町皆瀬	下阿田木神社の階段	昭和28年水害	
	水害之碑	日高川		御坊市藪	茶免の地蔵。茶免橋畔、地蔵堂の脇にある。	昭和28年水害	
	七・一八水害慰霊塔	日高川		御坊市野口	安楽寺	昭和28年水害	
	藤井の耕地復旧記念碑	日高川		御坊市藤田町藤井		昭和28年水害	

指定	名称	水系	建立年代	所在地	所在地詳細	災害名	参考文献
	慰霊塔	日高川		御坊市藺 (名屋の源行寺)		昭和28年水害	
	村田美成の碑	日高川		御坊市藺	浄国寺	明治28年水害	
	水位標	日高川		御坊市藺	御坊市役所	昭和28年水害	
	〔明治22年大水害百周年記念碑〕	会津川		田辺市湊	鬮雞神社近くの田辺市消防団第二分団倉庫脇	明治22年水害	
	〔明治22年大水害百周年記念碑〕	会津川		田辺市湊	蟻通神社の近く (北新町バス停)	明治22年水害	
	明治大洪水記念碑	会津川	平成元年 (1989) 8月20日	田辺市高雄 (会津児童公園)		明治22年水害	
	水難記念碑	会津川		田辺市長野	長野八幡神社境内		
	「富田川災害記」碑文	富田川				明治22年水害	『上富田町史』通史編 -p505
	明治二十二年大洪水水位標	富田川		上富田町岩田	三宝寺門前	明治22年水害	明治22年富田川大洪水推定水位
	明治洪水溺死群霊墓	富田川		上富田町岩田	三宝寺境内	明治22年水害	『上富田町史』通史編 口絵、明治22年富田川大洪水推定水位
	彦五郎人柱之碑	富田川		上富田町岩田カ	彦五郎堤防		『上富田町史』下 -p951
	溺死招魂碑	富田川		上富田町岩田カ	彦五郎堤防	明治22年水害	『上富田町史』下 -p951
	上田万一頌徳碑	富田川		上富田町岩田カ	彦五郎堤防		『上富田町史』下 -p951
	明治洪水溺死者供養塔	富田川		上富田町朝来	円鏡寺境内	明治22年水害	『上富田町史』？
	洪水溺死各霊墓	富田川		白浜町中	共同墓地の近く	明治22年水害	
	明治水害岩崎百年記念供養塔	富田川		上富田町岩崎			
	(洪水供養碑)	富田川		田辺市鮎川	宇立墓地内		
	(洪水供養碑)	富田川		田辺市鮎川	富田川右岸		
	明治二十二年八月大洪水水位	富田川	昭和63年 (1988) 8月	白浜町保呂	厳島神社の鳥居の下にある「老人いこいの家」の脇	明治22年水害	
	明治廿二丑年之水及口	富田川	昭和63年 (1988) 8月	白浜町内川	林翁寺の階段途中の右脇	明治22年水害	明治22年富田川大洪水推定水位
	群霊記念碑	富田川		白浜町内川	林翁寺の境内	明治22年水害	明治22年富田川大洪水推定水位
	安居地区大水害記録水位標	日置川		白浜町安居		明治22年水害、昭和33年水害？	『日置川災害史』口絵
	大古地区大水害記録水位標	日置川		白浜町大古		昭和33年水害	『日置川災害史』口絵
	田野井地区大水害記録水位標	日置川		白浜町田野井		昭和33年水害	『日置川災害史』口絵
	魚の首 犠牲者の慰霊碑	那智川		那智勝浦町井関		平成23年水害	『第31回全国地名研究者大会』p47
	大洪水水位標識	熊野川		新宮市薬師町	清閑院境内	明治22年水害	
	「新宮市犠牲者之霊」碑	熊野川		新宮市熊野川町田長	道の駅「瀬峡街道 熊野川」の敷地内	平成23年水害	
	「大洪水之迄来ル」碑	熊野川		新宮市熊野川町日足	国道168号から熊野川小学校へ数十m上る	明治22年水害	『熊野川町史』通史編 p578
	洪水記念碑	熊野川		田辺市本宮町請川	請川柿地区	明治22年水害	『本宮町史』通史編 -p684
	洪水記念碑	熊野川		田辺市本宮町本宮	旧本宮小学校校庭下	明治22年水害	『本宮町史』通史編 -p685
	洪水記念碑	熊野川		田辺市本宮町耳打	本宮小学校敷地内	明治22年水害	
	「記念」碑			田辺市本宮町湯ノ峰		明治22年水害、安政地震	

## 5 防災関連ホームページ一覧

### ●防災関連の情報を集めるには

#### 内閣府防災担当「みんなで防災」

<http://www.bousai.go.jp/minna/>

市民、学校、企業、町内会、ボランティア、NPO などの皆さまが、防災の取組を考えていただく際に、役に立つ情報やノウハウを提供しているページです。

#### 総務省 消防庁 防災・危機管理 e-カレッジ

<http://open.fdma.go.jp/e-college/index.html>

「チャレンジ!防災48」：テキスト（指導事例）、動画、写真、ワークシート等が満載です。

「こどもぼうさいランド」：子どもたちを対象に身近な危険から身を守る方法を分かりやすく解説しています。

ゲーム感覚で楽しく学ぶことができます。

#### 文部科学省 地震調査研究推進本部「防災教育」

[http://www.jishin.go.jp/main/p\\_bosai.htm](http://www.jishin.go.jp/main/p_bosai.htm)

地震の基礎知識、地震活動の評価等が掲載されています。

「地球キッズ探検隊～地震の謎にせまる～」：地震発生のしくみや地震が起きたらどうすればいいのかなど、動画を用いてわかりやすく説明しています。また地震クイズなど、子どもに親しみやすい内容となっています。

#### 消防防災博物館（財）消防科学総合センター

<http://www.isad.or.jp/cgi-bin/hp/index.cgi>

インターネット上の仮想博物館です。自然災害の基礎知識を学ぶことができます。東日本大震災の写真等、資料も掲載されています。

#### 釜石市津波防災教育のための手引き（群馬大学 災害社会工学研究室 HP より）

[http://www.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi\\_tool/index.html](http://www.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi_tool/index.html)

教科の授業時間中に津波防災教育の話を取り入れる方法、義務教育課程 9 年間を通じた津波防災教育カリキュラムをとりまとめています。

#### 稲むらの火

<http://www.inamuranohi.jp/>

中井常蔵作の「稲むらの火」は、昭和 12 年～22 年にわたり、国定国語読本五年生に掲載されました。

原作小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の「A LIVING GOD」や濱口梧陵についても紹介されています。

#### 独立行政法人 防災科学技術研究所

<http://www.bosai.go.jp/>

専門的な地震データを見るのに役立ちます。

## ●和歌山県の情報を集めるためには

### 防災わかやま「災害に備えて」(和歌山県 危機管理局 総合防災課)

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/index.html>

和歌山県の防災に関する総合的な情報を掲載しています。

### 和歌山県教育センター 学びの丘「きのくに教育iDC」

<http://idc.wakayama-edc.big-u.jp/>

「環境・自然科学」のサイトにて、海南市、広川町、田辺市、串本町などを舞台としたフィールドワークに役立つ教材と、地震・津波発生メカニズムに関する資料を得ることができます。

### 和歌山大学 防災研究教育センター

<http://www.wakayama-u.ac.jp/bousai/>

大学の知的資源を最大限に活用し、学校・自治体等と連携しながら地域防災力の向上を推進することを目的としています。大災害に備え、避難所運営に必要なシステムの開発・防災合宿や防災番組の企画・各種防災講座を開催し、防災教育や防災によるまちづくりプログラムを紹介しています。

### 和歌山地方气象台

<http://www.jma-net.go.jp/wakayama/>

和歌山県の気象特性や過去の災害、防災気象情報の提供を通して和歌山県の自然災害の防止・軽減に努めるとともに、天気予報など必要な情報を提供しています。

### 和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 砂防課

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080600/top.html>

土砂災害とは、大雨や地震などが引き金となって起こる「土石流」、「地すべり」、「がけ崩れ」などの自然災害です。これらの土砂災害を防ぐための対策が「砂防」です。このホームページでは砂防に関する情報を得ることができます。

---

和歌山県

# 防災教育指導の手引き

発行：和歌山県和歌山市小松原通 1-1  
和歌山県教育庁学校教育局健康体育課

---

